

うるま市高齢者の実態把握報告書

(うるま市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画策定資料)

- 高齢者の現状
- 介護保険サービスの実績
- 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果報告

平成 29 年 3 月

目次

第1章 うるま市の高齢者及び介護保険サービスの実績

第1節 市の高齢者の状況	1
1. 人口動態	1
(1) 総人口の推移	1
(2) 推計人口	3
(3) 前期・後期別高齢者人口の推移	4
(4) 推計前期・後期別高齢者人口	5
(5) 第6期計画での人口推計値と実績値の比較	7
2. 世帯の状況	8
3. 就労の状況	9
4. 老人クラブ	11
5. 介護保険の状況	13
(1) 要介護認定者数の推移	13
(2) 要介護度別の認定者数の推移	15
(3) 介護サービスの受給者数の推移	17
(4) 居宅サービス別利用状況	18
(5) 地域密着型サービスの利用状況	21
(6) 施設サービス別の利用状況	23
(7) 給付費の推移	24
(8) 通所介護と地域密着型通所介護	32

第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

第1節 調査の概要について	35
1. 調査概要	35
(1) 調査の目的	35
(2) 調査の対象者と配布件数	35
(3) 調査の方法	35
(4) 調査期間	35
(5) 回収率	35
(6) サンプル数(有効回答数)について	36
(7) 調査項目	36
2. 集計について	38
3. 各種リスクの把握について	39

(1) リスク判定.....	39
(2) 各種リスク判定方法.....	40
第2節 調査結果.....	44
1. 回答者の基本属性等.....	44
(1) 性別、年齢.....	44
(2) 家族構成.....	45
(3) 暮らしの状況（経済的に見て）.....	45
(4) 住まい.....	46
(5) 介護の状況.....	46
(6) 二次予防対象者.....	47
2. 体を動かすことについて.....	48
(1) 運動器の機能低下者（リスク者）.....	48
(2) 転倒リスク者.....	48
(3) 閉じこもり傾向（リスク者）.....	49
(4) 外出の状況.....	50
3. 食べることについて.....	52
(1) 低栄養の傾向（リスク者）.....	52
(2) 口腔機能低下.....	52
(3) 歯の健康.....	54
(4) 孤食の状況.....	56
4. 毎日の生活について.....	58
(1) 認知機能.....	58
(2) IADLの低下者（リスク者）.....	60
(3) 知的能動性の低下者（リスク者）.....	60
(4) 社会的役割の低下者（リスク者）.....	61
(5) 趣味や生きがい.....	62
5. 地域での活動について.....	63
(1) 社会参加.....	63
(2) 地域づくりへの参加意向.....	64
6. たすけあいについて.....	66
(1) たすけあいの状況.....	66
(2) 友人、知人との交流.....	68
7. 健康について.....	70
(1) 主観的健康感.....	70
(2) 主観的幸福感.....	71
(3) うつ傾向（リスク者）.....	72
(4) 喫煙、飲酒の状況.....	73

(5) 疾病の状況	75
8. その他	79
(1) 生活の中で支援を望むこと	79
(2) 健康づくりや介護予防で支援を望むこと	80
9. 地域別リスク者等の状況	81
(1) 前期高齢者と後期高齢者	81
(2) 二次予防対象者	81
(3) 世帯の状況	82
(4) 介助の状況	82
(5) 介護・介助が必要になった原因疾患	83
(6) 就労、外出・移動の状況	84
(7) 地域活動への参加	85
(8) リスク者割合の比較	86
10. 世帯構成別リスク者等の状況	87
(1) 全体的な状況	87
(2) 外出の状況	87
(3) 転倒について	88
(4) 地域活動への参加	88
(5) リスク者割合の比較	89
11. 歯の健康状況別リスク者の状況	90
(1) リスク者割合の比較	90

第3章 うるま市高齢者の実態把握報告書【概要版】

うるま市高齢者の実態把握報告書【概要版】	91
----------------------	----

第4章 考察

考察	103
----	-----

資料編

高齢者介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票	107
----------------------	-----

第1章 うるま市の高齢者及び介護保険サービスの実績

第1節 市の高齢者の状況

1. 人口動態

(1) 総人口の推移

本市の総人口は平成28年10月1日現在122,381人であり、毎年増加で推移しています。

高齢者数(年齢3区分別では老年人口と言う)も総人口と同様に増加を続けており、平成28年は24,669人となっています。

平成24年と28年を比較すると、総人口は2,176人増、高齢者数は3,592人増加しています。

高齢化率を見ると、平成24年は17.5%でしたが年々上昇しており、平成28年には20.2%と高齢者が総人口の2割を超える状況となっています。

高齢化率は全国や県と比べると、全国値(平成28年27.3%)より低く、また県(平成27年19.7%)と比べても若干低くなっています。

表1 人口構成

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	対平成24年比	
うるま市	人数(人)	総人口	120,205	120,860	121,329	121,972	122,381	2,176
		年少人口	21,491	21,373	21,294	21,317	21,270	▲ 221
		生産年齢人口	77,637	77,473	77,289	76,912	76,442	▲ 1,195
		老年人口	21,077	22,014	22,746	23,743	24,669	3,592
	構成比(%)	年少人口	17.9	17.7	17.6	17.5	17.4	▲ 0.5
		生産年齢人口	64.6	64.1	63.7	63.1	62.5	▲ 2.1
老年人口 (高齢化率)		17.5	18.2	18.7	19.5	20.2	2.7	
沖縄県	構成比(%)	年少人口	17.7	17.6	17.5	17.3	—	—
		生産年齢人口	64.6	64.0	63.5	62.9	—	—
		老年人口 (高齢化率)	17.7	18.4	19.0	19.7	—	—
全国(%)	老年人口 (高齢化率)	24.1	25.1	26.0	26.6	27.3	3.2	

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

沖縄県・全国は総務省人口推計（各年10月1日現在）

※年齢3区分別人口＝年少人口（15歳未満）、生産年齢人口（15～64歳）、老年人口（65歳以上）

図1 総人口と高齢者数の推移

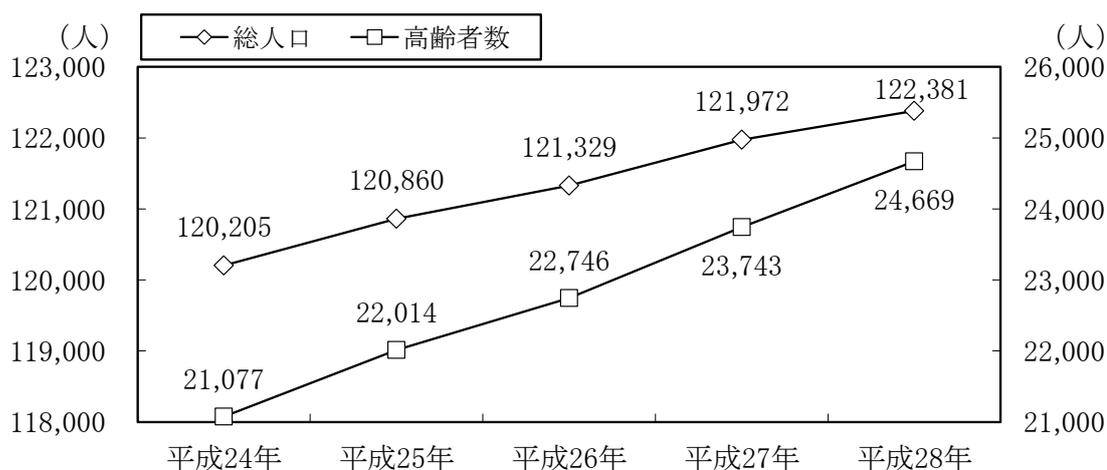
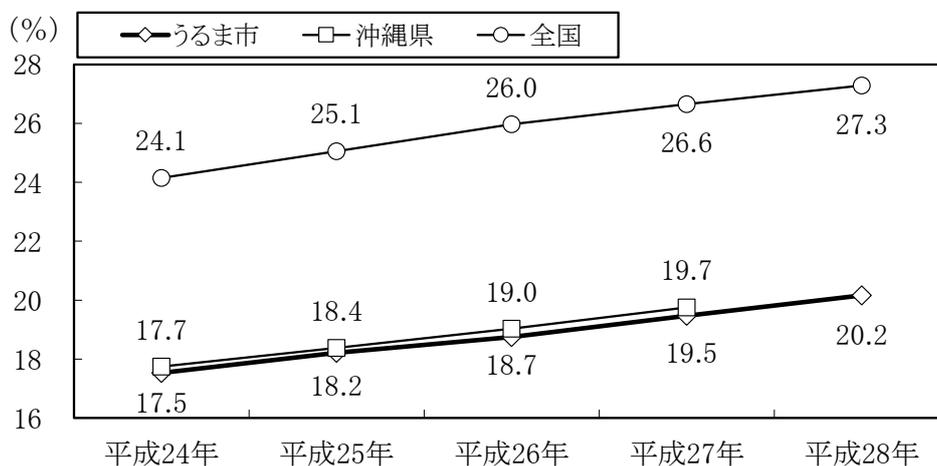


図2 高齢化率の比較



高齢者について日常生活圏域別に見ると、高齢化率は与那城地区が25.8%でもっとも高く、勝連地区、石川地区が2割あまり、具志川第1地区、具志川第2地区が2割弱となっています。

表2 日常生活圏域別高齢者人口

圏域	圏域別 総人口	高齢者 人口	高齢化率 (%)
勝連地区	13,680	3,118	22.8%
与那城地区	12,004	3,101	25.8%
具志川第1地区	37,041	6,967	18.8%
具志川第2地区	35,516	6,197	17.4%
石川地区	23,846	4,855	20.4%
合計	122,087	24,238	19.9%

資料：うるま市福祉事務所概要より(平成28年4月1日現在)

※老人ホーム等施設入所者及び外国人登録者を含みます。

(2) 推計人口

将来人口の推計によると、総人口は今後もしばらくは増加を続け、平成37年には124,777人になると見込まれます。その後は微減傾向で推移し、平成41年には124,515人になると予測されます。

高齢者人口は毎年増加すると推計されており、第7期計画最終年の平成32年には28,178人となり、団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる平成37年には30,985人、第10期計画最終年の平成41年には32,230人になると予測されます。

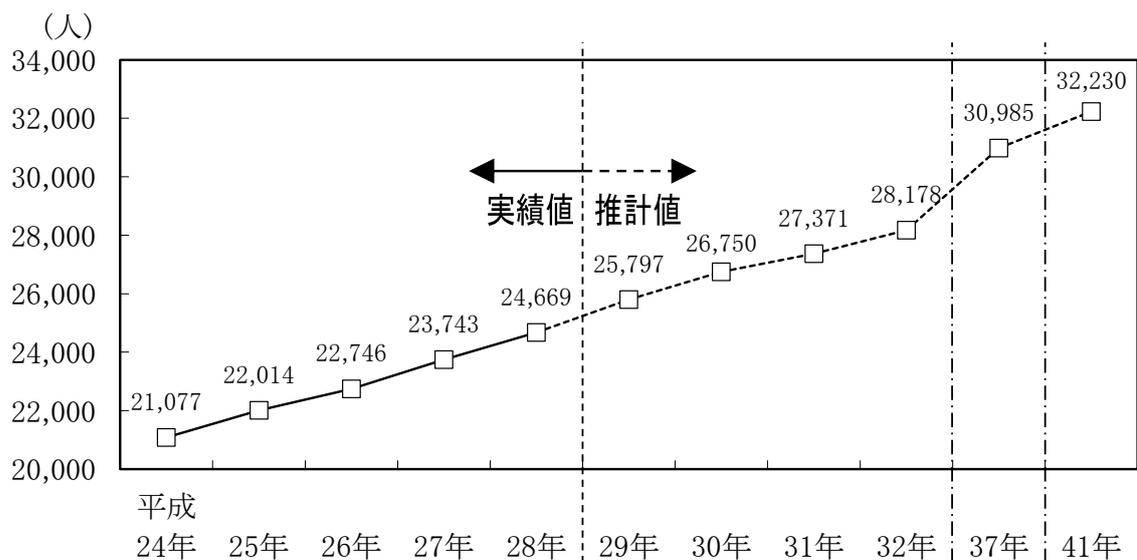
高齢化率は、平成28年の20.2%から上昇し、平成32年には22.7%、平成37年には24.8%、平成41年には25.9%になると予測されます。

表3 推計人口

		実績値 (再掲)	推計値					
			平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
人数 (人)	総人口	122,381	123,134	123,588	123,656	124,123	124,777	124,515
	年少人口	21,270	21,211	21,105	21,010	20,896	20,115	19,390
	生産年齢人口	76,442	76,126	75,733	75,275	75,049	73,677	72,895
	老年人口	24,669	25,797	26,750	27,371	28,178	30,985	32,230
構成比 (%)	年少人口	17.4	17.2	17.1	17.0	16.8	16.1	15.6
	生産年齢人口	62.5	61.8	61.3	60.9	60.5	59.0	58.5
	老年人口	20.2	21.0	21.6	22.1	22.7	24.8	25.9

資料：住民基本台帳よりコーホート変化率法により推計（使用変化率H25年～H28年平均）

図3 推計老年人口



(3) 前期・後期別高齢者人口の推移

高齢者を前期高齢者(65～74歳)と後期高齢者(75歳以上)に分けてみると、平成28年では前期高齢者が12,259人、後期高齢者が12,410人であり、平成24年以降、前期、後期高齢者とも一貫した増加で推移しています。

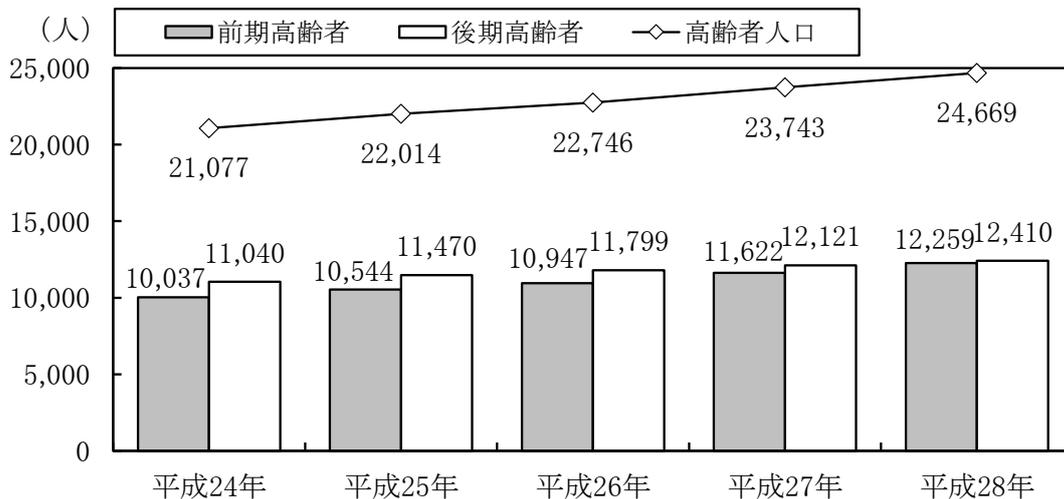
構成比をみると平成28年では、前期高齢者は49.7%、後期高齢者は50.3%と後期高齢者の占める割合が僅かに上回っていますが、前期高齢者の割合は上昇傾向、後期高齢者の割合は減少傾向となっています。

表4 前期高齢者人口と後期高齢者人口の推移

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人数 (人)	高齢者人口	21,077	22,014	22,746	23,743	24,669
	前期高齢者 (65～74歳)	10,037	10,544	10,947	11,622	12,259
	後期高齢者 (75歳以上)	11,040	11,470	11,799	12,121	12,410
構成比 (%)	前期高齢者	47.6	47.9	48.1	48.9	49.7
	後期高齢者	52.4	52.1	51.9	51.1	50.3

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

図4 前期高齢者人口と後期高齢者人口の推移



(4) 推計前期・後期別高齢者人口

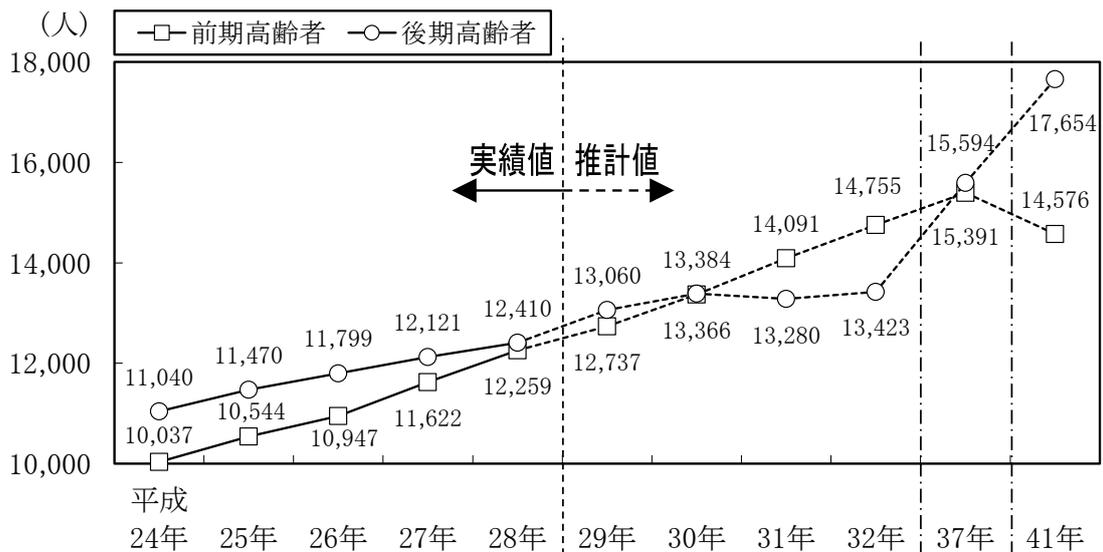
将来人口の推計によると、第7期計画期間については、前期高齢者は増加を続け、後期高齢者は概ね横ばいで推移すると見込まれます。構成比を見ると、平成28年は後期高齢者の割合が僅かに上回っていますが、平成30年には同率となり、31年からは前期高齢者の割合が後期高齢者を上回ると見込まれます。その後は後期高齢者が急増し、再び前期高齢者を上回ると予測されます。後期高齢者が急増する時期では、介護給付費の増大が予想されます。

表5 推計高齢者人口（前期・後期別）

		実績値 (再掲)	推計値					
			平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年
人数 (人)	高齢者人口	24,669	25,797	26,750	27,371	28,178	30,985	32,230
	前期高齢者	12,259	12,737	13,366	14,091	14,755	15,391	14,576
	後期高齢者	12,410	13,060	13,384	13,280	13,423	15,594	17,654
構成比 (%)	前期高齢者	49.7	49.4	50.0	51.5	52.4	49.7	45.2
	後期高齢者	50.3	50.6	50.0	48.5	47.6	50.3	54.8

資料：住民基本台帳よりコーホート変化率法により推計（使用変化率H25年～H28年平均）

図5 推計高齢者人口（前期・後期別）



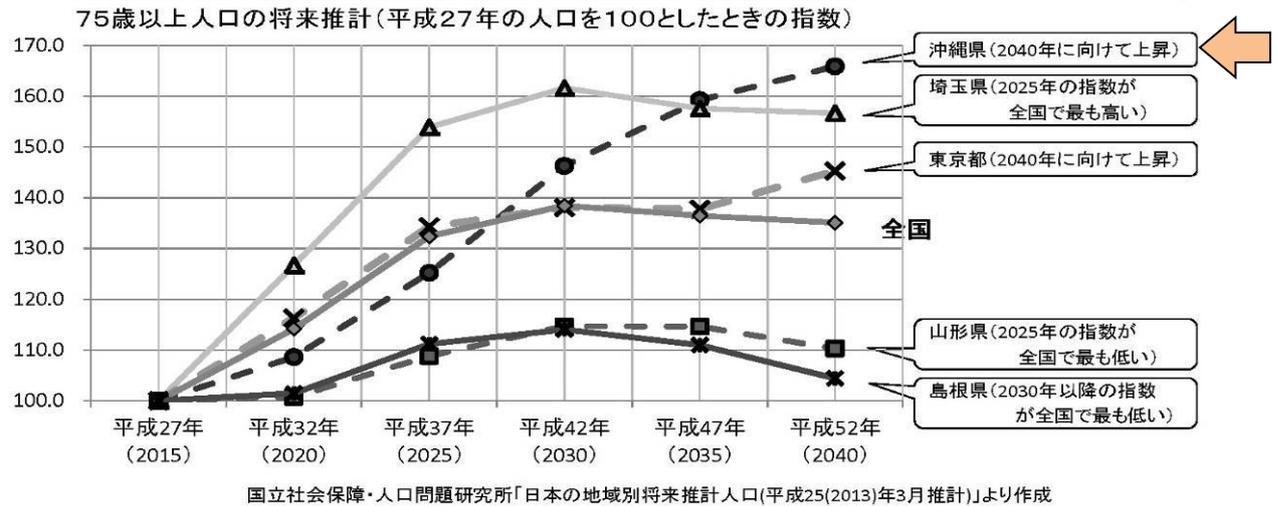
【参考】

2025年までの各地域の高齢化の状況

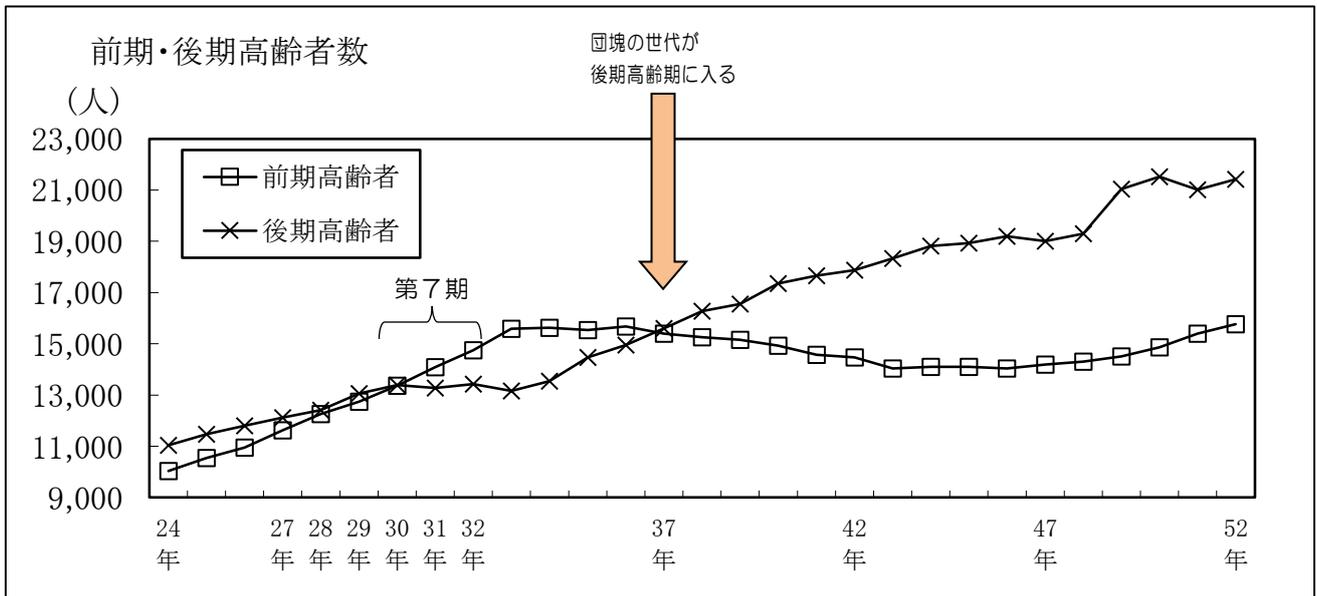
○75歳以上人口は、多くの都道府県で2025年頃までは急速に上昇するが、その後の上昇は緩やかで、2030年頃をピークに減少する。

※2030年、2035年、2040年でみた場合、2030年が一番高いのが34道府県、2035年が一番高いのが9県
 ※沖縄県、東京都、神奈川県、滋賀県では、2040年に向けてさらに上昇

○2015年から10年間の伸びの全国計は、1.32倍であるが、埼玉県、千葉県では、1.5倍を超える一方、山形県、秋田県では、1.1倍を下回るなど、地域間で大きな差がある。



■うるま市の高齢化の見込み



※平成27年の後期高齢者数を100とした時の平成52年の後期高齢者指数 = $\frac{21,000}{11,000} \approx 1.91$ (県より高い)

(5) 第6期計画での人口推計値と実績値の比較

第6期計画で推計した将来人口と、平成27年及び平成28年の実績人口を比較すると、総人口、高齢者人口、前期高齢者及び後期高齢者ともに、実績人口が推計値を下回っています。

また、前期高齢者と後期高齢者の「推計値との差」を比較すると、後期高齢者の方で推計値を下回る差が小さく、平成28年の値が前期高齢者では135人下回っているのに対し、後期高齢者では49人の差にとどまっています。このため、高齢者に占める後期高齢者の割合は、推計値を若干上回っています。

表6 推計値と実績値の比較

		平成27年	平成28年
総人口	第6期推計値	122,242	122,870
	実績人口	121,972	122,381
	推計値との差	▲ 270	▲ 489
高齢者人口	第6期推計値	23,889	24,853
	実績人口	23,743	24,669
	差(対推計値)	▲ 146	▲ 184
高齢化率	第6期推計値	19.5%	20.2%
	実績人口	19.5%	20.2%
	推計値との差	0.0	0.0
前期高齢者	第6期推計値	11,735	12,394
	実績人口	11,622	12,259
	推計値との差	▲ 113	▲ 135
後期高齢者	第6期推計値	12,154	12,459
	実績人口	12,121	12,410
	推計値との差	▲ 33	▲ 49
前期高齢者割合	第6期推計値	49.1%	49.9%
	実績人口	48.9%	49.7%
	推計値との差	▲ 0.2	▲ 0.2
後期高齢者割合	第6期推計値	50.9%	50.1%
	実績人口	51.1%	50.3%
	推計値との差	0.2	0.2

※「推計値との差」は「実績人口」－「第6期推計値」で算出

2. 世帯の状況

本市の総世帯のうち、高齢者のいる世帯は35.2%(平成28年)となっており、県の32.7%をやや上回っています。高齢者のいる世帯は年々増加しており、総世帯に占める割合も上昇で推移しています。

高齢者のみの世帯、高齢者単身世帯及び多世代同居世帯はそれぞれ増加していますが、総世帯に占める構成比を見ると、高齢者のみの世帯と高齢者単身世帯は上昇、多世代同居世帯は減少しています。特に高齢者単身世帯の上昇率が高く、高齢者の孤立予防(見守りや支え合い)も必要性となります。

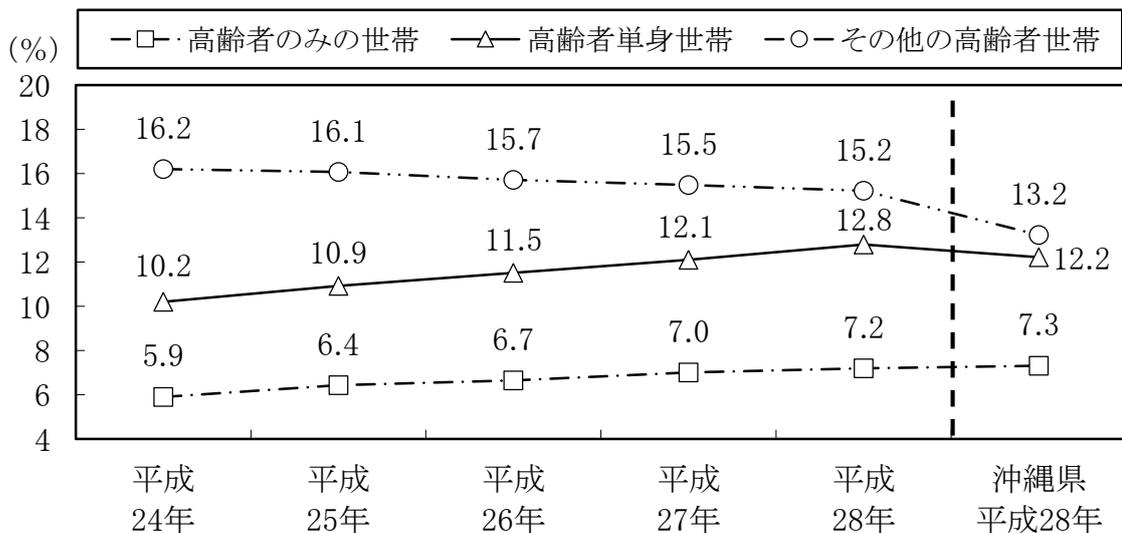
表7 高齢者世帯の推移

		うるま市					沖縄県
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成28年
世帯数 (世帯)	高齢者のいる世帯	14,989	15,712	16,352	16,981	17,644	205,938
	高齢者のみの世帯	2,738	3,023	3,211	3,442	3,608	45,946
	高齢者単身世帯	4,731	5,134	5,557	5,939	6,407	76,859
	その他(多世代同居等)	7,520	7,555	7,584	7,600	7,629	83,133
	総世帯	46,416	47,009	48,276	49,116	50,122	629,118
構成比 (%)	高齢者のいる世帯	32.3	33.4	33.9	34.6	35.2	32.7
	高齢者のみの世帯	5.9	6.4	6.7	7.0	7.2	7.3
	高齢者単身世帯	10.2	10.9	11.5	12.1	12.8	12.2
	その他(多世代同居等)	16.2	16.1	15.7	15.5	15.2	13.2
	総世帯	16.2	16.1	15.7	15.5	15.2	13.2

資料：県資料（老人福祉関係基礎資料）

※構成比はすべて総世帯数に対する比率

図6 高齢者世帯の推移



高齢者の独居率を日常生活圏域別に見ると、石川地区が30.2%で、他の圏域よりやや高くなっています。もっとも独居率が低いのは具志川第2地区で24.3%となっています。

表8 日常生活圏域別独居高齢者世帯数

福祉圏域	独居高齢者世帯			独居率 (%)
	男性	女性	合計	
勝連地区	338	510	848	27.2%
与那城地区	345	471	816	26.3%
具志川第1地区	737	1,193	1,930	27.7%
具志川第2地区	574	934	1,508	24.3%
石川地区	556	912	1,468	30.2%
合計	2,550	4,020	6,570	27.1%

資料：うるま市福祉事務所概要より(平成28年4月1日現在)

※老人ホーム等施設入所者及び外国人登録者を含みます。

※独居率は、65歳以上高齢者における比率です。

3. 就労の状況

就労している高齢者数は2,197人(平成22年)であり、高齢者の10.7%を占めています。就労割合は平成12年よりやや減少しており、県と比べてもやや低いです。また、就労している高齢者数を前期・後期高齢者別に見ると、前期高齢者は平成17年と比べて減少しているのに対し、後期高齢者は増加しています。

労働者全体(15歳以上で就労している人)に占める高齢者の割合は5.1%(平成22年)で、平成12年より僅かながら上昇しています。

表9 高齢者の就労状況の推移

		平成12年	平成17年	平成22年	沖縄県 平成22年
人数 (人)	総労働者数	43,784	43,587	42,823	
	高齢者人口	15,427	18,376	20,445	
	就労している高齢者数	2,005	2,190	2,197	
	65歳～74歳	1,659	1,807	1,747	
	75歳以上	346	383	450	
構成比 (%)	就労している高齢者の割合	13.0	11.9	10.7	15.2
	労働者全体に占める高齢者の割合	4.6	5.0	5.1	6.3

資料：国勢調査

※「就労している高齢者の割合」＝就労している高齢者数÷高齢者人口

※「労働者全体に占める高齢者の割合」＝就労している高齢者数÷総労働者数

高齢者の就労状況を産業別にみると、平成 22 年では「サービス業」が 25.8%でもっとも高いほか、「農業」が 21.8%、「卸売・小売・飲食業」が 18.4%であり、これら 3 つが高くなっています。また、サービス業の従事者は平成 12 年と比べてやや上昇していますが、「農業」の従事者は大きく減少しています。

表10 高齢者の産業別就業者の状況

	平成 12 年		平成 17 年		平成 22 年		平成 22 年	
	(人)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)	(人)	構成比 (%)	県 (%)	国 (%)
総数	2,005	—	2,190	—	2,197	—	—	—
第一次産業	827	41.2	752	34.3	530	24.1	26.4	18.3
農業	763	38.1	680	31.1	479	21.8		
林業	0	0.0	0	0.0	0	0.0		
漁業	64	3.2	72	3.3	51	2.3		
第二次産業	175	8.7	200	9.1	221	10.1	9.3	17.7
鉱業	1	0.0	0	0.0	0	0.0		
建設業	120	6.0	141	6.4	137	6.2		
製造業	54	2.7	59	2.7	84	3.8		
第三次産業	984	49.1	1,220	55.7	1,232	56.1	54.3	56.2
電気・ガス・熱供給・水道	2	0.1	4	0.2	3	0.1		
運輸・通信業	96	4.8	138	6.3	151	6.9		
卸売・小売・飲食業	421	21.0	483	22.1	405	18.4		
金融・保険業	8	0.4	9	0.4	11	0.5		
不動産業	10	0.5	23	1.1	55	2.5		
サービス業	404	20.1	509	23.2	567	25.8		
公務（他に分類されないもの）	43	2.1	54	2.5	40	1.8		
分類不能	19	0.9	18	0.8	214	9.7	9.9	7.7

資料：国勢調査

※項目は平成12年の分類。平成17年、平成22年は分類が変更されていますが、以下のように合算いたしました。

平成17年

1. 「情報通信業」「運輸業」→【運輸・通信業】
2. 「卸売・小売業」「飲食店・宿泊業」→【卸売・小売・飲食業】
3. 「医療・福祉」「教育・学習支援業」「複合サービス事業」「サービス業（他に分類されないもの）」→【サービス業】

平成22年

1. 「情報通信業」「運輸業、郵便業」→【運輸・通信業】
2. 「卸売業、小売業」「宿泊業、飲食サービス業」→【卸売・小売・飲食業】
3. 「学術研究、専門・技術サービス業」「生活関連サービス業、娯楽業」「教育、学習支援業」「医療・福祉」「複合サービス事業」「サービス業（他に分類されないもの）」→【サービス業】

4. 老人クラブ

老人クラブの加入者数は年々減少しており、平成 25 年度は 9,338 人でしたが、平成 27 年度には 8,141 人と、1,000 人以上減っています。また、単位老人クラブでは休会が増えており、平成 27 年度は 11 か所となっています。福祉圏域別に見ると、石川地区では休会がありませんが、勝連、具志川第 1、具志川第 2 ではそれぞれ 2 か所、与那城地区では 5 か所が休会しています。

表11 各老人クラブ会員数

(単位：人)

NO	自治会名	クラブ名	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
1	南風原	南風原長寿クラブ	281	280	269
2	平安名	平安名長寿クラブ	408	395	305
3	内間	内間寿クラブ	229	235	242
4	平敷屋	平敷屋長寿クラブ	473	519	休会
5	津堅	津堅長寿クラブ	89	70	休会
6	浜	浜更生クラブ	42	86	50
7	比嘉	比嘉若寿会	75	75	25
	勝連地区		1,597	1,660	891
8	照間	照間老人クラブ	休会	休会	休会
9	与那城西原	与那城西原老人クラブ	77	40	80
10	与那城	与那城区老人クラブ	休会	休会	休会
11	饒辺	饒辺老人クラブ	122	69	休会
12	屋慶名	屋慶名区老人クラブ	休会	休会	休会
13	平安座	平安座老人クラブ	163	176	182
14	桃原	桃原老人クラブ	71	65	52
15	上原	上原老人クラブ	37	45	26
16	宮城	宮城老人クラブ	60	28	44
17	池味	池味老人クラブ	休会	休会	休会
18	伊計	伊計老人クラブ	86	77	65
	与那城地区		616	500	449
19	具志川	具志川黄金友	403	385	343
20	田場	田場老人クラブ	388	420	466
21	赤野	赤野楽寿会	203	204	187
22	宇堅	宇堅老人クラブ	休会	休会	休会
23	天願	天願老人クラブ清流会	212	196	212
24	昆布	昆布老人クラブ	194	172	154
25	栄野比	栄野比老人クラブ	185	162	77
26	川崎	川崎老人クラブ若水会	249	266	235
27	西原	西原区願寿会	194	178	195
28	安慶名	安慶名老人クラブ	433	411	390
29	上江洲	上江洲老人クラブ福栄会	214	212	151
30	大田	大田老人クラブ	休会	休会	休会
31	みどり町 1・2	みどり町 1・2 丁目みつみクラブ	101	90	92
32	みどり町 3・4	みどり町 3・4 丁目老人クラブ	107	126	131
33	みどり町 5・6	みどり町 5・6 丁目老人クラブ	161	173	169
	具志川第 1 地区		3,044	2,995	2,802

NO	自治会名	クラブ名	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
34	平良川	平良川命伸会	348	298	296
35	上平良川	上平良川老人クラブ	297	225	219
36	兼箇段	兼箇段老人クラブ	146	125	115
37	米原	米原老人クラブ	190	200	181
38	赤道	赤道老人クラブ	267	260	175
39	江洲	江洲豊和会	220	339	461
40	宮里	宮里ことぶき会	休会	休会	休会
41	喜仲	喜仲老人クラブ	298	291	267
42	川田	川田老人クラブ	110	108	94
43	塩屋	塩屋老人クラブ	休会	休会	休会
44	豊原	豊原老人クラブ長生会	120	119	140
45	高江洲	高江洲老人クラブ	133	121	136
46	前原	前原老人クラブ長寿会	115	110	116
47	志林川	志林川かりゆし会	183	185	174
48	新赤道	新赤道老人クラブ	118	119	126
	具志川第2地区		2,545	2,500	2,500
	具志川地区		5,589	5,495	5,302
49	曙	曙区老人クラブ	123	119	127
50	南栄	南栄区老人クラブ	103	95	100
51	城北	城北区老人クラブ	78	80	85
52	中央	中央区老人クラブ	98	91	95
53	松島	松島区老人クラブ	120	118	117
54	宮前	宮前区老人クラブ	80	81	86
55	東山	東山区老人クラブ	86	92	102
56	旭	旭区老人クラブ	55	56	61
57	港	港区老人クラブ	81	77	83
58	伊波	伊波区老人クラブ	180	175	143
59	嘉手苺	嘉手苺区老人クラブ	55	60	59
60	山城	山城区老人クラブ	142	133	108
61	石川前原	前原区老人クラブ	134	131	120
62	東恩納	東恩納区老人クラブ	125	125	143
63	美原	美原区老人クラブ	76	86	70
	石川地区		1,536	1,519	1,499
	合計		9,338	9,174	8,141

資料：うるま市福祉事務所概要

※平成27年度 活動中老人クラブ52クラブ、休会中老人クラブ11クラブ

5. 介護保険の状況

(1) 要介護認定者数の推移

介護保険の認定者数は年々増加していますが、平成27年までの伸びが平成28年には鈍化しており、平成28年10月では4,939人となっています。また、認定者4,939人のうち、第1号被保険者は4,787人、第2号被保険者は152人となっています。

第1号被保険者の認定者を前期高齢者・後期高齢者別に見ると、後期高齢者の割合が8割半ばとなっており、認定者のほとんどが後期高齢者であることがわかります。

認定率は、平成24年の19.3%から27年には20.1%へと上昇しましたが、28年には19.4%に減少しています。また、認定率は県や国と比べてやや高くなっています。

認定率(平成28年)を前期・後期高齢者別に見ると、前期高齢者は5.3%と非常に低いのに対し、後期高齢者では33.3%と3割余りを占めており、75歳以上の後期高齢者になると介護が必要となる割合が急増することがわかります。

表12 要介護認定者数の推移

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人数 (人)	認定者数	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939
	第1号被保険者	4,071	4,290	4,531	4,764	4,787
	前期高齢者	526	555	579	613	650
	後期高齢者	3,545	3,735	3,952	4,151	4,137
	第2号被保険者	157	169	164	161	152
構成比 (%)	前期高齢者	12.9	12.9	12.8	12.9	13.6
	後期高齢者	87.1	87.1	87.2	87.1	86.4
	認定率(第1号被保険者)	19.3	19.5	19.9	20.1	19.4
	前期高齢者	5.2	5.3	5.3	5.3	5.3
	後期高齢者	32.1	32.6	33.5	34.3	33.3

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

※認定率は、第1号被保険者の認定率として記載（第1号被保険者の認定者数÷第1号被保険者）

※前期高齢者の認定率＝前期高齢者の認定者数÷第1号被保険者のうち前期高齢者数

※後期高齢者の認定率＝後期高齢者の認定者数÷第1号被保険者のうち後期高齢者数

図7 認定者数の推移

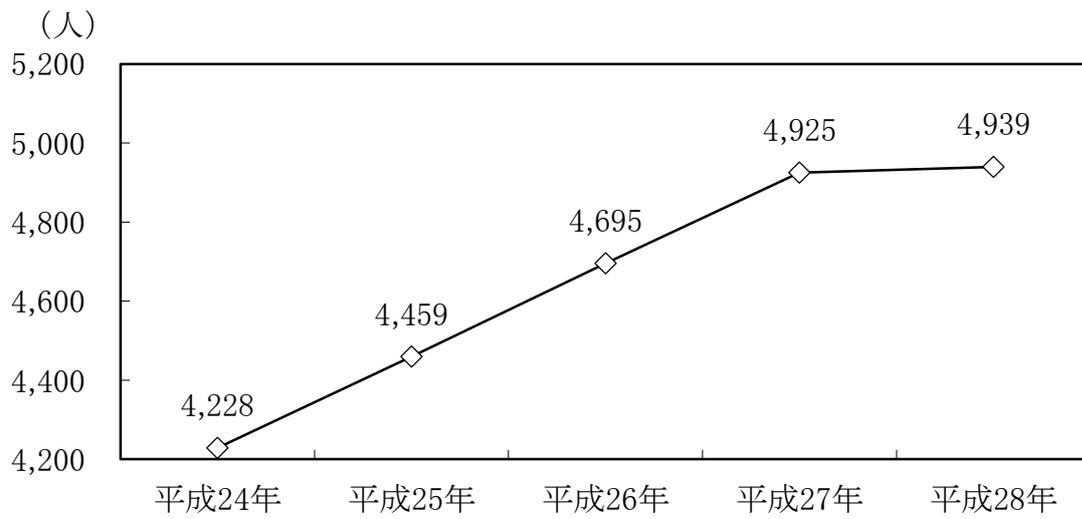
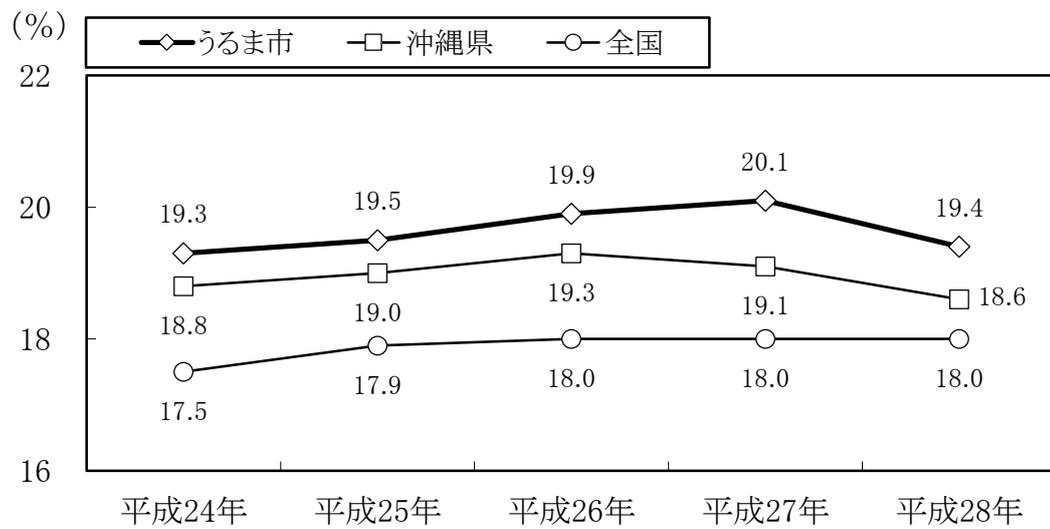


図8 認定率



(2) 要介護度別の認定者数の推移

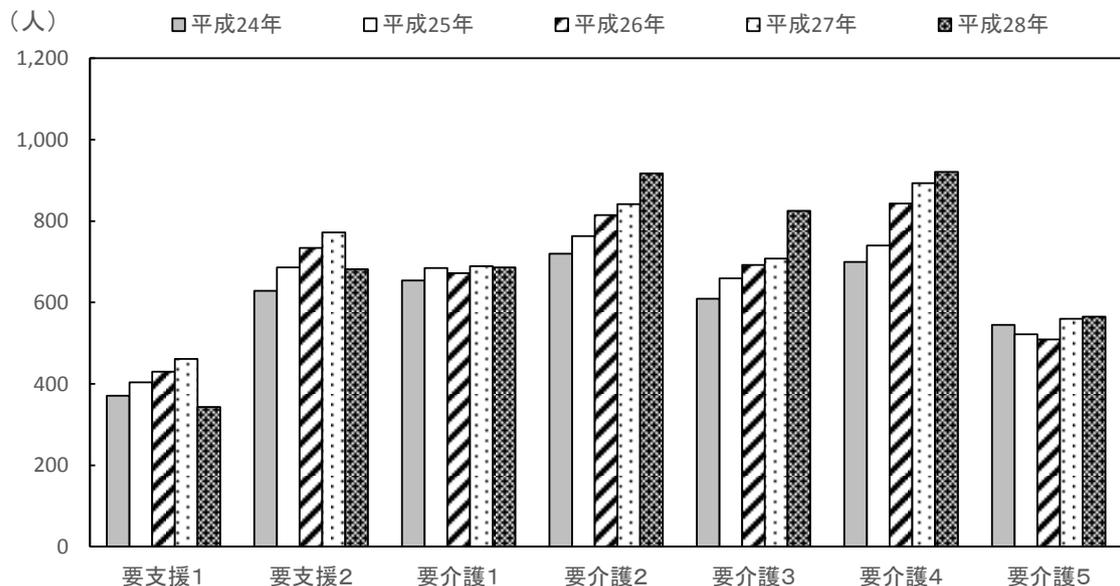
要介護度別の認定者について構成比で見ると、平成28年では、要介護2と要介護4がそれぞれ18.6%を占めており、比較的高くなっています。また、要介護2より重い要介護度では割合がやや上昇で推移しており、中度者から重度者の占める割合が高くなる傾向となっています。

表13 要介護度別認定者数

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人数 (人)	認定者数(再)	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939
	要支援1	371	404	430	461	343
	要支援2	629	686	734	772	682
	要支援(小計)	1,000	1,090	1,164	1,233	1,025
	要介護1	654	685	672	689	686
	要介護2	720	763	815	842	917
	要介護3	609	659	692	708	825
	要介護4	700	740	843	893	921
	要介護5	545	522	509	560	565
構成比 (%)	要支援1	8.8	9.1	9.2	9.4	6.9
	要支援2	14.9	15.4	15.6	15.7	13.8
	要支援(小計)	23.7	24.4	24.8	25.0	20.8
	要介護1	15.5	15.4	14.3	14.0	13.9
	要介護2	17.0	17.1	17.4	17.1	18.6
	要介護3	14.4	14.8	14.7	14.4	16.7
	要介護4	16.6	16.6	18.0	18.1	18.6
	要介護5	12.9	11.7	10.8	11.4	11.4

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月

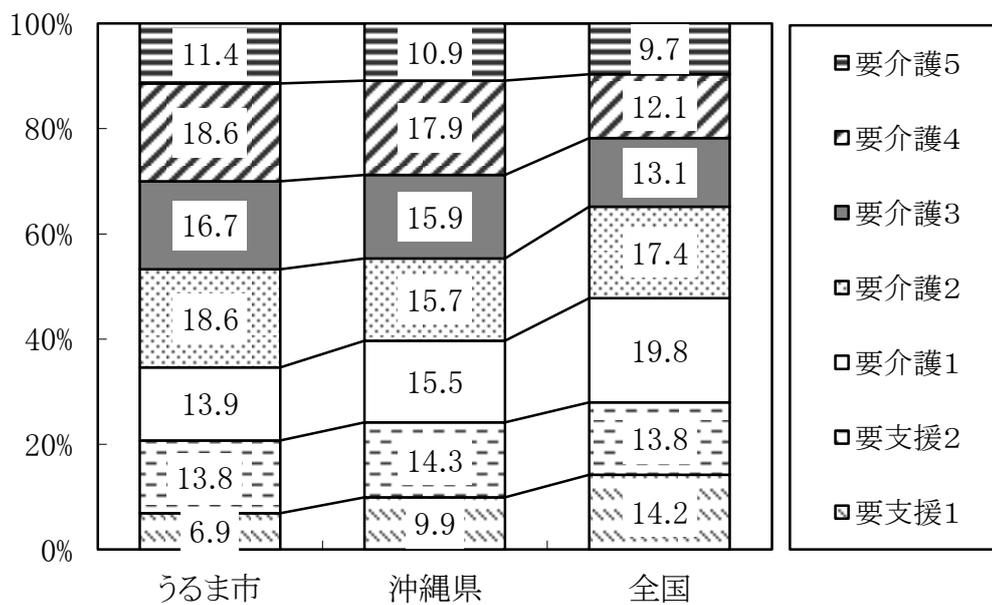
図9 要介護度別の認定者数の推移



中度者、重度者の占める割合については、県や全国の値より高くなっています。また要介護4、5の重度者は、市では30.0%であるのに対し、県は28.8%、全国は21.8%であり、県や全国を上回っています。

反対に、要支援及び要介護1の軽度者については、市では34.6%であるのに対し、県は39.7%、全国は47.8%であり、県や全国を下回っています。

図10 要介護度別認定者の状況（平成28年10月）



(3) 介護サービスの受給者数の推移

サービス類型別に介護サービスの受給者数をみると、居宅サービス利用者は増加傾向、施設サービス利用者は概ね横ばい、地域密着型サービスは微増傾向で推移しています。サービス利用者の大半は居宅サービス受給者であり、受給者の7割以上を占めています。

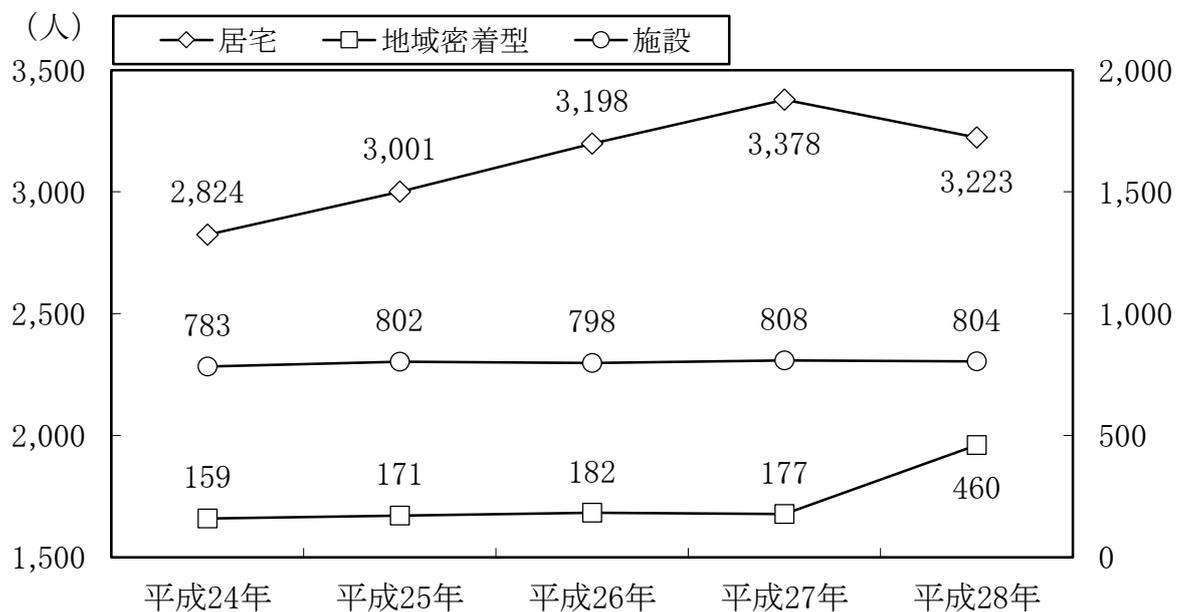
また、平成28年には居宅サービス受給者が大幅減、地域密着型サービス受給者が大幅増となっています。制度改正で通所介護のうち小規模の事業所が地域密着型サービスに移行(地域密着型通所介護)し、これにともなって受給者も移行したことが影響しています。

表14 居宅、地域密着型、施設サービス別受給者数

	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年		平成28年	
				受給者数(人)	構成比(%)	受給者数(人)	構成比(%)
受給者数(人)	3,766	3,974	4,178	4,363		4,487	
居宅(人)	2,824	3,001	3,198	3,378	77.4	3,223	71.8
地域密着型(人)	159	171	182	177	4.1	460	10.3
施設(人)	783	802	798	808	18.5	804	17.9

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月（平成28年のみ9月分）

図11 介護サービスの受給者数の推移



(4) 居宅サービス別利用状況

居宅サービスのサービス別に1か月あたりの利用人数を見ると、平成26年、27年は通所介護が圧倒的に多く、2,000件を超えていました。平成28年は通所介護事業所の一部が地域密着型通所介護に移行する制度改正の影響で、1,779件と大きく減少していますが、それでも福祉用具貸与の1,837件に次いで2番目に多く、他のサービスを大きく引き離しています。

表15 居宅サービス別の利用件数

	平成26年	平成27年	平成28年
訪問介護	678	733	645
訪問入浴介護	23	25	28
訪問看護	78	88	97
訪問リハビリテーション	58	55	53
居宅療養管理指導	134	155	159
通所介護	2,061	2,272	1,779
通所リハビリテーション	721	706	721
短期入所生活介護	148	126	131
短期入所療養介護	37	30	25
福祉用具貸与	1,526	1,711	1,837
福祉用具購入費	36	31	45
住宅改修費	31	24	23
特定施設入所者生活介護	58	61	56
居宅サービスの利用件数	5,589	6,017	5,599

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月（平成28年のみ9月分）

前年からの伸び率が高いサービスは、福祉用具購入費が45.2%でもっとも高いほか、訪問入浴介護の12.0%、訪問看護の10.2%も比較的高くなっています。

構成比をみると、平成28年では福祉用具貸与が32.8%、通所介護が31.8%であり、これら2つのサービスがそれぞれ3割程度を占め非常に高くなっています。また、通所リハビリテーションが12.9%、訪問介護が11.5%で比較的高いほかは、5%未満の利用にとどまっています。

通所介護と通所リハビリテーションを合わせると、居宅サービス利用の44.7%を占めます。

表16 居宅サービス利用の伸び率

	平成26年	平成27年	平成28年
訪問介護	—	8.1	▲12.0
訪問入浴介護	—	8.7	12.0
訪問看護	—	12.8	10.2
訪問リハビリテーション	—	▲5.2	▲3.6
居宅療養管理指導	—	15.7	2.6
通所介護	—	10.2	▲21.7
通所リハビリテーション	—	▲2.1	2.1
短期入所生活介護	—	-14.86	4.0
短期入所療養介護	—	-18.92	-16.7
福祉用具貸与	—	12.12	7.4
福祉用具購入費	—	-13.89	45.2
住宅改修費	—	-22.58	-4.2
特定施設入所者生活介護	—	5.17	-8.2

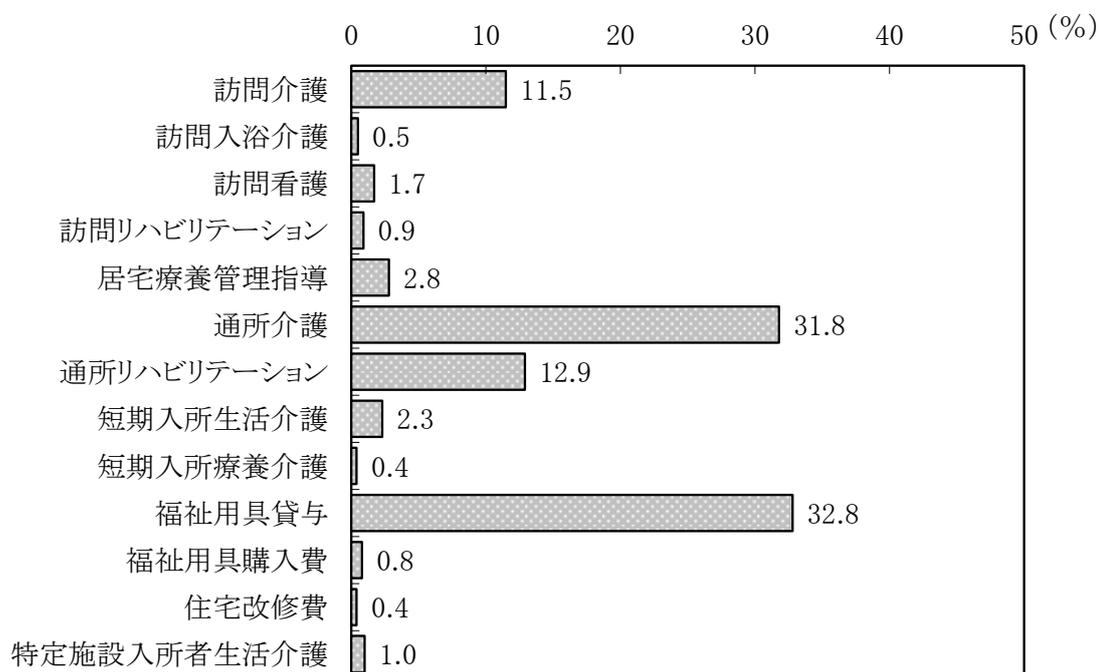
資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月（平成28年のみ9月分）

表17 居宅サービス利用の構成比

	平成26年	平成27年	平成28年
訪問介護	12.1	12.2	11.5
訪問入浴介護	0.4	0.4	0.5
訪問看護	1.4	1.5	1.7
訪問リハビリテーション	1.0	0.9	0.9
居宅療養管理指導	2.4	2.6	2.8
通所介護	36.9	37.8	31.8
通所リハビリテーション	12.9	11.7	12.9
短期入所生活介護	2.6	2.1	2.3
短期入所療養介護	0.7	0.5	0.4
福祉用具貸与	27.3	28.4	32.8
福祉用具購入費	0.6	0.5	0.8
住宅改修費	0.6	0.4	0.4
特定施設入所者生活介護	1.0	1.0	1.0

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月（平成28年のみ9月分）

図12 居宅サービス利用の構成比（平成28年）



(5) 地域密着型サービスの利用状況

市内には認知症対応型共同生活介護(グループホーム)や、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護等の地域密着型サービスが整備されています。平成28年からは制度改正により小規模の通所介護事業所が地域密着型通所介護に移行され、地域密着型サービスの事業所数が大きく増えています。このため、平成28年には地域密着型サービスの利用者数が急増しています。

サービスの構成比を見ると、地域密着型通所介護の占める割合が61.2%と6割を超えており、その他のサービスは1割前後またはそれ以下となっています。

表18 市内の地域密着型サービス

サービス名	市内か所数					定員	利用者数
	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区		
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1か所			1か所		20人	17人
夜間対応型訪問介護							
地域密着型通所介護	29か所	2か所		14か所	8か所	5か所	367人
認知症対応型通所介護	5か所	3か所		1か所		1か所	39人
小規模多機能型居宅介護	4か所	1か所			2か所	1か所	98人
認知症対応型共同生活介護	7か所	2か所		2か所	2か所	1か所	60人
地域密着型特定施設入居者生活介護							
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護							
複合型サービス (看護小規模多機能型居宅介護)							

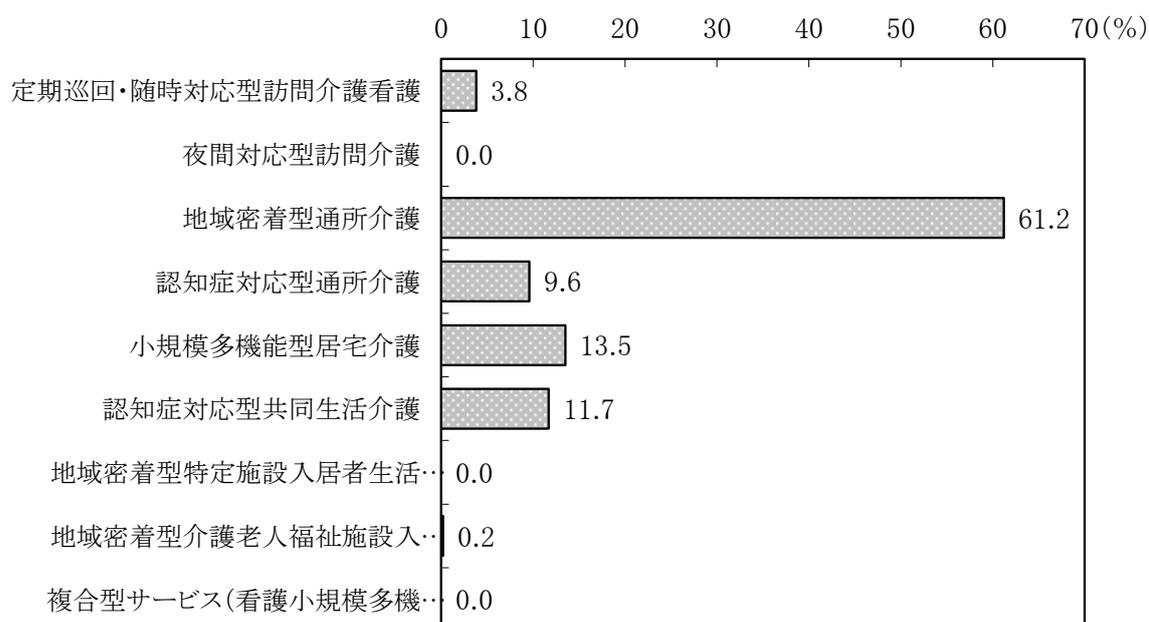
資料：うるま市介護長寿課

表19 地域密着型サービス別の利用状況

		平成26年	平成27年	平成28年
件数 (件)	地域密着型サービス	183	177	520
	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	8	14	20
	夜間対応型訪問介護	0	0	0
	地域密着型通所介護			318
	認知症対応型通所介護	48	44	50
	小規模多機能型居宅介護	64	54	70
	認知症対応型共同生活介護	62	64	61
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1	1	1
	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0	0	0
構成比 (%)	定期巡回・随時対応型訪問介護看護	4.4	7.9	3.8
	夜間対応型訪問介護	0.0	0.0	0.0
	地域密着型通所介護	0.0	0.0	61.2
	認知症対応型通所介護	26.2	24.9	9.6
	小規模多機能型居宅介護	35.0	30.5	13.5
	認知症対応型共同生活介護	33.9	36.2	11.7
	地域密着型特定施設入居者生活介護	0.0	0.0	0.0
	地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0.5	0.6	0.2
	複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)	0.0	0.0	0.0

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月（平成28年のみ9月分）

図13 地域密着型サービスの利用状況（平成28年）



(6) 施設サービス別の利用状況

施設サービスでは、介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)の利用がもっとも多く、平成28年では1か月あたり476人が利用し、施設サービス利用者の約6割を占めています。

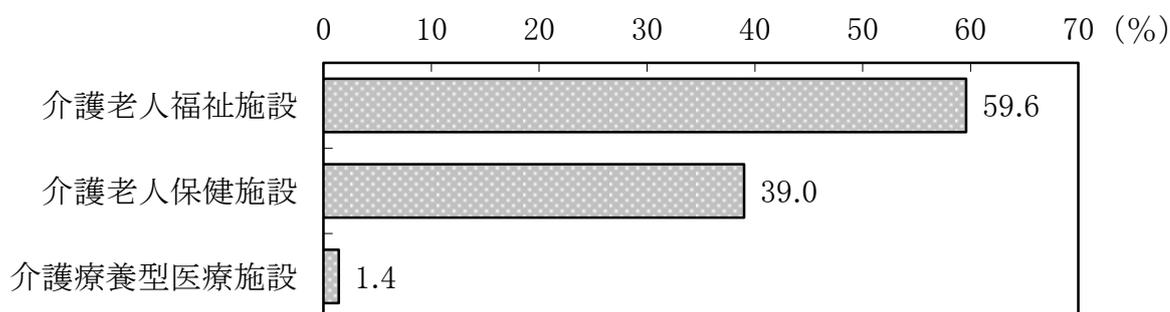
また、介護老人保健施設は311人で39.0%、介護療養型医療施設は11人で1.4%となっています。

表20 施設サービスの利用件数

		平成26年	平成27年	平成28年
件数 (件)	施設利用件数	801	810	798
	介護老人福祉施設	456	482	476
	介護老人保健施設	319	312	311
	介護療養型医療施設	26	16	11
構成比 (%)	介護老人福祉施設	56.9	59.5	59.6
	介護老人保健施設	39.8	38.5	39.0
	介護療養型医療施設	3.2	2.0	1.4

資料：「介護保険事業状況報告」より 各年10月（平成28年のみ9月分）

図14 施設サービスの利用状況（平成28年）

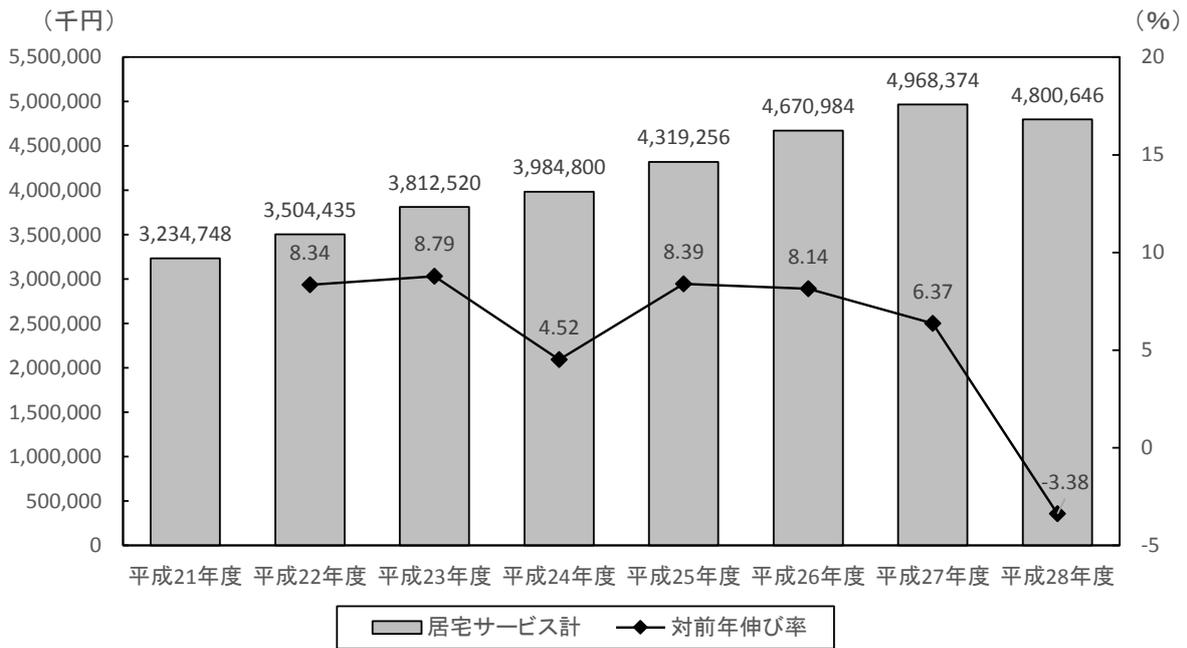


(7) 給付費の推移

① 居宅サービス・地域密着型サービス・施設サービスの給付費

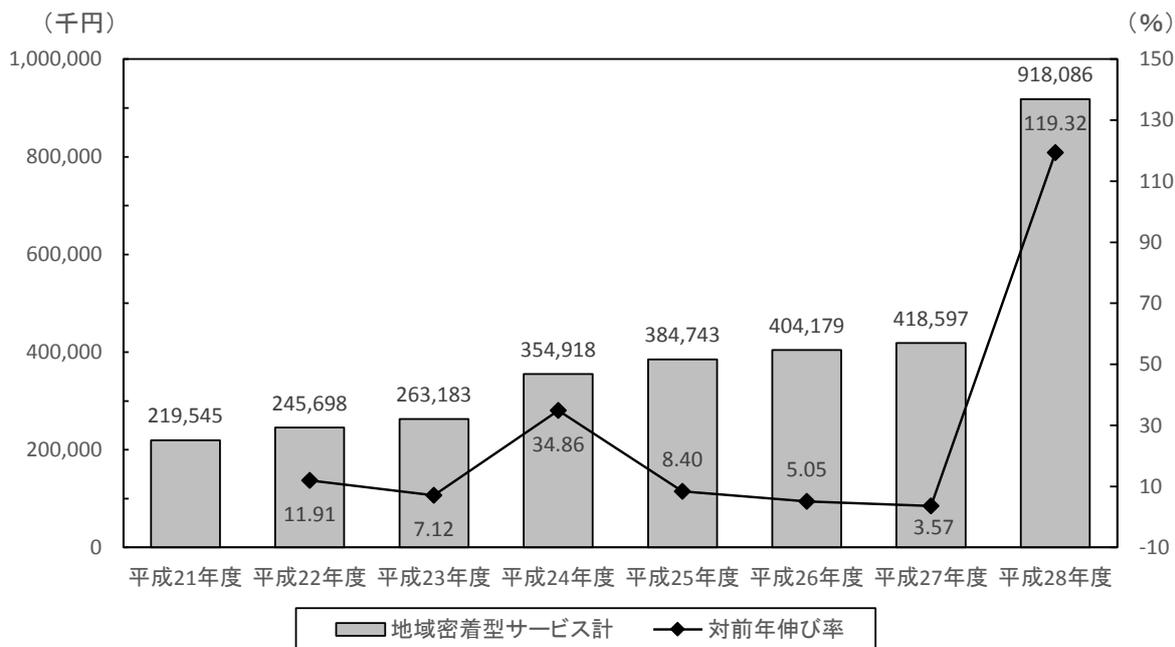
居宅サービスの給付費は、平成 27 年度まで一貫して増加し、平成 28 年には通所介護の一部が地域密着型サービスに移行したことから減少しています。給付費は、平成 27 年度が 49 億円超、平成 28 年が 48 億円程度となっています。対前年伸び率は、8 % 台の年が多くなっていますが、平成 25 年以降では緩やかになってきています。

図15 居宅サービス給付費および対前年伸び率



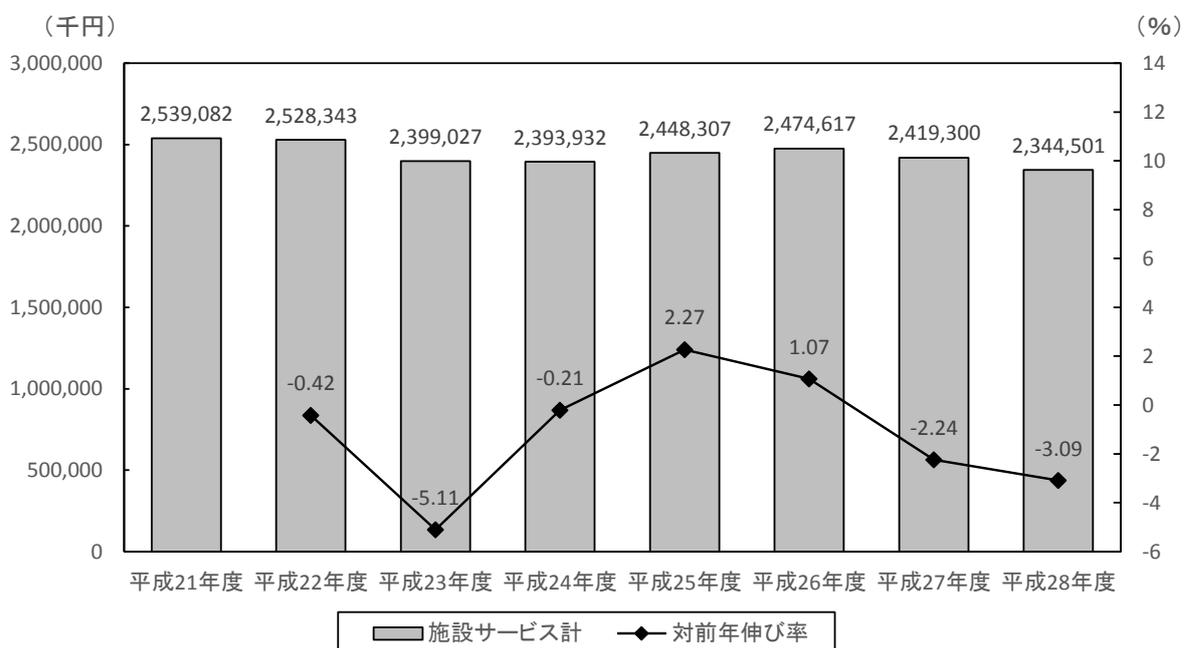
地域密着型サービスは、市町村が事業所指定を行うものであり、介護保険事業計画にもとづいて整備を行っています。給付費は平成 23 年度までは 2 億円台で微増推移していましたが、平成 24 年度に新たな整備を行ったことから 3 億円台に伸び、その後も増加しています。平成 28 年度は地域密着型通所介護が開始したことで 119.3% 給付費が伸び、9 億円台となっています。

図16 地域密着型サービス給付費および対前年伸び率



施設サービスの給付費は減少しており、平成 28 年度には約 23 億円となっています。

図17 施設サービス給付費および対前年伸び率



②居宅サービスの内訳

居宅サービスでは、通所系の給付費が圧倒的に高く、平成28年度では33億円(見込み)と、居宅サービス給付費の68.7%を占めています。前項で掲載した施設サービス給付費(23億円)を上回っており、通所系サービスが給付の増大につながっています。

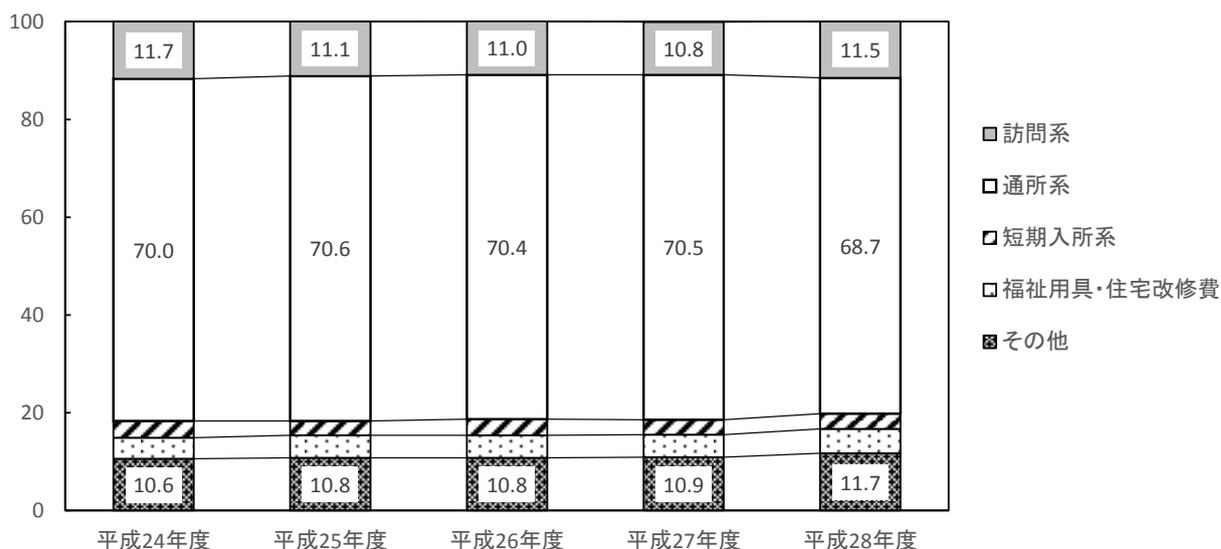
表21 居宅サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
訪問系	464,261	478,360	512,302	536,113	550,291
通所系	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,300,251
短期入所系	134,130	127,323	152,959	155,783	148,336
福祉用具・住宅改修費	172,904	200,297	213,000	230,209	238,531
その他	423,956	464,929	505,372	541,876	563,237
居宅サービス計	3,984,800	4,319,256	4,670,984	4,968,374	4,800,646
伸び率 (対前年度)		8.39	8.14	6.37	-3.38

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（平成28年度のみ見込み額）

図18 居宅サービス給付費の構成比

(%)



㊦)訪問系サービス

訪問系サービスの給付費を要介護度別にみると、要介護4と要介護5で非常に高く、また要介護度が高くなるとともに給付費も上がる傾向となっています。平成28年度では要介護4と5の給付費が53.0%と半数あまりを占めています。

要介護度別の年度推移を見ると、要介護4の伸びが非常に大きくなっています。要介護5は平成27年度まで減少で推移していましたが、平成28年度には増加に転じると見込まれています。

表22 訪問系サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
要支援1	11,352	11,736	13,199	13,559	12,122
要支援2	31,057	33,189	33,911	37,477	36,828
要介護1	57,668	57,078	55,026	46,420	54,665
要介護2	69,167	71,397	77,058	85,404	82,941
要介護3	65,814	65,384	83,644	89,563	77,268
要介護4	97,432	115,580	128,280	147,612	159,271
要介護5	131,771	123,997	121,184	116,078	129,058
計	464,261	478,360	512,302	536,113	550,291
要介護4と5の 占有率	49.4%	50.1%	48.7%	49.2%	53.0%

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（平成28年のみ見込み額）

図19 訪問系サービス給付費推移

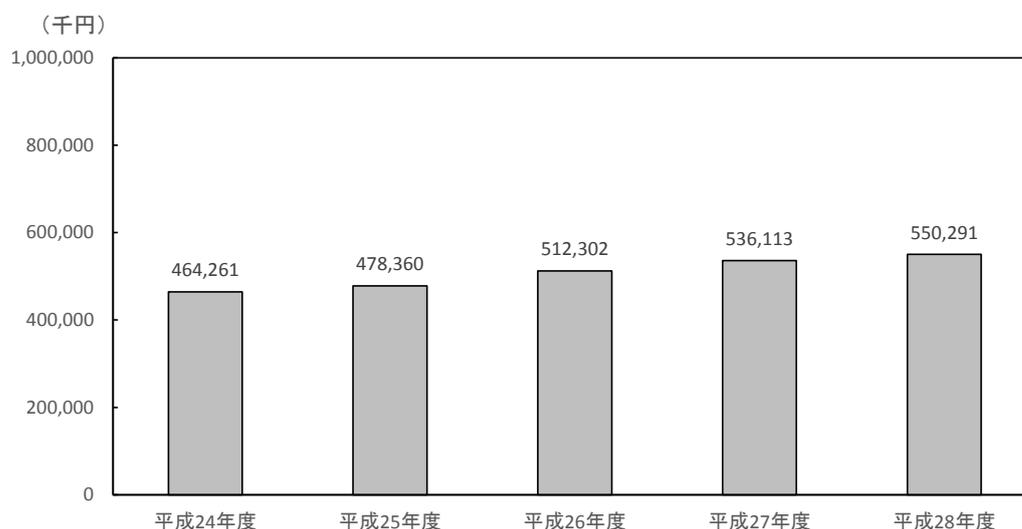
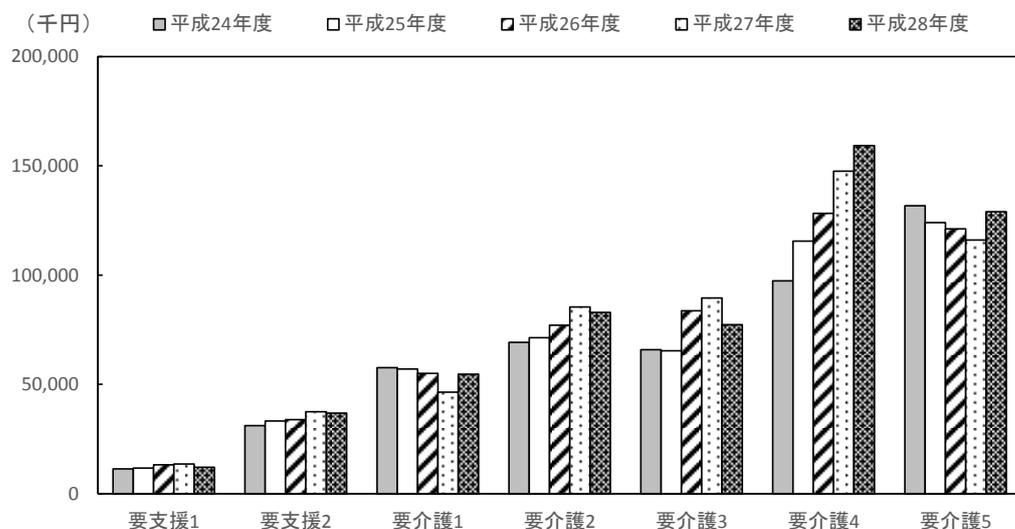


図20 訪問系サービス給付費推移（要介護度別）



1) 通所系サービス

通所系サービスの給付費を要介護度別にみると、要介護2～4で高く、平成28年度では要介護2と3がそれぞれ6億円台、要介護4が7億円余りとなっています。また要介護2より重い介護度では給付費の増加傾向が見られ、特に要介護4の増加が大きいです。

要介護2～要介護4の割合をそれぞれ見ると、要介護2と3はやや減少傾向となっていますが、要介護4は上昇傾向にあり、平成28年には22.2%を占めています。

なお、平成28年度見込み額の33億円のうち、約25億円は通所介護、約5億円は通所リハビリテーションの給付費となります。

表23 通所系サービス給付費

単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
要支援1	56,314	63,749	71,909	56,977	46,843
要支援2	221,103	234,761	241,741	223,379	209,316
要介護1	433,629	447,230	433,020	472,487	441,140
要介護2	621,364	692,581	717,094	764,289	688,726
要介護3	569,978	643,140	729,456	750,050	650,999
要介護4	552,924	592,344	693,671	792,267	733,324
要介護5	334,238	374,540	400,459	444,943	382,283
計	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,300,251
要介護2の占有率	22.3%	22.7%	21.8%	21.8%	20.9%
要介護3の占有率	20.4%	21.1%	22.2%	21.4%	19.7%
要介護4の占有率	19.8%	19.4%	21.1%	22.6%	22.2%

資料：「介護保険事業状況報告」より 年報（平成28年のみ見込み額）

図21 通所系サービス給付費推移

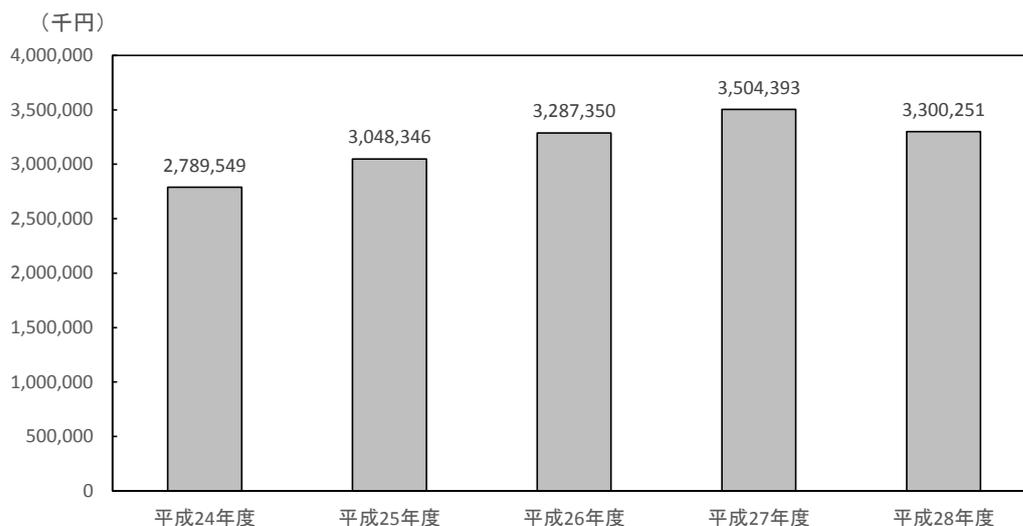
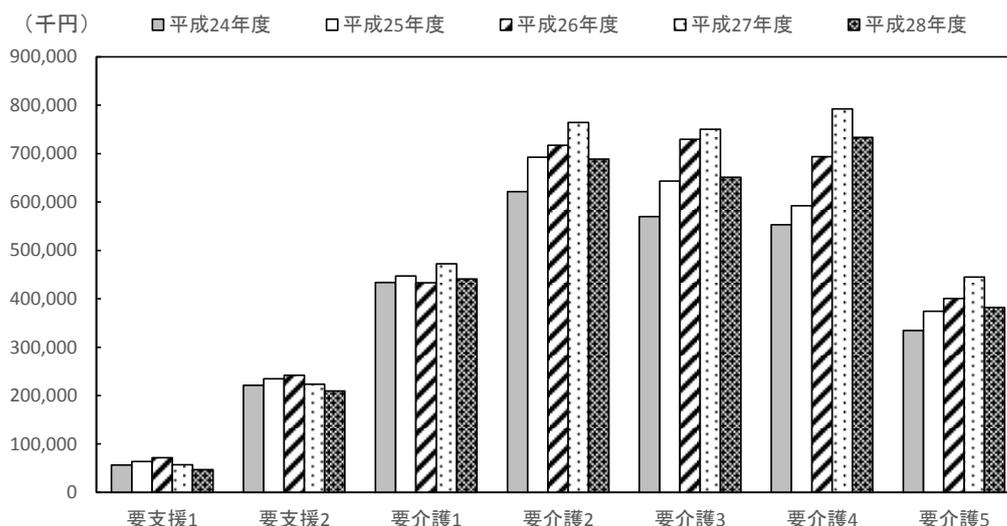


図22 通所系サービス給付費推移 (要介護度別)



③地域密着型サービスの内訳

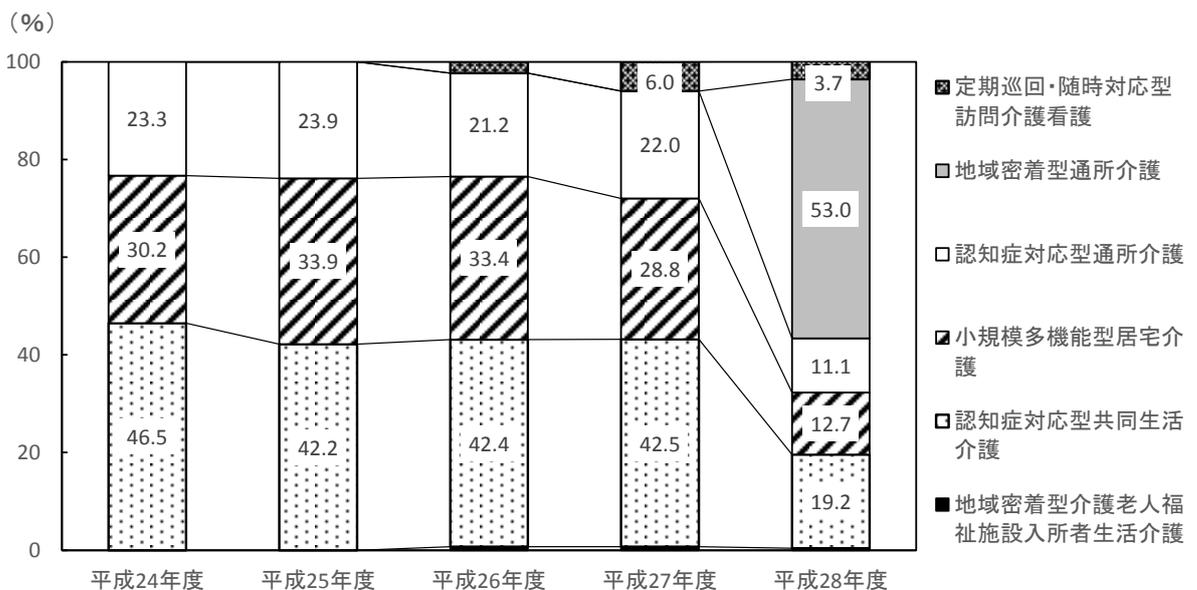
地域密着型サービスのサービス別給付費を見ると、平成24年度以降では認知症対応型共同生活介護(グループホーム)が1億6,000万円～1億7,000万円程度、小規模多機能型居宅介護が8,000万円～1億円程度、認知症対応型通所介護が8,000万円～1億円程度で推移しており、この3つが本市の地域密着型サービスの柱となってきました。

平成26年度からは定期巡回・随時対応型訪問介護看護も開始したほか、平成28年度は通所介護から一部事業所が移行した地域密着型通所介護が開始しており、給付費が5億円近くになると見込まれており、地域密着型サービスの5割あまりを占めることとなります。

表24 地域密着型サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	0	0	9,265	25,265	33,602
夜間対応型訪問介護	0	0	0	0	0
地域密着型通所介護	0	0	0	0	486,274
認知症対応型通所介護	82,523	92,075	85,616	92,051	102,176
小規模多機能型居宅介護	107,301	130,314	135,159	120,467	116,711
認知症対応型共同生活介護	165,094	162,355	171,233	177,761	176,088
地域密着型特定施設入居者生活介護	0	0	0	0	0
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	0	0	2,905	3,053	3,234
複合型サービス（看護小規模多機能型居宅介護）	0	0	0	0	0
地域密着型サービス計	354,918	384,743	404,179	418,597	918,086
伸び率(対前年度)		8.40	5.05	3.57	119.32

図23 地域密着型サービス給付費の構成比



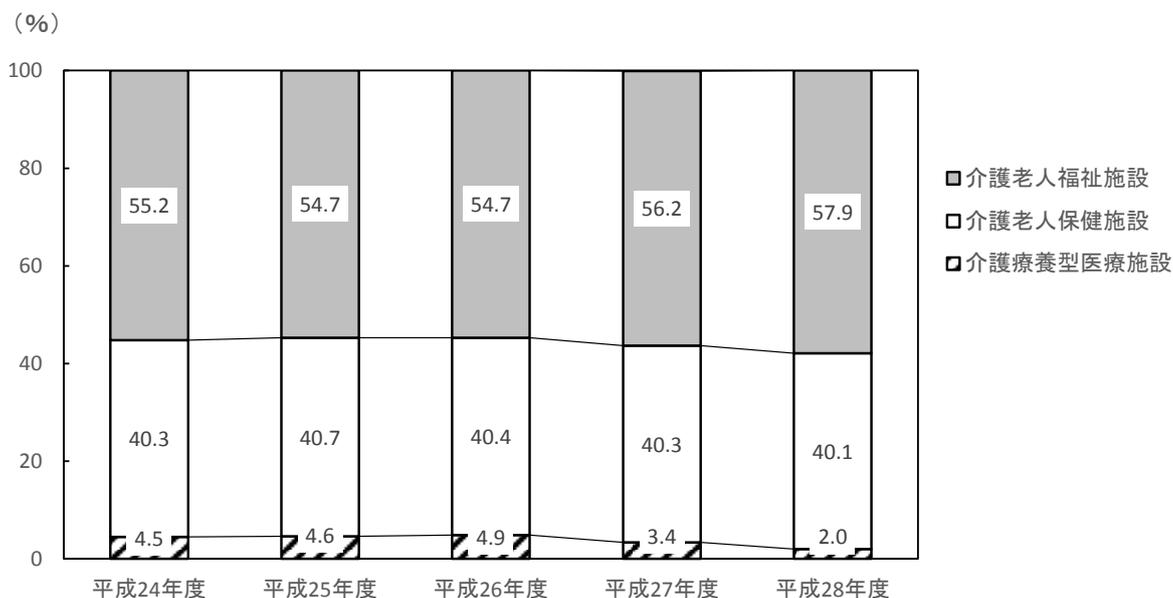
④施設サービスの内訳

施設サービスのサービス別給付費を見ると、介護老人福祉施設は概ね13億円半ば、介護老人保健施設は10億円弱で推移しており、微減傾向となっています。介護療養型医療施設は平成24年度の1億円程度が平成28年度では4,000万円台に減少すると見込んでいます。

表25 施設サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
介護老人福祉施設	1,320,546	1,338,267	1,354,819	1,360,615	1,357,400
介護老人保健施設	965,556	996,326	998,869	976,134	940,814
介護療養型医療施設	107,830	113,713	120,929	82,551	46,287
施設サービス計	2,393,932	2,448,307	2,474,617	2,419,300	2,344,501
伸び率(対前年度)		2.27	1.07	-2.24	-3.09

図24 施設サービス給付費の構成比



(8) 通所介護と地域密着型通所介護

①給付費

通所介護と地域密着型通所介護を合わせた給付費(平成 28 年度)について見ると、通所介護は約 25 億円、地域密着型通所介護は約 5 億円であり、合計約 30 億円に上ると見込まれています。これは平成 27 年度までの通所介護の給付額(約 28 億円)を上回っており、第 6 期においても通所介護の給付費が着実の伸びていることがわかります。

また、要介護度別に給付費の伸びを見ると、要介護 1 から要介護 5 まで、平成 28 年度においても前年度を上回っており、特に要介護 4 の伸びが大きくなっています。

表26 通所介護及び地域密着型通所介護の給付費

		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
通所介護	要支援1	38,932	47,491	52,943	43,790	(34,456)
	要支援2	145,978	163,513	168,845	158,946	(142,824)
	要介護1	297,649	327,891	332,424	365,481	(340,604)
	要介護2	428,191	510,538	547,264	591,219	(509,534)
	要介護3	418,421	499,268	583,571	606,662	(512,014)
	要介護4	444,762	477,550	570,295	641,836	(565,532)
	要介護5	257,176	296,161	308,361	371,655	(305,268)
	計	2,031,109	2,322,413	2,563,702	2,779,589	2,544,152
地域密着型通所介護	要支援1	0	0	0	0	(0)
	要支援2	0	0	0	0	(0)
	要介護1	0	0	0	0	(43,724)
	要介護2	0	0	0	0	(92,372)
	要介護3	0	0	0	0	(97,708)
	要介護4	0	0	0	0	(122,369)
	要介護5	0	0	0	0	(87,316)
	計	0	0	0	0	486,274
合計	2,031,109	2,322,413	2,563,702	2,779,589	3,030,426	
前年伸び率	-	14.34	10.39	8.42	9.02	

資料：「介護保険事業状況報告」より 平成28年度は見込み

(平成28年の要介護度別給付費は6月分を12倍した仮値)

図25 通所介護と地域密着型通所介護給付費推移

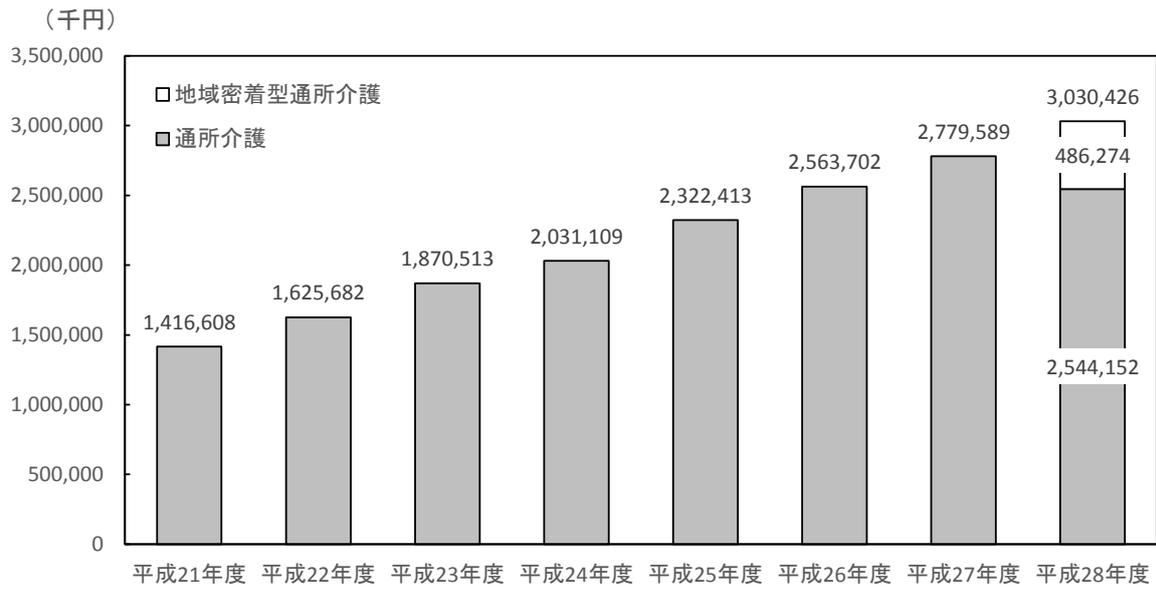
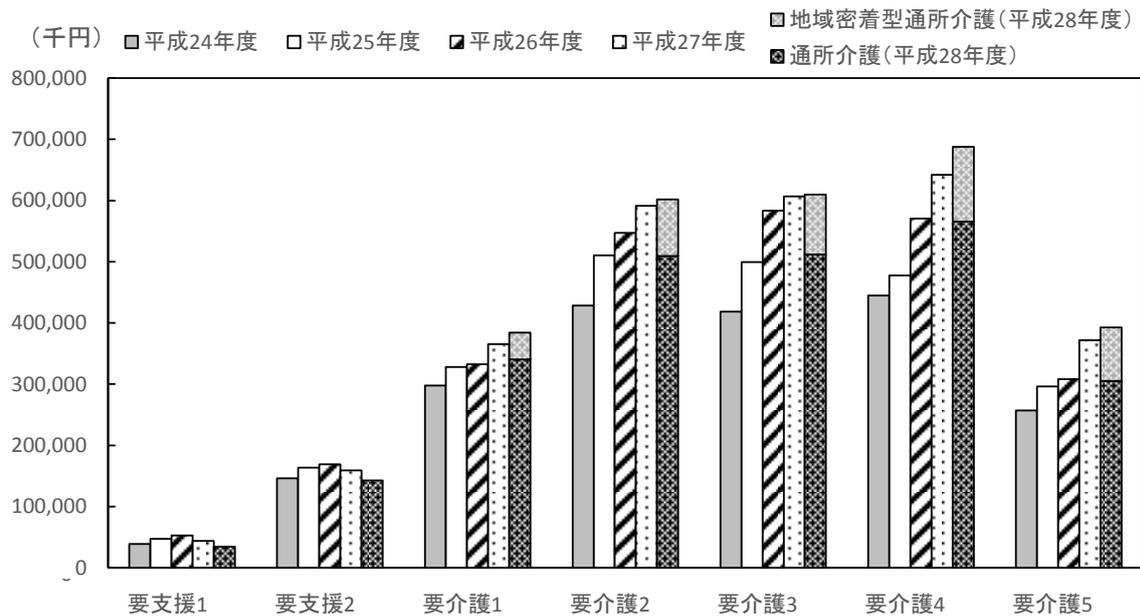


図26 通所介護と地域密着型通所介護給付費推移（要介護度別）



第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

第1節 調査の概要について

1. 調査概要

(1) 調査の目的

本調査は、地域における高齢者の身体状況及び要介護状態になるリスク発生状況を把握するとともに、生活支援の充実、高齢者の社会参加・支え合い、介護予防などの実態等を把握し、市の高齢者福祉計画・介護保険事業計画を見直す際の基礎資料として活用することを目的とします。

(2) 調査の対象者と配布件数

- ・本調査の対象者は、市内在住で在宅の65歳以上高齢者20,572人（※要介護1～5を除いた数）。
- ・市の介護保険被保険者台帳より4,000人を無作為に抽出して配布。

(3) 調査の方法

- ・郵送による配布・回収
- ・回収率向上のため、お礼状兼督促状の配布（1回）を実施。

(4) 調査期間

基準日：平成28年12月1日

調査期間：平成29年1月5日～平成29年2月9日

(5) 回収率

	配布数	有効回答数	回収率 (有効回答率)
回収率	4,000件	2,514件	62.8%

(参考：圏域別の回収状況)

圏域	回収数	構成比(A)	実際の構成比(B) (住基H28.4.1)	差 (A-B)
勝連地区	286	11.4%	12.9%	-1.5
与那城地区	303	12.1%	12.8%	-0.7
具志川第1地区	671	26.7%	28.7%	-2.0
具志川第2地区	692	27.6%	25.6%	2.0
石川地区	558	22.2%	20.0%	2.2
合計	2,510	100.0%	100.0%	-

※回収数のうち、4人は地域不明

(6) サンプル数(有効回答数)について

母集団への調査(全数調査)とサンプリング調査との誤差はサンプル数で変わります。サンプル数が少ないほど誤差は大きくなるため、精度を上げようとすればたくさんのサンプル数が必要となります。今回のサンプル数について、以下の計算式により調査の標本誤差を算出しました。(信頼度 95%の調査として設定)

算式

$$n \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{1.96}\right)^2 \left(\frac{N-1}{p(1-p)}\right) + 1}$$

※ n = 標本数またはサンプル数
※ N = 母集団数 (今回の場合は調査対象の高齢者数)
※ e = 標本誤差 (標本値と母集団値との差)
※ p = 回答比率 (通常 50%として設定)
※ 1.96 は信頼度 95%とした場合の定数。

サンプル数 (標本数)	標本誤差
377 件	±5.0%
583 件	±4.0%
1,015 件	±3.0%
2,150 件	±2.0%
2,514 件	±1.83%

計算によると、本調査の母集団(20,572人)に対するサンプル数(2,514人)の標本誤差は±1.83%となります。一般的には標本誤差±3～4%の範囲内が許容であり、本調査結果は母集団の声を反映していると言えます。

(7) 調査項目

- ・ 国から示された調査票(必須項目+オプション項目)及び市の独自項目で実施

【介護予防・日常生活圏域ニーズ調査票：必須項目】

No.	項目	設問内容
問1	家族の生活状況について	基本情報
問2	からだを動かすことについて	運動機能の低下、転倒リスク、閉じこもり傾向を把握
問3	食べることについて	口腔機能の低下、低栄養の傾向を把握
問4	毎日の生活について	認知機能の低下、IADLの低下を把握
問5	地域での活動について	ボランティア等への参加状況、今後の参加意向
問6	たすけあいについて	うつ傾向を把握
問7	健康について	知的能動性、社会的役割、社会参加の状況等を把握

【オプション項目】

No.	項目	設問内容
問1	家族の生活状況について	・介護・介助が必要になった原因 ・主な介護・介助者の状況 ・住まいの状況
問2	からだを動かすことについて	・外出を控えているか その理由 ・外出の際の交通手段
問3	食べることについて	・むせることがあるか ・口の渇きが気になるか ・歯みがきの状況 ・噛み合わせの状況 ・入れ歯の手入れ状況 ・体重の減少
問4	毎日の生活について	・電話番号を調べ電話をかけられるか ・今日の日付がわからないときがあるか ・年金などの書類が書けるか
問5	地域での活動について	・老人クラブ、町内会、自治会 ・収入のある仕事の状況
問6	たすけあいについて	・家族や有人以外で相談する相手は？ ・友人、知人と会う頻度 ・この1ヶ月で何人の友人に会ったか ・よく合う友人と、知人との関係
問7	健康について	・飲酒の頻度

【市の独自項目】

No.	項目	設問内容の意図
問4	毎日の生活状況について	・仕舞い忘れについて(日機能に関する設問として)
問8	その他	・生活支援の要望 ・健康づくりや介護予防の支援の要望

2. 集計について

- ・各設問に示している「回答者実数」は、全員に回答してもらう設問では有効回答数と同数であるが、回答者を限定している設問では、その条件に合う人のみが対象となるため、有効回答数を下回っている。(例：健診を受けている人だけ回答するなど)
- ・集計では、小数点以下第2位を四捨五入しているため、割合を合計しても 100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答の設問については、回答数の合計が回答者実数を上回ることがある。このため、割合の合計が 100%を超える場合がある。
- ・集計によっては、回答者実数が 10 人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要がある。

3. 各種リスクの把握について

(1) リスク判定

本調査は、要介護状態になるリスク(各種リスク)の発生状況を把握するとともに、各種リスクに影響を与える日常生活(社会参加状況)の状況を把握し、各種リスク者等の特徴(性別、年齢別、地域別、世帯別など)から地域診断を行うことを目的としています。

このため、各種リスクの把握においては、国から示された以下の項目等にもとづいて、リスク把握項目を集計し、身体機能等のリスクを有しているかどうか判定を行い分析しています。

【各種リスク把握項目】

リスク項目	関連設問	備 考
①運動器	問 2	今回国から示されたリスク判定方法を使用
②転倒	問 2	
③閉じこもり	問 2	
④栄養(低栄養)	問 3	
⑤口腔機能	問 3	
⑥認知機能	問 4	
⑦ I A D L (6期条件を使用)	問 4	今回は国からリスク判定を示されていないが、これらのリスク者把握が調査項目から可能であるため、第6期に示された条件で判定を行った
⑧知的能動性(低下者) (6期条件を使用)	問 4	
⑨社会的役割(低下者) (6期条件を使用)	問 4	
⑩うつ	問 7	今回国から示されたリスク判定方法を使用
⑪二次予防事業対象者 (6期条件を使用)	問 1	今回は国からリスク判定を示されていないが、一般高齢者と要介護となるおそれのある人を比較するため、第6期に示された条件で判定を行った

(2) 各種リスク判定方法

各種リスク判定の際に使用する調査項目と判定方法を示しております。

①運動器の機能低下リスク

設問番号	設問内容
2(1)	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
2(2)	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
2(3)	15分位続けて歩いていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
2(4)	この1年間に転んだことがありますか 1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
2(5)	転倒に対する不安は大きいですか 1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない
この設問で3問以上、該当する選択肢(上の表の□)の選択肢)が回答された場合は、運動器機能の低下している高齢者(リスク者)になります	

②転倒リスク

設問番号	設問内容
2(4)	この1年間に転んだことがありますか 1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない
(4)で「1. 何度もある」「2. 1度ある」に該当する選択肢が回答された場合は、転倒リスクのある高齢者になります	

③閉じこもりリスク

設問番号	設問内容
2(6)	週に1回以上は外出していますか <input type="checkbox"/> 1. ほとんど外出しない <input type="checkbox"/> 2. 週1回 <input type="checkbox"/> 3. 週 2～4 回 <input type="checkbox"/> 4. 週 5 回以上
2(6)で「1. ほとんど外出しない」「2. 週 1 回」に該当する選択肢が回答された場合は、閉じこもり傾向のある高齢者(リスク者)になります。	

④栄養（低栄養）リスク

設問番号	設問内容
3(1)	身長、体重 身長()cm <input type="checkbox"/> BMI 18.5 以下 体重()kg
3(7) オプション	6カ月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
身長・体重から算出されるBMIが18.5 以下の場合、低栄養が疑われる高齢者になります。低栄養状態を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、体重の減少傾向を把握する「6ヶ月間で2～3kg 以上の体重減少がありましたか」も併せて確認し、2設問ともに該当した場合は、低栄養状態にある高齢者(リスク者)になります。	

⑤口腔機能リスク

設問番号	設問内容
3(2)	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
3(3) オプション	お茶や汁物等でむせることがありますか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
3(4) オプション	口の渇きが気になりますか <input type="checkbox"/> 1. はい <input type="checkbox"/> 2. いいえ
3(2)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者になります。 口腔機能の低下を確認する場合は、オプション項目にある設問のうち、嚥下機能の低下を把握する「お茶や汁物等でむせることがありますか」、肺炎発症リスクを把握する「口の渇きが気になりますか」も併せて確認し、3設問のうち2設問に該当した場合は、口腔機能の低下している高齢者(リスク者)になります。	

⑥ 認知機能リスク

設問番号	設問内容
4(1)	物忘れが多いと感じますか。 1. はい 2. いいえ
4(1)で「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、認知機能の低下がみられる高齢者(リスク者)になります。	

⑦ IADL低下リスク

設問番号	設問内容
4(4)	バスや電車で一人で外出していますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(5)	日用品の買物をしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(6)	自分で食事の用意をしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(7)	請求書の支払いをしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
4(8)	預貯金の出し入れをしていますか 1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない
上記の設問で「1. できるし、している」「2. できるけどしていない」の回答を1点とし、配点合計が、 5点:高い 4点:やや低い 0~3点:低い(リスク者)	

⑧知的能動性低下リスク

設問番号	設問内容
4(9) オプション	年金などの書類が書けますか 1. はい 2. いいえ
4(10) オプション	新聞を読んでいますか 1. はい 2. いいえ
4(11) オプション	本や雑誌を読んでいますか 1. はい 2. いいえ
4(12) オプション	健康についての記事や番組に関心がありますか 1. はい 2. いいえ
上記の設問で「1. はい」の回答を1点とし、 配点合計が、4点:高い 3点:やや低い 0~2点:低い(リスク者)	

⑨社会的役割低下リスク

設問番号	設問内容
4(13) オプション	友人の家を訪ねていますか 1. はい 2. いいえ
4(14) オプション	家族や友人の相談にのっていますか 1. はい 2. いいえ
4(15) オプション	病人を見舞うことができますか 1. はい 2. いいえ
4(16) オプション	若い人に自分から話しかけることがありますか 1. はい 2. いいえ
上記の設問で「1. はい」の回答を1点とし、 配点合計が、4点:高い 3点:やや低い 0~2点:低い(リスク者)	

⑩うつリスク

設問番号	設問内容
7(3)	この1か月、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか 1. はい 2. いいえ
7(4)	この1か月、物事に対して興味がわかない、心から楽しめない感じがよくありましたか。 1. はい 2. いいえ
7(3)、7(4)でいずれか1つでも「1. はい」に該当する選択肢が回答された場合は、うつ傾向の高齢者(リスク者)になります	

第2節 調査結果

1. 回答者の基本属性等

(1) 性別、年齢

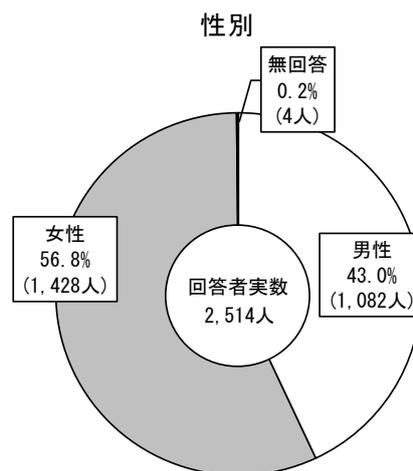
調査対象者の性別は、「男性」が43.0%、「女性」が56.8%であり、女性の方が多くなっています。

年齢は、「65歳～69歳」が32.1%、「70歳～74歳」が19.3%であり、これらを合わせた前期高齢者(65歳以上75歳未満)の占める割合が51.4%と、半数を超えています。また、前期高齢者は男性の方が多く、後期高齢者は女性の方で多くなっています。

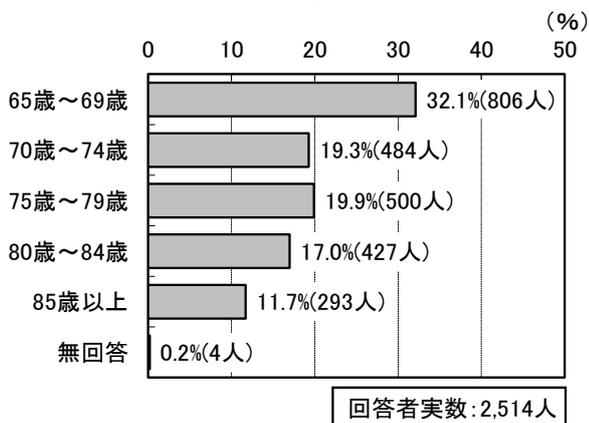
年齢について地区別に見ると、勝連地区と具志川第2地区では前期高齢者が後期高齢者より多く、与那城地区では後期高齢者の方が多くなっています。具志川第1地区と石川地区は、前期・後期は同程度の割合となっています。

年齢（性別、地区別）

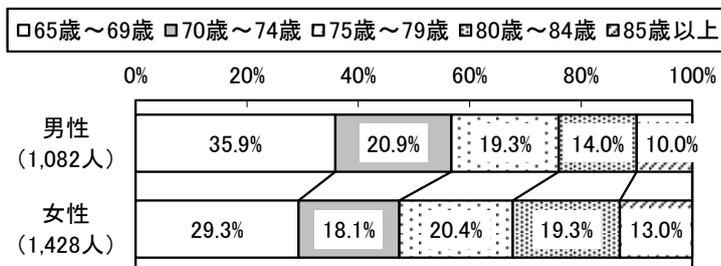
	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	100.0% (2,514人)	51.4% (1,290人)	48.5% (1,220人)
男性	43.0% (1,082人)	56.7% (614人)	43.3% (468人)
女性	56.8% (1,428人)	47.3% (676人)	52.7% (752人)
勝連地区	11.4% (286人)	53.5% (153人)	46.5% (133人)
与那城地区	12.1% (303人)	44.6% (135人)	55.4% (168人)
具志川第1地区	26.7% (671人)	51.9% (348人)	48.1% (323人)
具志川第2地区	27.5% (692人)	54.3% (376人)	45.7% (316人)
石川地区	22.2% (558人)	49.8% (278人)	50.2% (280人)



年齢

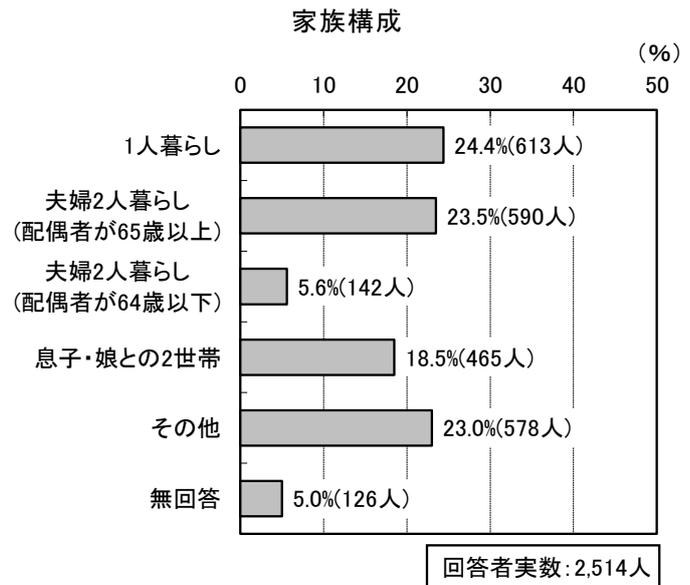


年齢（性別）



(2) 家族構成

家族構成を見ると、「1人暮らし」が24.4%で最も高く、高齢者の4人に1人は独居高齢者であることがわかります。また、「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」が23.5%でこれについて高くなっています。

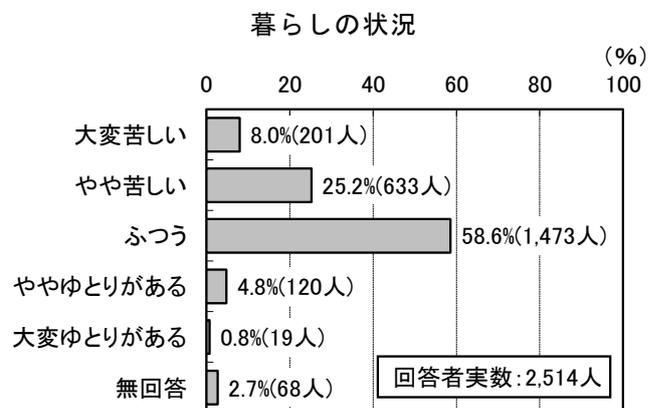


(3) 暮らしの状況 (経済的に見て)

経済的な面での暮らしの状況を尋ねました。最も高いのは「ふつう」の58.6%であり、約6割は普通であると回答しています。

性別に見ると、回答の構成比に男女差はあまりありませんが、「普通」という回答は女性の方で若干高く、また生活が苦しいという回答は男性の方で僅かに高くなっています。

年齢別では、「ふつう」は80歳以上で他の年代よりやや高くなっています。また、生活が苦しいという回答は、80歳以上の年代でやや低くなる傾向が見られます。

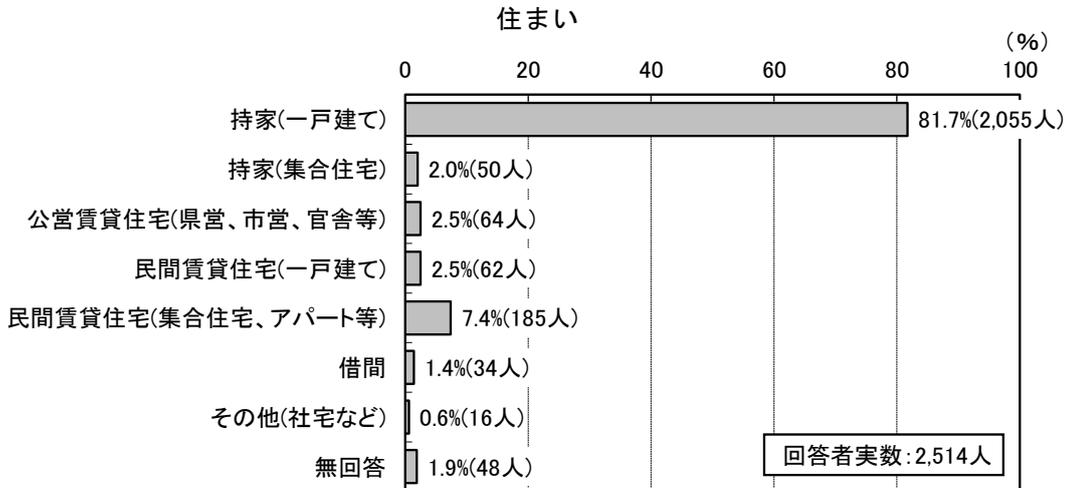


暮らしの状況 (性別、年齢別)

	回答者実数	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	無回答
男性	1,082人	8.8% (95人)	26.2% (283人)	56.6% (612人)	5.1% (55人)	0.6% (7人)	2.8% (30人)
女性	1,428人	7.4% (106人)	24.4% (348人)	60.2% (859人)	4.6% (65人)	0.8% (12人)	2.7% (38人)
65歳~69歳	806人	8.4% (68人)	27.4% (221人)	56.2% (453人)	5.6% (45人)	0.7% (6人)	1.6% (13人)
70歳~74歳	484人	11.0% (53人)	26.2% (127人)	56.2% (272人)	2.9% (14人)	0.4% (2人)	3.3% (16人)
75歳~79歳	500人	7.0% (35人)	26.8% (134人)	58.4% (292人)	5.4% (27人)	0.4% (2人)	2.0% (10人)
80歳~84歳	427人	6.8% (29人)	21.5% (92人)	62.1% (265人)	4.7% (20人)	1.2% (5人)	3.7% (16人)
85歳以上	293人	5.5% (16人)	19.5% (57人)	64.5% (189人)	4.8% (14人)	1.4% (4人)	4.4% (13人)

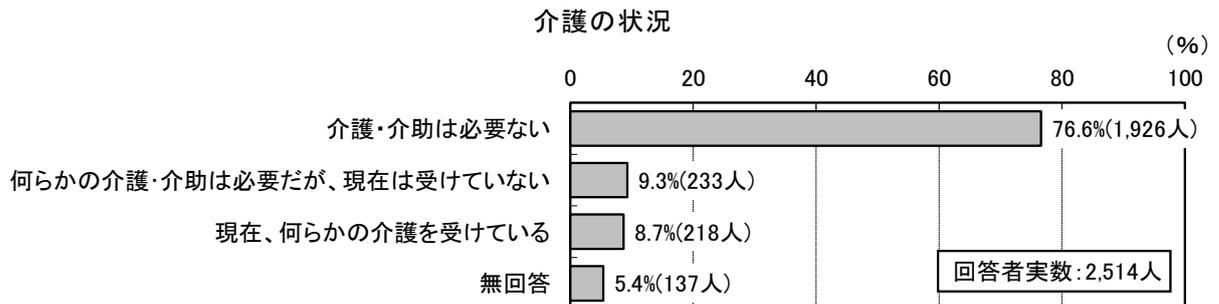
(4) 住まい

住まいについては、「持家(一戸建て)」が81.7%で圧倒的に高くなっています。



(5) 介護の状況

介護について見ると、「介護・介助は必要ない」が76.6%となっています。本調査の対象者が要介護1～5を除いた在宅の高齢者(一般高齢者と要支援者)であることから、介護を必要とする割合は低いものと考えられます。比較的元気な高齢者への調査ではありますが、約18%は介護や介助を必要としており、調査票回収者の中で要支援者は183人であり、介護認定を受けていないが介護を必要としている人も少し見られることがわかります。また、介護が必要であったり介護を受けている割合は、年齢が上がるとともに上昇する傾向となっています。



介護の状況 (年齢別)

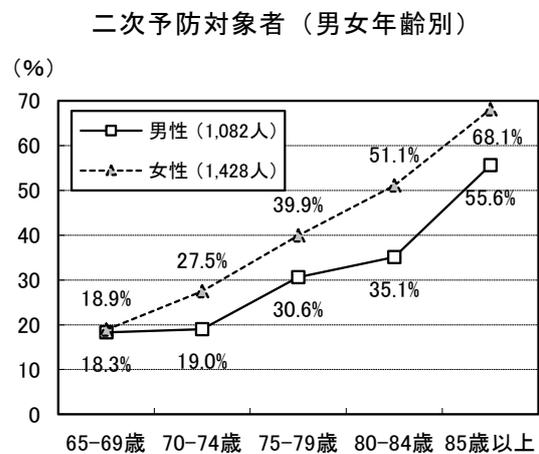
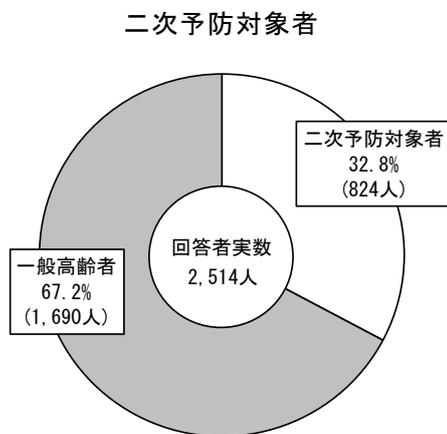
	回答者実数	介護・介助は必要ない	何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない	現在、何らかの介護を受けている	無回答
65歳～69歳	806人	89.3% (720人)	5.3% (43人)	2.4% (19人)	3.0% (24人)
70歳～74歳	484人	84.5% (409人)	5.2% (25人)	4.8% (23人)	5.6% (27人)
75歳～79歳	500人	76.4% (382人)	9.4% (47人)	9.2% (46人)	5.0% (25人)
80歳～84歳	427人	63.9% (273人)	15.2% (65人)	13.6% (58人)	7.3% (31人)
85歳以上	293人	47.1% (138人)	18.1% (53人)	24.6% (72人)	10.2% (30人)

(6) 二次予防対象者

第6期計画策定の際には、調査結果より身体機能低下者を集計し、これを二次予防対象者として要介護状態に陥るおそれのある人の把握を行いました。本調査においてもこの対象を把握し、集計しています。(新しい総合事業の対象者にも概ね相当すると思われるため)

二次予防対象者について見ると、対象となる人は32.8%で約3割となっています。

性別年齢別に見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しており、75歳～79歳では男性の約3割、女性の約4割、80歳以上になると女性では5割を超えています。

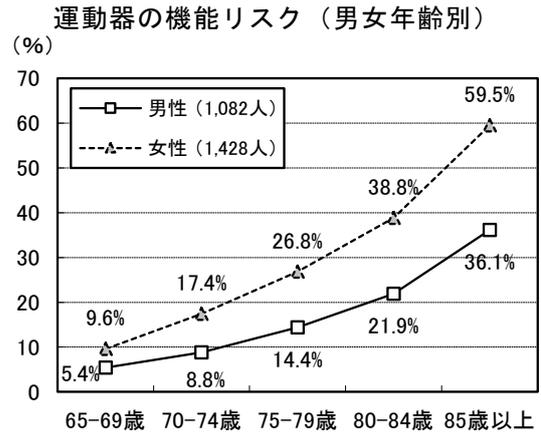
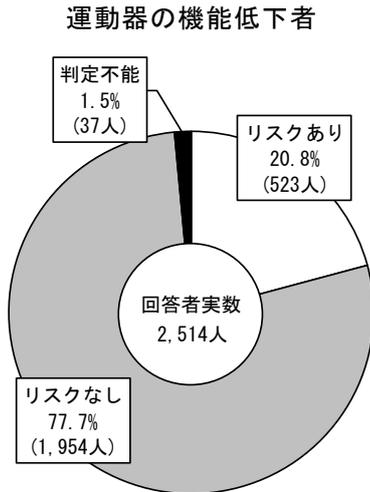


2. 体を動かすことについて

(1) 運動器の機能低下者（リスク者）

運動器のリスク者は20.8%で約2割となっています。

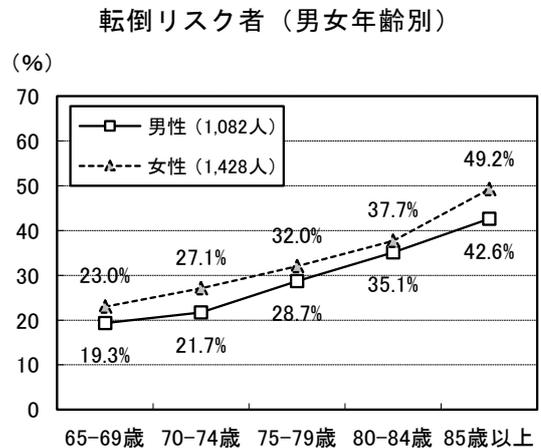
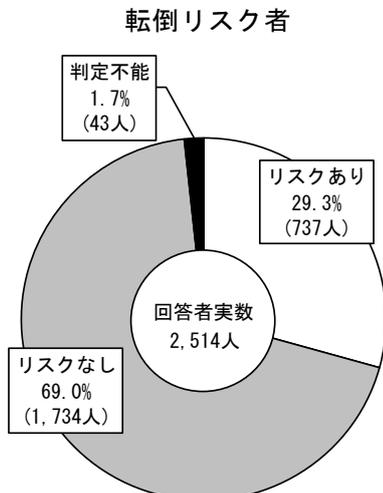
性別年齢別に見ると、男性に比べて女性の方が高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しています。男性では80歳～84歳で約2割、85歳以上では3割半ばを占め、女性では75歳～79歳で2割半ば、80歳～84歳では約4割、85歳以上では約6割を占めています。



(2) 転倒リスク者

転倒のリスク者は29.3%で約3割となっています。

性別年齢別に見ると、男性に比べて女性の方がやや高く、また年齢が上がるとともにこの割合が上昇しています。男性では75歳～79歳で約3割、85歳以上では4割余りとなります。女性でも80歳～84歳までは概ね男性と同様の推移をしていますが、85歳以上では約5割を占めています。



転倒に対する不安について、転倒リスクの有無別に見ると、「リスクあり」の方で不安を感じているものが多く、特に「とても不安である」は「リスクあり」で38.4%、「リスクなし」で12.5%とその差が大きくなっています。

転倒に対する不安はあるか（転倒リスク別）

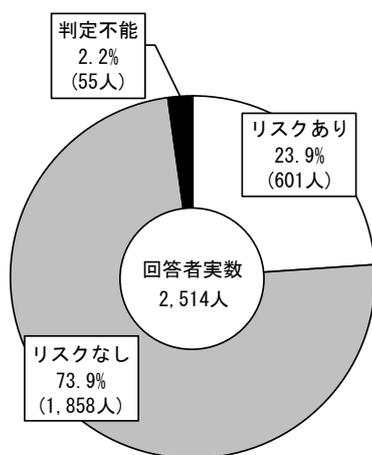
	回答者実数	とても不安である	やや不安である	あまり不安でない	不安でない	無回答
リスクあり	737人	38.4% (283人)	39.6% (292人)	14.1% (104人)	5.7% (42人)	2.2% (16人)
リスクなし	1,734人	12.5% (217人)	26.6% (461人)	29.1% (505人)	29.0% (502人)	2.8% (49人)

(3) 閉じこもり傾向（リスク者）

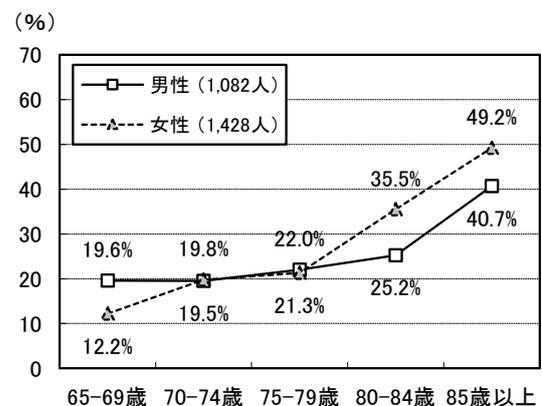
閉じこもりのリスク者は23.9%で約2割あまりとなっています。

性別年齢別に見ると、70歳～74歳までは男女とも2割未満であり、また僅かではありますが男性の方が高い傾向となっていますが、80歳以上では女性の方が高くなります。85歳以上では、男性は4割、女性は約5割がリスク者となっています。

閉じこもり傾向



閉じこもりリスク者（男女年齢別）



外出回数の減少について、閉じこもりリスクの有無別に見ると、「リスクあり」の方で減少しているという声が多く、「とても減っている」と「減っている」を合わせた割合は、「リスクあり」で56.0%、「リスクなし」で16.7%となっています。

昨年と比べて外出の回数が減っているか（閉じこもり傾向別）

	回答者実数	とても減っている	減っている	あまり減っていない	減っていない	無回答
リスクあり	601人	17.1% (103人)	38.9% (234人)	22.8% (137人)	18.1% (109人)	3.0% (18人)
リスクなし	1,858人	1.5% (27人)	15.2% (282人)	30.4% (565人)	52.2% (970人)	0.8% (14人)

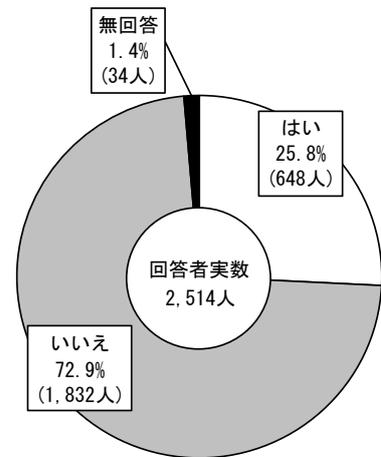
(4) 外出の状況

①外出を控えているか

外出を控えているか尋ねたところ、「はい」が25.8%、「いいえ」が72.9%となっています。

年齢別に見ると、外出を控えている人は年齢が上がるとともに高くなっており、75歳未満では2割以下ですが、75歳～79歳で約2割半ば、80歳～84歳では3割半ば、85歳以上では5割あまりに昇ります。

外出を控えているか



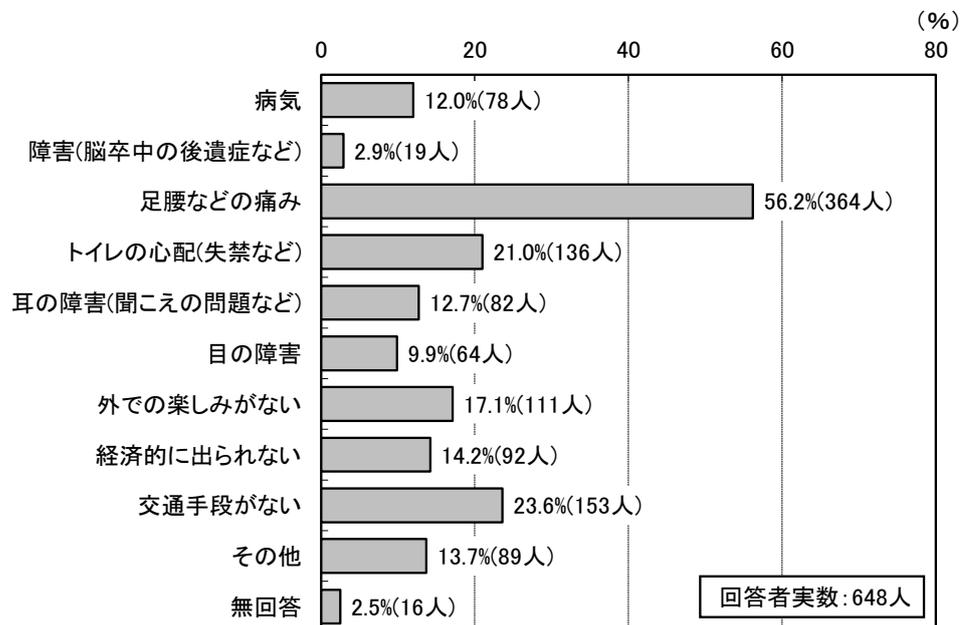
外出を控えているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	806人	14.0% (113人)	85.0% (685人)	1.0% (8人)
70歳～74歳	484人	20.0% (97人)	79.1% (383人)	0.8% (4人)
75歳～79歳	500人	25.2% (126人)	73.4% (367人)	1.4% (7人)
80歳～84歳	427人	36.3% (155人)	61.6% (263人)	2.1% (9人)
85歳以上	293人	53.6% (157人)	44.4% (130人)	2.0% (6人)

②外出を控えている理由

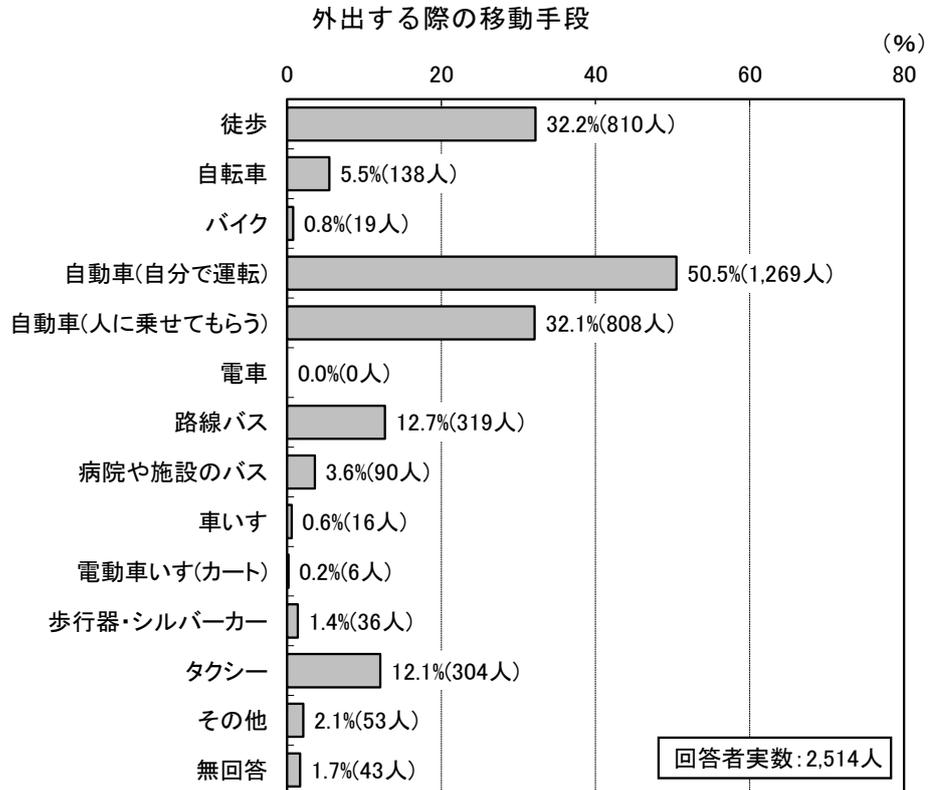
外出を控えている理由を見ると、「足腰などの痛み」が56.2%で圧倒的に高くなっています。また、「交通手段がない」(23.6%)と「トイレの心配」(21.0%)が2割台と比較的高く、その他の理由は2割未満となっています。

外出を控えている理由



③外出する際の移動手段

外出する際の移動手段としては、「自動車(自分で運転)」が50.5%でもっとも高く約半数を占めています。また、「徒歩」(32.2%)、と「自動車(乗せてもらう)」(32.1%)がそれぞれ約3割で比較的高く、その他の移動手段は15%未満となっています。

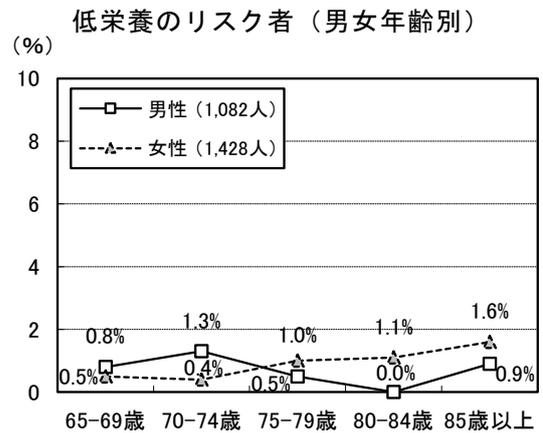
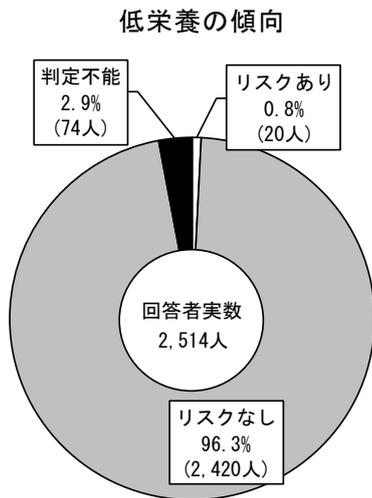


3. 食べることについて

(1) 低栄養の傾向（リスク者）

低栄養のリスク者は0.8%で非常に低くなっています。

性別年齢別に見ると、男女及び年齢による大きな差は見られませんが、僅かながら、74歳までは女性より男性の方が高く、75歳以降では女性の方が高くなっています。

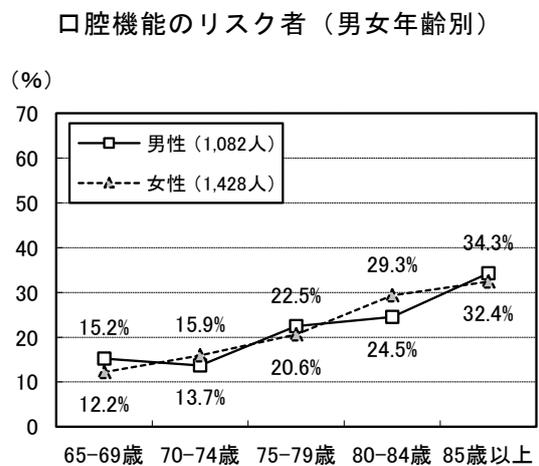
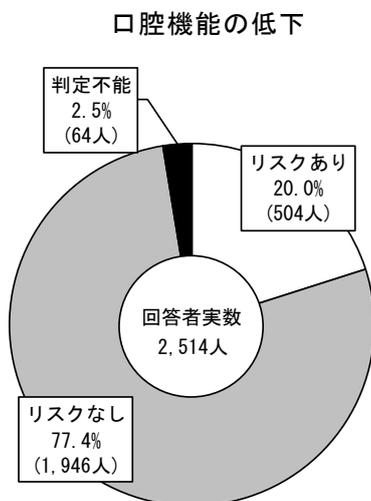


(2) 口腔機能低下

① 口腔機能の低下者（リスク者）

口腔機能のリスク者は20.0%で2割となっています。

性別年齢別に見ると、男女差はあまりなく、また年齢が上がるるとともにリスク者の割合が上昇しており、75～79歳では2割程度、85歳以上では3割あまりを占めています。

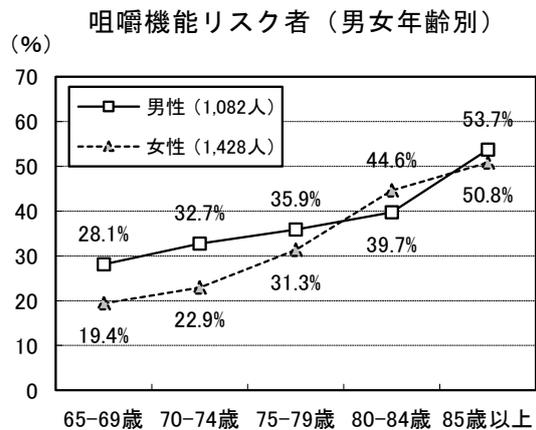
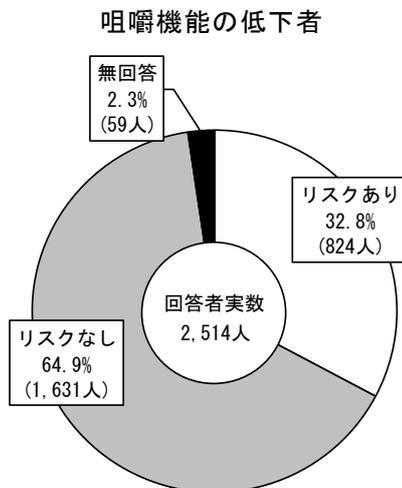


②咀嚼機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「半年前より固いものが食べにくくなったか」を尋ね、咀嚼機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

咀嚼機能のリスク者は 32.8% で 3 割あまりとなっています。

性別年齢別に見ると、65～79 歳までは男性の方でリスク者が高く、80～84 歳では女性の方がやや高くなっています。85 歳以上では男女差はあまり大きくありません。また年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しており、男性では 65～69 歳の約 3 割が 75～79 歳では 3 割半ば、85 歳以上では 5 割あまりとなっています。女性では、65～69 歳の約 2 割が 75～79 歳では約 3 割、85 歳以上では約 5 割へと伸びています。

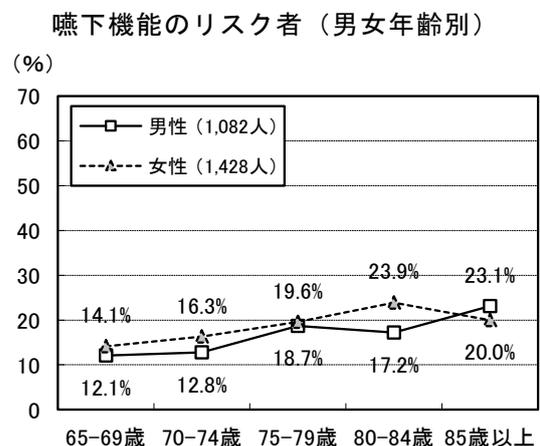
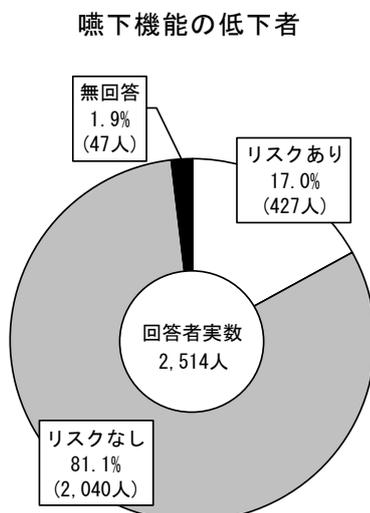


③嚥下機能の低下者（リスク者）

口腔機能のうち、「お茶等でむせることがあるか」を尋ね、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を把握しました。

嚥下機能のリスク者は 17.0% で 1 割半ばとなっています。

性別年齢別に見ると、男女及び年齢による大きな差は見られませんが、80～84 歳では、女性の方が男性よりややリスク者割合が高くなっています。

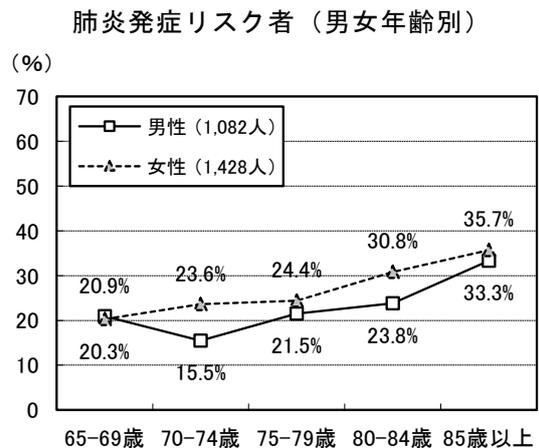
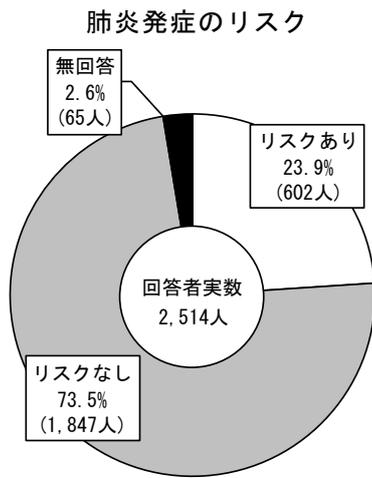


④肺炎発症リスク者

口腔機能のうち、「口の渇きが気になるか」を尋ね、肺炎発症リスクが疑われる高齢者を把握しました。

肺炎発症リスク者は23.9%で2割あまりとなっています。

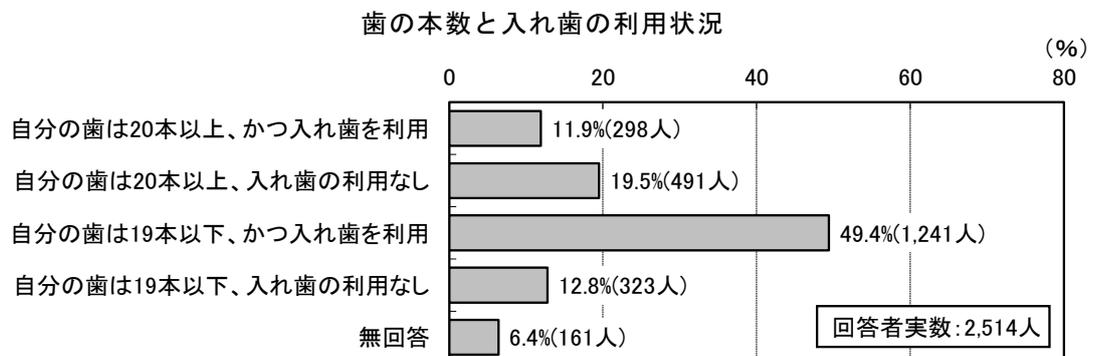
性別年齢別に見ると、女性の方が男性より高く、また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向にあります。男性では80～84歳までは2割台またはそれ以下ですが、85歳以上になると3割台に上昇します。女性では、75～79歳までは2割半ばですが、80歳以上で3割を超えています。



(3) 歯の健康

①歯の本数と入れ歯の利用状況

歯の本数と入れ歯の利用について見ると、「自分の歯は19本以下、かつ入れ歯を利用」という回答が49.4%で圧倒的に高くなっています。大半の高齢者は歯が19本以下で入れ歯も使用していることがわかります。歯が20本以上ある人は31.4%、入れ歯を利用していない人は32.3%であり、それぞれ3割程度となっています。



年齢別に見ると、各年代とも「歯は 19 本以下で入れ歯を利用」がもっとも高いですが、年齢が上がるとともにこの割合は高くなる傾向にあり、65～69 歳では 40.3%ですが、75～79 歳には 53.8%、85 歳以上では 59.4%となります。また、「歯は 20 本以上で入れ歯の利用なし」は、65～69 歳で 29.7%と約 3 割を占めていますが、75～79 歳では 16.0%と 2 割を下回り、85 歳以上では 5.8%へと低下しています。

歯の数と入れ歯の利用状況（年齢別）

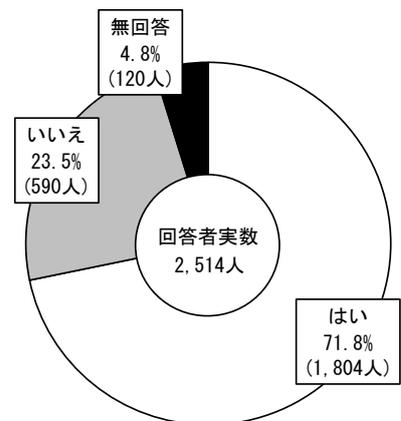
	回答者実数	自分の歯は 20 本以上		自分の歯は 19 本以下		無回答
		入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	
65 歳～69 歳	(806 人)	12.7% (102 人)	29.7% (239 人)	40.3% (325 人)	15.8% (127 人)	1.6% (13 人)
70 歳～74 歳	(484 人)	11.8% (57 人)	21.1% (102 人)	47.7% (231 人)	14.5% (70 人)	5.0% (24 人)
75 歳～79 歳	(500 人)	13.4% (67 人)	16.0% (80 人)	53.8% (269 人)	9.8% (49 人)	7.0% (35 人)
80 歳～84 歳	(427 人)	11.2% (48 人)	11.9% (51 人)	56.4% (241 人)	9.6% (41 人)	10.8% (46 人)
85 歳以上	(293 人)	8.2% (24 人)	5.8% (17 人)	59.4% (174 人)	11.9% (35 人)	14.7% (43 人)

②噛み合わせは良いか

噛み合わせについて尋ねたところ、「はい(良い)」という回答は 71.8%、「いいえ(悪い)」は 23.5%であり、ほとんどの高齢者は噛み合わせの問題がないとしています。

年齢別に見ると、「はい」は 75～79 歳までの世代は 7 割台ですが、80 歳以降の世代では 7 割未満となります。特に 85 歳以上は 63.1%と、6 割程度となっています。

噛み合わせは良いか



噛み合わせは良いか（年齢別）

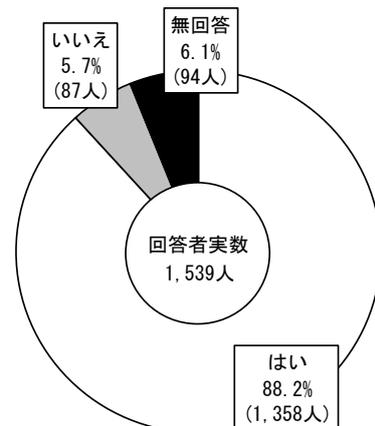
	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65 歳～69 歳	806 人	73.9% (596 人)	22.3% (180 人)	3.7% (30 人)
70 歳～74 歳	484 人	72.1% (349 人)	24.0% (116 人)	3.9% (19 人)
75 歳～79 歳	500 人	75.4% (377 人)	20.2% (101 人)	4.4% (22 人)
80 歳～84 歳	427 人	68.6% (293 人)	25.3% (108 人)	6.1% (26 人)
85 歳以上	293 人	63.1% (185 人)	29.0% (85 人)	7.8% (23 人)

③毎日入れ歯の手入れをしているか

毎日入れ歯の手入れをしているか尋ねたところ、「はい」が88.2%、「いいえ」が5.7%で、ほとんどの人が毎日手入れしていると回答しています。

年齢別に見ると、各世代とも「はい」という回答が8割後半を占めています。

毎日入れ歯の手入れをしているか



毎日入れ歯の手入れをしているか（年齢別）

	回答者実数	はい	いいえ	無回答
65歳～69歳	427人	88.1% (376人)	6.6% (28人)	5.4% (23人)
70歳～74歳	288人	87.5% (252人)	5.6% (16人)	6.9% (20人)
75歳～79歳	336人	89.9% (302人)	5.1% (17人)	5.1% (17人)
80歳～84歳	289人	87.9% (254人)	6.2% (18人)	5.9% (17人)
85歳以上	198人	87.4% (173人)	4.0% (8人)	8.6% (17人)

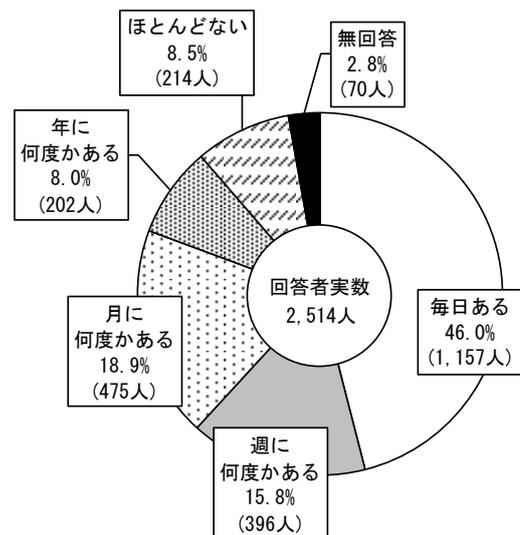
(4) 孤食の状況

だれかと食事をとにもする機会の有無を尋ね、孤食の状況を把握しました。

誰かと食事をとにもする機会がどの程度あるか尋ねたところ、「毎日ある」が46.0%でもっとも高く、大半を占めています。「週に何度かある」は15.8%であり、これら2つを合わせると、比較的共食できる状況にある高齢者は6割程度となっています。

「年に何度かある」が8.0%、「ほとんどない」が8.5%であり、孤食にある高齢者が16.5%であるほか、「月に何度かある」の18.9%も合わせると、孤食または孤食傾向にある高齢者が35.4%と3割半ばを占めています。

孤食の状況



性別に見ると、孤食の高齢者は男性が21.2%、女性が13.1%で、やや男性の方が高くなっています。また、孤食傾向の高齢者は、男性が39.7%、女性が32.3%であり、若干男性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、概ね、年齢が上がるとともに孤食や孤食傾向の割合が高くなる傾向が見られます。

孤食の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	毎日ある	週に 何度かある	孤食傾向の高齢者			無回答
				月に 何度かある	孤食の高齢者		
					年に 何度かある	ほとんどない	
男性	1,082人	45.0% (487人)	12.6% (136人)	18.5% (200人)	10.2% (110人)	11.0% (119人)	2.8% (30人)
女性	1,428人	46.7% (667人)	18.2% (260人)	19.2% (274人)	6.4% (92人)	6.7% (95人)	2.8% (40人)
65歳～69歳	806人	52.0% (419人)	14.1% (114人)	18.7% (151人)	6.0% (48人)	6.9% (56人)	2.2% (18人)
70歳～74歳	484人	45.7% (221人)	15.7% (76人)	18.8% (91人)	6.8% (33人)	10.7% (52人)	2.3% (11人)
75歳～79歳	500人	45.2% (226人)	15.4% (77人)	19.0% (95人)	11.0% (55人)	7.4% (37人)	2.0% (10人)
80歳～84歳	427人	39.3% (168人)	18.0% (77人)	22.5% (96人)	8.2% (35人)	8.0% (34人)	4.0% (17人)
85歳以上	293人	41.0% (120人)	17.7% (52人)	14.0% (41人)	10.6% (31人)	11.9% (35人)	4.8% (14人)

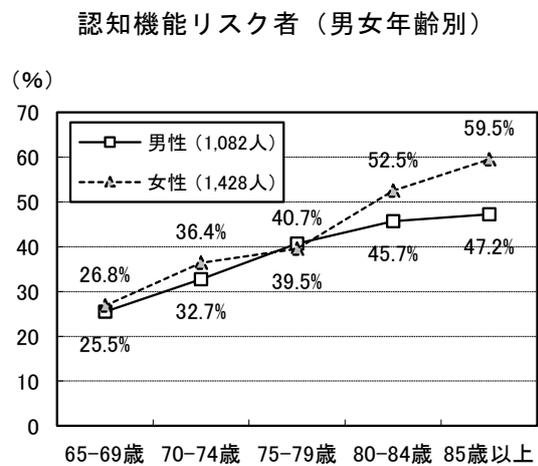
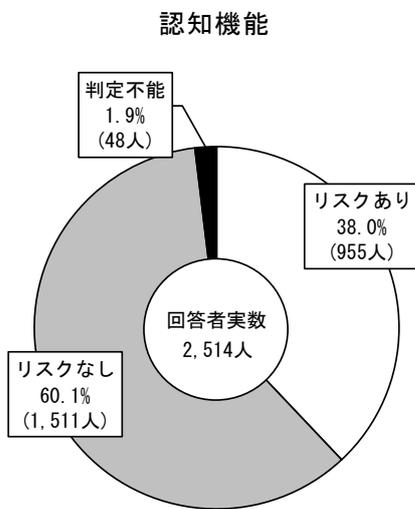
4. 毎日の生活について

(1) 認知機能

① 認知機能の低下者（リスク者）

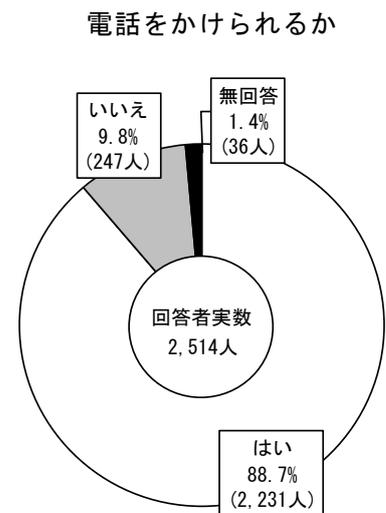
認知機能のリスク者は 38.0% で約 4 割となっています。

性別年齢別に見ると、男性より女性の方でリスク者が高い傾向にあり、また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇しています。男性は、65～69 歳では 2 割半ばですが、75～79 歳には約 4 割、85 歳以上では 4 割半ばとなります。女性は、75～79 歳までは男性と同程度の割合で推移していますが、その後は女性の方で伸びが大きく、80～84 歳で 5 割あまり、85 歳以上では約 6 割を占めます。



② 電話をかけられるか

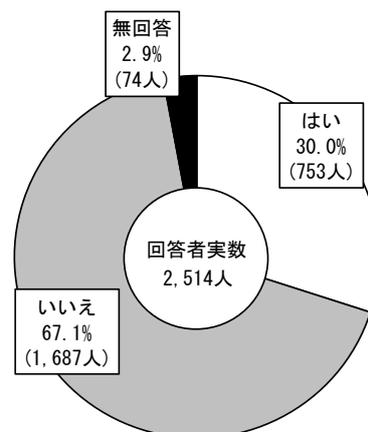
認知機能に関連して、自分で電話番号を調べて電話をかけられるか尋ねたところ、「はい(かけられる)」が 88.7%、「いいえ(かけられない)」が 9.8% となっています。



③日付がわからない時があるか

認知機能に関連して、今日の日付がわからないときがあるか尋ねたところ、「はい（わからない時がある）」が 30.0%、「いいえ（わからない時はない）」が 67.1%となっています。

日付がわからない時があるか



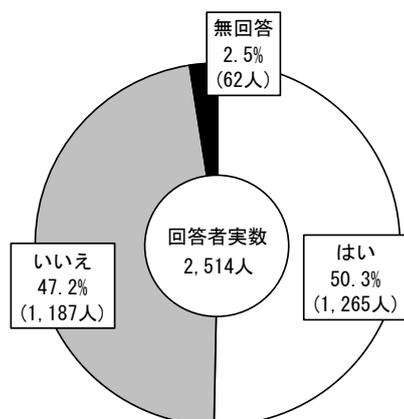
④物をしまった場所がわからなくなることがあるか（独自項目）

認知機能に関連して、物をしまった場所がわからなくなることがあるか尋ねました。

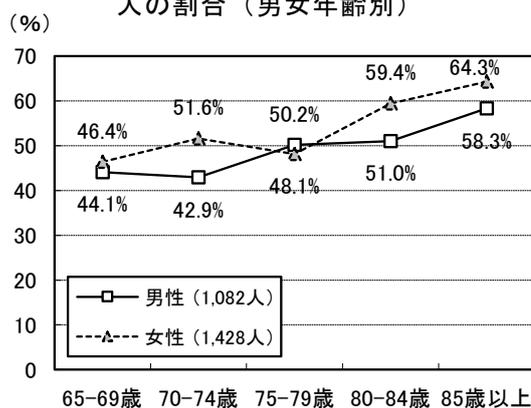
「はい（わからなくなることがある）」は 50.3%、「いいえ（わからなくなることはない）」が 47.2%であり、回答は半々となっています。

性別年齢別に見ると、概ね男性より女性の方でわからなくなる割合が高い傾向にあり、また、年齢が上がるとともにこの割合も上昇する傾向となっています。男性は 65～69 歳では 4 割半ばですが、75～79 歳には 5 割、85 歳以上では約 6 割となります。女性は、65～69 歳と 75～79 歳では男性と同程度の割合ですが、その他の年代では男性を 6～8 ポイントほど上回っています。

物をしまった場所がわからなくなることがあるか



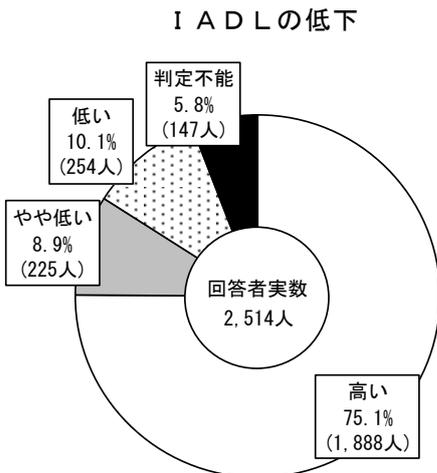
物をしまった場所がわからなくなる人の割合（男女年齢別）



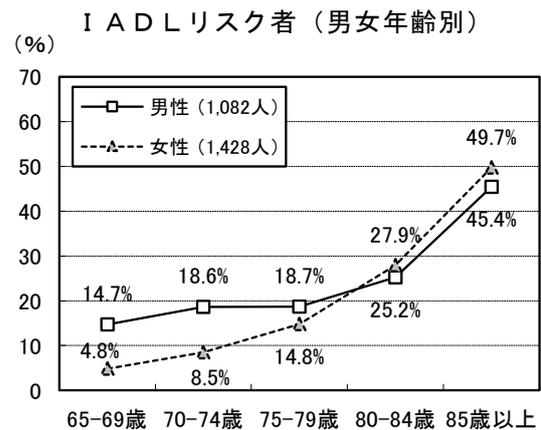
(2) IADLの低下者（リスク者）

買い物や洗濯・掃除等といった「手段的日常生活動作」であるIADLのリスク者は19.0%で約2割となっています。

性別年齢別に見ると、75～79歳までは男性の方が高く、80～84歳以降では、やや女性の方でリスク者が高い傾向にあります。また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっており、男性は、75～79歳以下の1割台が、85歳以上では5割近くと、大きく伸びています。女性は、75～79歳までは男性より低いですが、80～84歳では約3割、85歳以上では約5割を占めています。



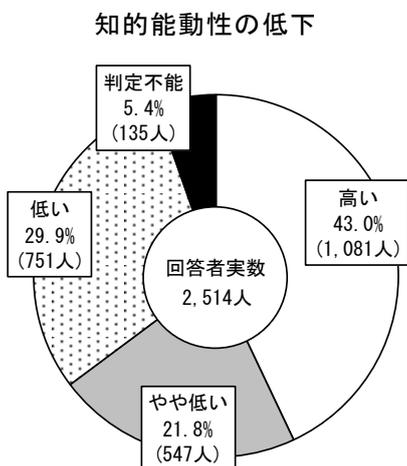
※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）



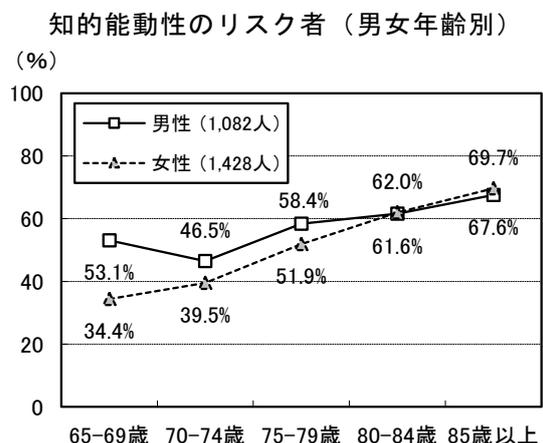
(3) 知的能動性の低下者（リスク者）

「新聞や雑誌等を読んでいるか」、「書類はかけるか」などの能力である知的能動性のリスク者は51.7%で約5割となっています。

性別年齢別に見ると、リスク者の割合は、75～79歳までは男性の方が高く、80～84歳以降では、男女とも同程度の割合で推移しています。また、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっています。男性は75～79歳で約6割、85歳以上では約7割を占め、女性は74歳までは3割台ですが、75～79歳では5割、80～84歳では6割あまり、85歳以上では7割近くを占めています。



※「やや低い」+「低い」=低下者（リスクあり）

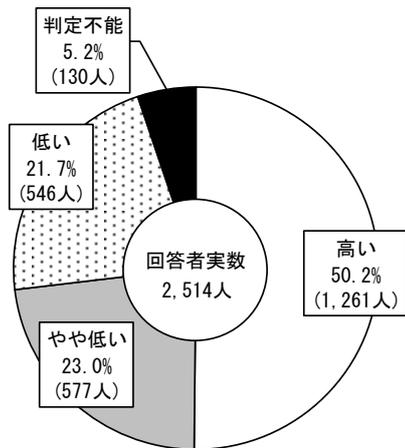


(4) 社会的役割の低下者（リスク者）

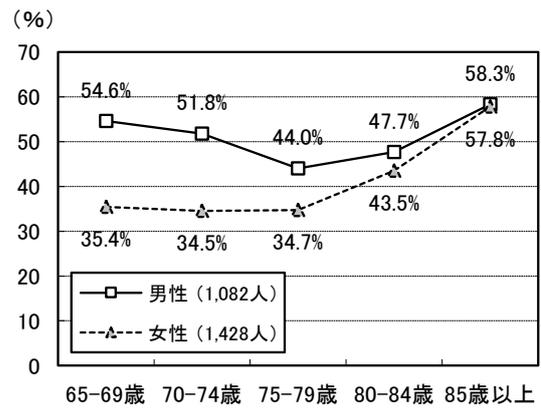
「友人の家を訪問するか」、「若者に話しかけるか」などの能力である社会的役割のリスク者は44.7%で4割半ばとなっています。

性別年齢別に見ると、リスク者の割合は、各年代で男性の方が女性より高く、特に65～74歳まで及び85歳以上の世代で50%を超えています。80～84歳以降では、男女とも同程度の割合で推移しています。また、75歳以降では、年齢が上がるとともにリスク者の割合が上昇する傾向となっています。

社会的役割能動性の低下



社会的役割リスク者（男女年齢別）

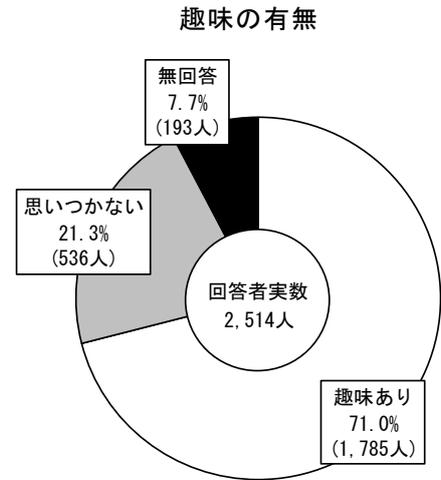


※「やや低い」＋「低い」＝低下者（リスクあり）

(5) 趣味や生きがい

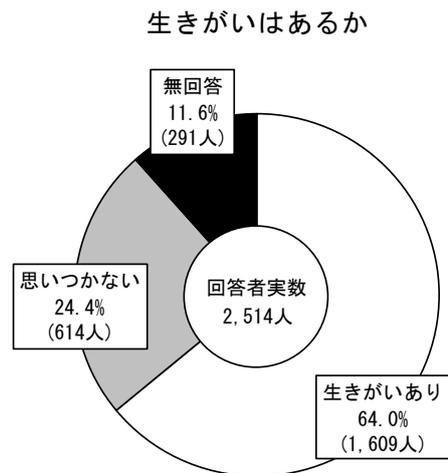
① 趣味の有無

趣味があるか訪ねたところ、「趣味あり」が71.0%、「思いつかない」が21.3%となっています。ほとんどの高齢者が趣味を持っていることがわかります。



② 生きがいはあるか

生きがいがあるか訪ねたところ、「生きがいがある」は64.0%、「思いつかない」が24.4%となっています。生きがいのある高齢者が大半を占めていることがわかります。



5. 地域での活動について

(1) 社会参加

社会参加の程度について尋ねたところ、「参加していない」という回答割合が非常に高く、特にボランティアグループ、学習・教養サークル、老人クラブは4割を超えています。全般的に社会参加活動や就労等を行っていない高齢者が多くを占めていることがわかります。

社会参加を「週4回以上」行っているという回答では、「収入のある仕事」がやや高く、8.2%となっています。また、「趣味関係のグループ」では週1回や週数回参加している人が比較的高く、「老人クラブ」は月数回、「町内会・自治会」は月数回や年に数回という回答が比較的高くなっています。

社会参加

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	1.0% (26人)	1.9% (47人)	0.9% (23人)	3.1% (78人)	3.9% (99人)	43.3% (1,088人)	45.9% (1,153人)
スポーツ関係のグループやクラブ	2.9% (72人)	4.9% (123人)	3.7% (94人)	3.9% (97人)	2.7% (68人)	39.7% (998人)	42.2% (1,062人)
趣味関係のグループ	2.5% (62人)	5.3% (133人)	6.2% (156人)	8.2% (206人)	3.3% (82人)	35.6% (896人)	38.9% (979人)
学習・教養サークル	0.5% (12人)	1.1% (28人)	1.4% (34人)	1.6% (40人)	2.1% (54人)	43.8% (1,101人)	49.5% (1,245人)
老人クラブ	1.6% (41人)	2.1% (53人)	1.9% (49人)	5.9% (149人)	4.5% (113人)	42.3% (1,064人)	41.6% (1,045人)
町内会・自治会	1.1% (27人)	1.0% (26人)	1.2% (30人)	5.1% (128人)	10.7% (269人)	37.2% (936人)	43.7% (1,098人)
収入のある仕事	8.2% (206人)	3.0% (75人)	1.0% (26人)	1.2% (30人)	1.6% (40人)	39.9% (1,002人)	45.1% (1,135人)

(2) 地域づくりへの参加意向

① 地域づくりへ参加者として参加したいか

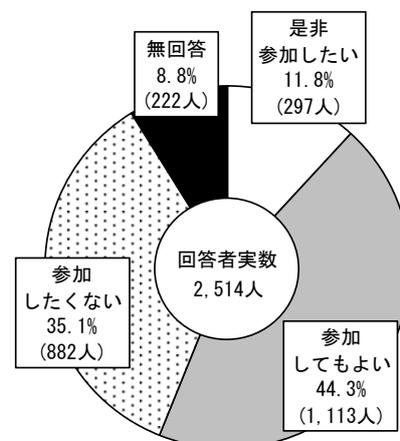
地域づくりへの参加意向を尋ねたところ、「是非参加したい」は11.8%、「参加してもよい」は44.3%であり、これらを合わせると参加意向は56.1%となっています。

性別に見ると、男女とも「参加してもよい」が4割台ですが、やや男性の方が高いです。また、「是非参加したい」は男性が7.9%、女性が14.7%で女性の方がやや高くなっています。「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせると、参加意向は男性が54.7%、女性が57.2%となり、若干女性の方が高くなっています。

年齢別に見ると、「是非参加したい」と「参加してもよい」の割合は年代が上がるともに減少する傾向となっており、特に80歳以降の年代でそれ以前の年代よりも減少が大きくなっています。「参加してもよい」の割合は、65～69歳は5割ですが、80～84歳では約4割、85歳以上では3割となります。

地区別では、各地区での大きな差は見られませんが、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた参加意向は勝連地区が55.6%、与那城地区が52.2%、具志川第1地区が55.9%、具志川第2地区が57.8%、石川地区が56.8%であり、「具志川第2地区」、「石川地区」で参加意向が僅かながら高くなっています。

地域づくりへ
参加者として参加したいか



地域づくりへ参加者として参加したいか（性別、年齢別、地域別）

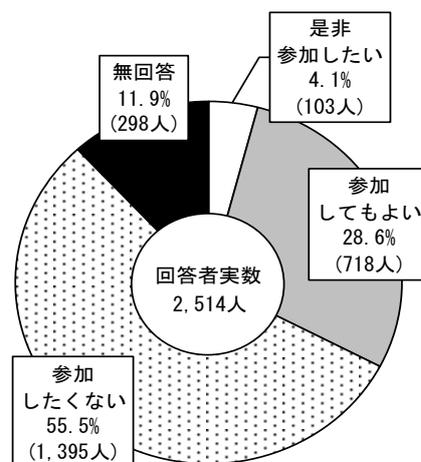
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
男性	1,082人	7.9% (86人)	46.8% (506人)	37.8% (409人)	7.5% (81人)
女性	1,428人	14.7% (210人)	42.5% (607人)	33.0% (471人)	9.8% (140人)
65歳～69歳	806人	12.7% (102人)	50.4% (406人)	32.3% (260人)	4.7% (38人)
70歳～74歳	484人	12.0% (58人)	47.3% (229人)	33.5% (162人)	7.2% (35人)
75歳～79歳	500人	14.6% (73人)	44.4% (222人)	32.8% (164人)	8.2% (41人)
80歳～84歳	427人	9.1% (39人)	39.3% (168人)	36.8% (157人)	14.8% (63人)
85歳以上	293人	8.2% (24人)	30.0% (88人)	46.8% (137人)	15.0% (44人)
勝連地区	286人	11.9% (34人)	43.7% (125人)	35.7% (102人)	8.7% (25人)
与那城地区	303人	11.6% (35人)	40.6% (123人)	38.0% (115人)	9.9% (30人)
具志川第1地区	671人	12.5% (84人)	43.4% (291人)	36.7% (246人)	7.5% (50人)
具志川第2地区	692人	11.7% (81人)	46.1% (319人)	32.8% (227人)	9.4% (65人)
石川地区	558人	11.1% (62人)	45.7% (255人)	34.1% (190人)	9.1% (51人)

②地域づくりへ企画・運営として参加したいか

地域づくりへ企画・運営として参加したいかを尋ねたところ、「是非参加したい」は4.1%、「参加してもよい」は28.6%であり、これらを合わせると企画・運営への参加意向は32.7%となっています。前項の地域づくりへの参加意向(56.1%)と比べて低いことがわかります。

地区別では、各地区での大きな差は見られませんが、「是非参加したい」と「参加してもよい」を合わせた企画・運営への参加意向は、勝連地区が31.8%、与那城地区が28.4%、具志川第1地区が32.4%、具志川第2地区が33.8%、石川地区が34.2%であり、「具志川第2地区」や「石川地区」で僅かながら高くなっています。

地域づくりへ
企画・運営として参加したいか



地域づくりへ企画・運営として参加したいか（地域別）

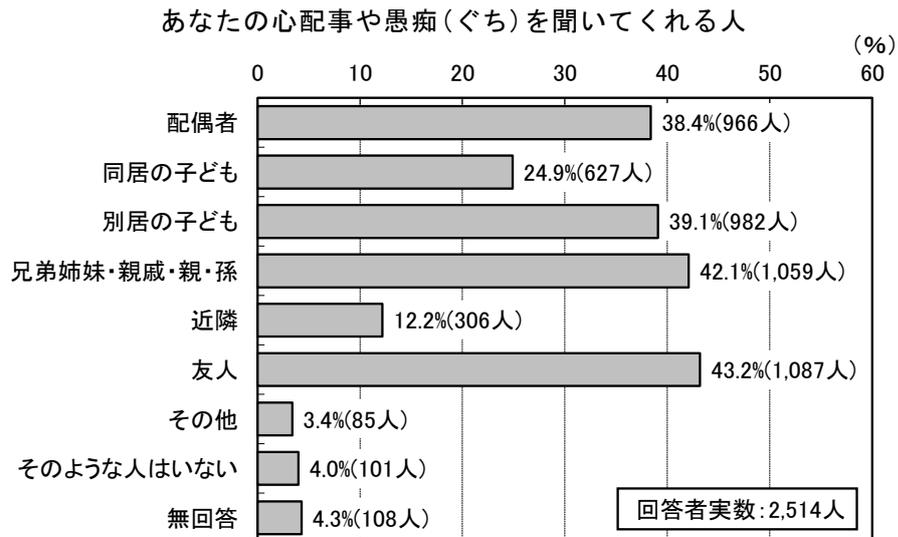
	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
勝連地区	286人	4.2% (12人)	27.6% (79人)	54.9% (157人)	13.3% (38人)
与那城地区	303人	3.0% (9人)	25.4% (77人)	59.1% (179人)	12.5% (38人)
具志川第1地区	671人	4.2% (28人)	28.2% (189人)	56.9% (382人)	10.7% (72人)
具志川第2地区	692人	3.9% (27人)	29.9% (207人)	53.8% (372人)	12.4% (86人)
石川地区	558人	4.8% (27人)	29.4% (164人)	54.3% (303人)	11.5% (64人)

6. たすけあいについて

(1) たすけあいの状況

① 心配事や愚痴を「聞いてくれる人」

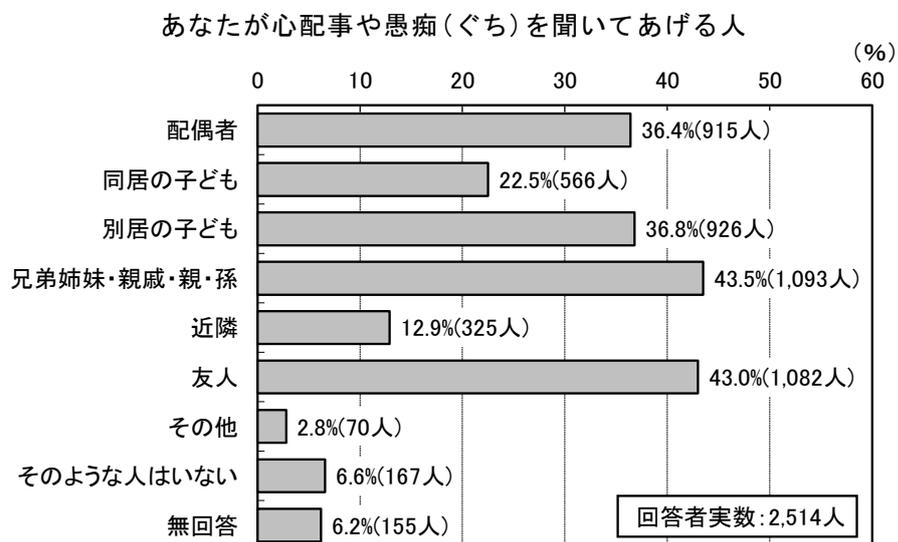
心配事や愚痴を聞いている人について尋ねたところ、「友人」が 43.2%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 42.1%であり、これら2つが4割あまりで高くなっています。また、「別居の子ども」が 39.1%、「配偶者」が 38.4%で4割近くを占めており、これら4つが大半を占めています。



② 心配事や愚痴を「聞いてあげる人」

上記項目とは反対に、心配事や愚痴を聞いてあげる人について尋ねたところ、概ね「聞いてくれる人」の集計結果と同様の割合となっています。

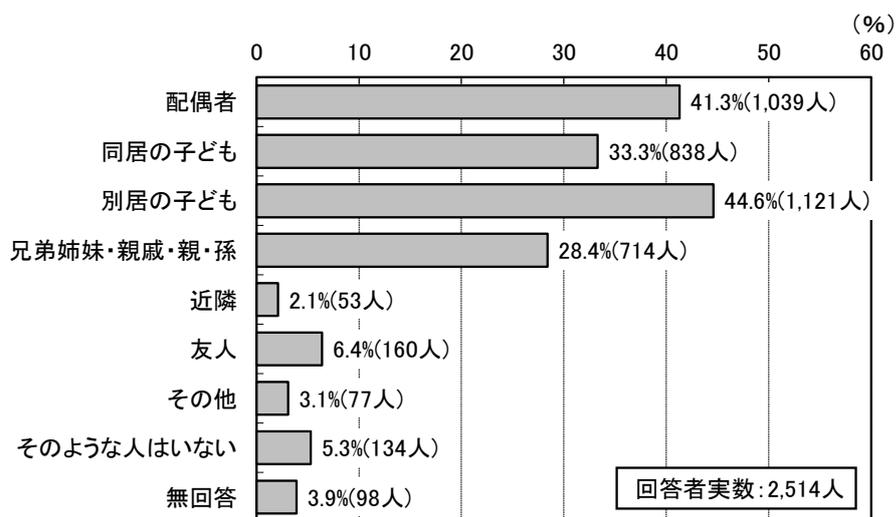
「友人」が 43.0%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が 43.5%であり、これら2つが4割あまりで高くなっています。また、「別居の子ども」が 36.8%、「配偶者」が 36.4%で3割半ばを占め、これら4つが他の項目より高くなっています。



③寝込んだときに看病や世話を「してくれる人」

寝込んだときの看病や世話をしてくれる人について尋ねたところ、「別居の子ども」が44.6%、「配偶者」が41.3%であり、これら2つが4割台で高くなっています。また、「同居の子ども」が33.3%、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が28.4%であり、これら2つが3割前後で比較的高くなっています。

寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人

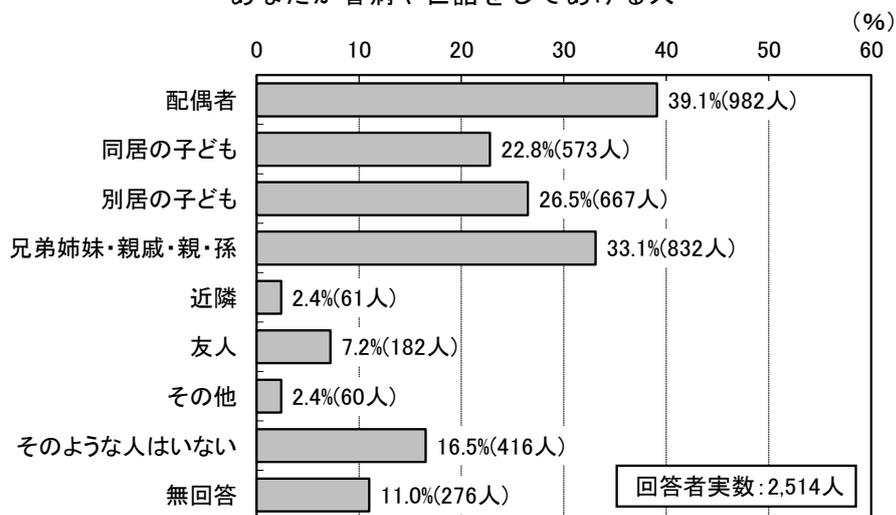


④寝込んだときに看病や世話を「してあげる人」

上記項目とは反対に、心寝込んだときの看病や世話をしてあげる人について尋ねました。

「配偶者」が39.1%と約4割を占めもっとも高くなっています。また、「兄弟姉妹・親戚・親・孫」が33.1%で比較的高く、「別居の子ども」の22.8%、「同居の子ども」の22.8%がこれらに続いています。

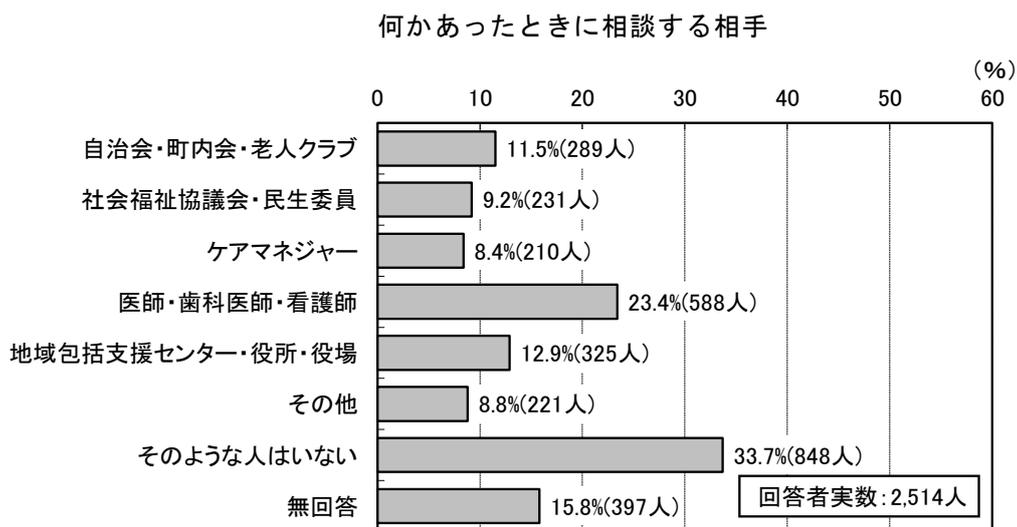
あなたが看病や世話をしてあげる人



⑤家族や友人・知人以外で何かあったときに相談する相手

家族や友人・知人以外での相談相手について見ると、「医師・歯科医師・看護師」が23.4%で他の項目より高いほか、「地域包括支援センター・役所・役場」が12.9%、「自治会・町内会・老人クラブ」が11.5%で比較的高いです。

しかし、「そのような人はいない」という回答が本設問でもっとも高く33.7%を占めています。

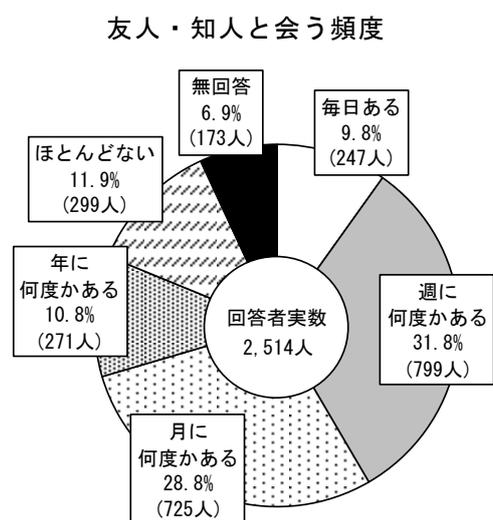


(2) 友人、知人との交流

①友人、知人と会う頻度

友人、知人と会う頻度は、「毎日ある」が9.8%、「週に何度かある」が31.8%であり、これらを合わせると約4割となります。また、「月に何度かある」が28.8%であり、友人・知人と会う機会が比較的高齢者が7割を占めます。

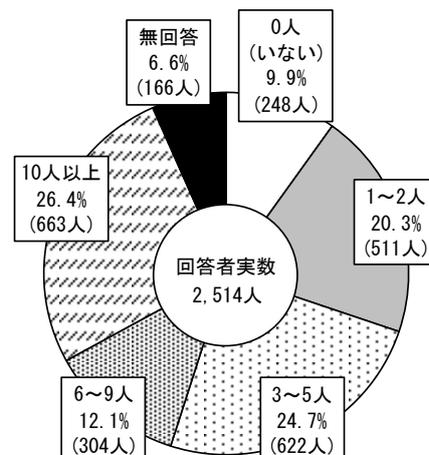
反対に、「ほとんどない」が11.9%、「年に何度かある」が10.8%であり、約2割は友人・知人とあまり合う機会がないことがわかります。



② 1か月間に何人の友人、知人と会ったか

この1か月の間に、何人の友人、知人にあつたかを尋ねたところ、「10人以上」が26.4%でもっとも高く、「3～5人」が24.7%、「1～2人」の20.3%がこれに続いています。

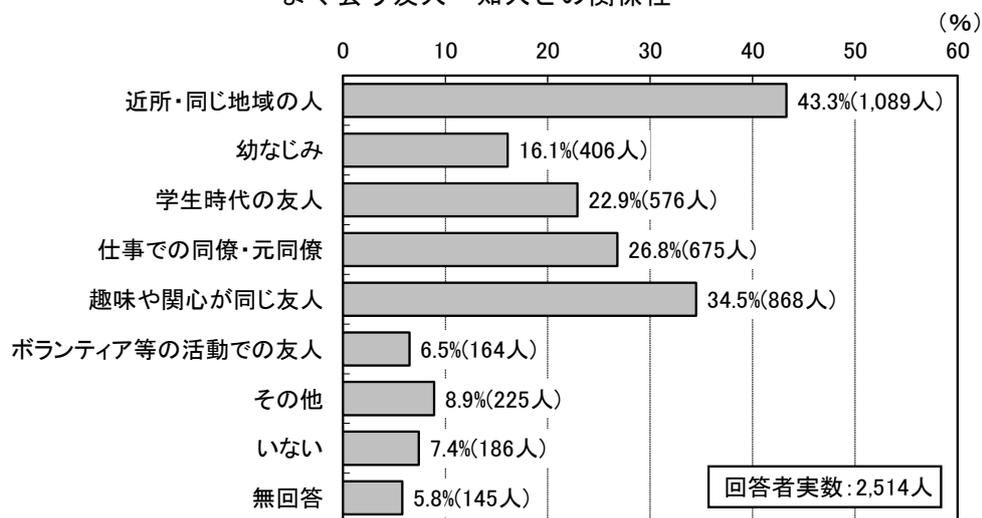
1か月間に何人の友人、知人と会ったか



③ よく会う友人、知人との関係

よく会う友人、知人はどんな関係の人か尋ねたところ、「近所・同じ地域の人」が43.3%でもっとも高く、唯一4割を超えています。次いで「趣味や関心が同じ友人」が34.5%で3割半ば、「仕事での同僚・元同僚」が26.8%、「学生時代の友人」が22.9%でそれぞれ2割台となっています。

よく会う友人・知人との関係性



7. 健康について

(1) 主観的健康感

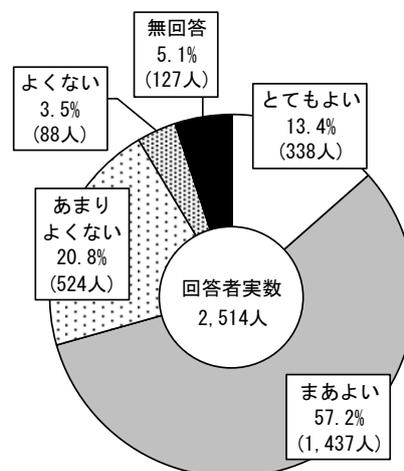
健康状態について尋ねたところ、「まあよい」が57.2%で圧倒的に高くなっています。また、「とてもよい」は13.4%であり、これら2つを合わせると、7割が健康と回答しています。

性別に見ると、この設問についての男女別の差はほとんどありません。

年齢別に見ると、「とてもよい」は年齢が上がるとともに割合が減少する傾向にあります。「まあよい」も年齢が上がるとともに減少する傾向にあり、65～69歳の約6割が、85歳以上では約5割へと下がっています。

また、「あまりよくない」は年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、65～69歳では1割半ばですが、80歳以上では2割半ばを占めています。

主観的健康感



主観的健康感（性別、年齢別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
男性	1,082人	13.5% (146人)	57.9% (627人)	19.9% (215人)	3.6% (39人)	5.1% (55人)
女性	1,428人	13.4% (192人)	56.5% (807人)	21.6% (308人)	3.4% (49人)	5.0% (72人)
65歳～69歳	806人	16.1% (130人)	61.4% (495人)	16.3% (131人)	2.6% (21人)	3.6% (29人)
70歳～74歳	484人	16.1% (78人)	56.0% (271人)	20.7% (100人)	3.9% (19人)	3.3% (16人)
75歳～79歳	500人	13.6% (68人)	54.4% (272人)	23.4% (117人)	3.4% (17人)	5.2% (26人)
80歳～84歳	427人	7.5% (32人)	57.1% (244人)	24.1% (103人)	4.0% (17人)	7.3% (31人)
85歳以上	293人	10.2% (30人)	51.9% (152人)	24.6% (72人)	4.8% (14人)	8.5% (25人)

(2) 主観的幸福感

現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、回答していただきました。

「5点」(普通)が20.7%でもっとも高いですが、「10点」(とても幸せ)も19.9%で同程度の割合となっており、「普通」か「とても幸せ」のどちらかを選択する人が比較的高くなっています。

性別に見ると、「5点」は男性の方で女性より高く、また反対に「10点」は女性の方で高くなっています。幸福感は女性の方が男性より高い傾向が見られます。

年齢別に見ると、「5点」では年齢別の差はあまり見られませんが、「10点」では年齢が上がると割合も高くなる傾向にあり、65～69歳では1割半ばですが、75～79歳では2割あまり、85歳以上では3割近くとなっています。

主観的幸福感 (性別、年齢別)

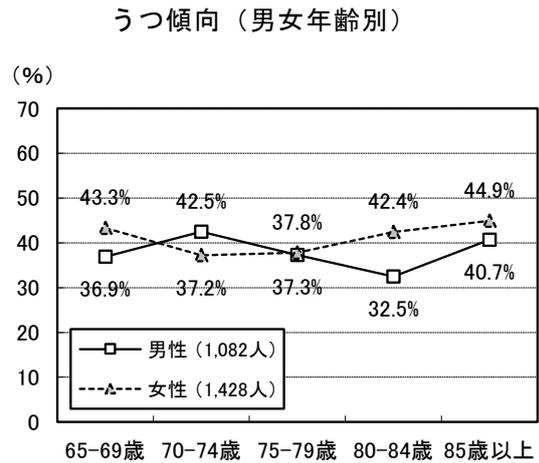
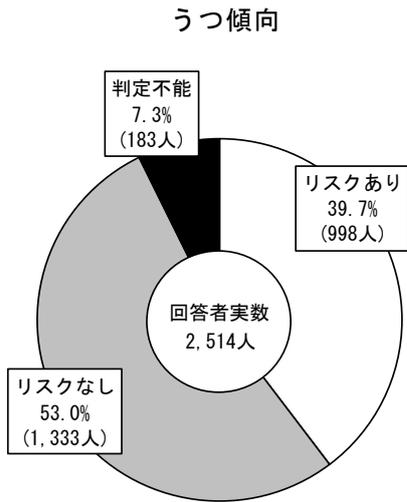
	回答者実数	0点 (とても不幸)	1点	2点	3点	4点	5点
全体	2,514人	0.7% (17人)	0.4% (10人)	0.9% (23人)	2.5% (64人)	3.2% (80人)	20.7% (521人)
男性	1,082人	0.9% (10人)	0.7% (8人)	0.9% (10人)	3.2% (35人)	4.1% (44人)	24.7% (267人)
女性	1,428人	0.5% (7人)	0.1% (2人)	0.9% (13人)	2.0% (29人)	2.5% (36人)	17.7% (253人)
65歳～69歳	806人	0.7% (6人)	0.0% (0人)	0.7% (6人)	3.6% (29人)	3.7% (30人)	19.4% (156人)
70歳～74歳	484人	0.6% (3人)	0.8% (4人)	1.4% (7人)	2.7% (13人)	3.3% (16人)	21.9% (106人)
75歳～79歳	500人	0.2% (1人)	0.2% (1人)	0.4% (2人)	1.6% (8人)	3.2% (16人)	21.6% (108人)
80歳～84歳	427人	0.9% (4人)	0.9% (4人)	0.9% (4人)	1.4% (6人)	2.6% (11人)	21.8% (93人)
85歳以上	293人	1.0% (3人)	0.3% (1人)	1.4% (4人)	2.7% (8人)	2.4% (7人)	19.5% (57人)

	回答者実数	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
全体	2,514人	8.4% (212人)	9.9% (249人)	16.7% (419人)	7.6% (191人)	19.9% (501人)	9.0% (227人)
男性	1,082人	8.0% (87人)	10.0% (108人)	17.9% (194人)	5.4% (58人)	15.2% (165人)	8.9% (96人)
女性	1,428人	8.8% (125人)	9.8% (140人)	15.6% (223人)	9.3% (133人)	23.5% (336人)	9.2% (131人)
65歳～69歳	806人	9.6% (77人)	11.2% (90人)	20.0% (161人)	8.9% (72人)	15.9% (128人)	6.3% (51人)
70歳～74歳	484人	9.5% (46人)	11.8% (57人)	16.9% (82人)	6.8% (33人)	16.9% (82人)	7.2% (35人)
75歳～79歳	500人	7.0% (35人)	8.0% (40人)	16.2% (81人)	8.0% (40人)	23.0% (115人)	10.6% (53人)
80歳～84歳	427人	8.4% (36人)	9.6% (41人)	13.1% (56人)	6.8% (29人)	21.5% (92人)	11.9% (51人)
85歳以上	293人	6.1% (18人)	6.8% (20人)	12.6% (37人)	5.8% (17人)	28.7% (84人)	12.6% (37人)

(3) うつ傾向（リスク者）

うつ傾向のリスク者は 39.7% で約 4 割となっています。

性別年齢別に見ると、70～74 歳では男性の方が女性より高いですが、その他の年齢では女性の方が高くなっています。男性は 70～74 歳の 4 割あまりがもっとも高く、80～84 歳が 3 割あまりでもっとも低いです。女性は、65～69 歳の 4 割あまりから 70～74 歳には一旦減少しますが、その後上昇に転じ、80～84 歳以降では再び 4 割台となります。



(4) 喫煙、飲酒の状況

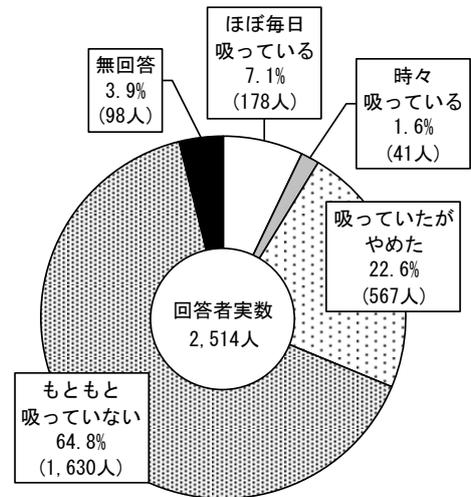
① 喫煙の状況

喫煙について見ると、「もともと吸っていない」が64.8%であり、6割半ばが喫煙の経験がないとしています。これに次いで「吸っていたがやめた」が22.6%であり、これら2つを合わせると、現在喫煙していない高齢者が9割近くを占めます。

喫煙している高齢者は8.7%で、「ほぼ毎日吸っている」が7.1%、「時々吸っている」が1.6%となっています。

喫煙の状況を性別に見ると、「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」、「吸っていたがやめた」はそれぞれ男性の方が高く、特に「吸っていたがやめた」は男性の43.4%を占めています。また、女性では「もともと吸っていない」が86.6%であり、8割を超える女性が喫煙経験はないと回答しています。

喫煙の状況



喫煙の状況 (性別、年齢別)

	回答者実数	ほぼ毎日吸っている	時々吸っている	吸っていたがやめた	もともと吸っていない	無回答
男性	1,082人	13.8% (149人)	3.0% (33人)	43.4% (470人)	36.1% (391人)	3.6% (39人)
女性	1,428人	2.0% (29人)	0.6% (8人)	6.7% (95人)	86.6% (1,237人)	4.1% (59人)
65歳～69歳	806人	11.3% (91人)	2.4% (19人)	24.3% (196人)	59.4% (479人)	2.6% (21人)
70歳～74歳	484人	8.1% (39人)	1.2% (6人)	22.5% (109人)	65.1% (315人)	3.1% (15人)
75歳～79歳	500人	5.0% (25人)	2.0% (10人)	19.2% (96人)	69.2% (346人)	4.6% (23人)
80歳～84歳	427人	3.3% (14人)	0.9% (4人)	19.7% (84人)	71.7% (306人)	4.4% (19人)
85歳以上	293人	3.1% (9人)	0.7% (2人)	27.3% (80人)	62.1% (182人)	6.8% (20人)

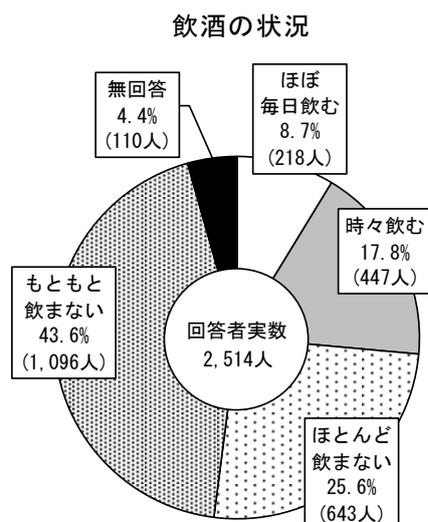
②飲酒の状況

喫煙について見ると、「もともと飲まない」が43.6%であり、4割あまりが飲酒経験なしと回答しています。これに次いで「ほとんど飲まない」が25.6%であり、飲酒しない人とほとんど飲まない人を合わせると約7割となります。

「ほぼ毎日飲む」は8.7%、「時々飲む」は17.8%で、これら2つを合わせると飲酒する人は26.5%でおよそ4人に1人となっています。

性別に見ると、「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」は男性の方が女性より高く、また「ほとんど飲まない」も男性の方がやや高くなっています。「もともと飲まない」は女性の方が高く、女性の6割あまりを占めています。

年齢別に見ると、飲酒者は75歳未満の世代で高く、年齢が上がるとともに飲酒する割合は下がる傾向にあります。また、「ほとんど飲まない」は各世代の差はあまりなく、「もともと飲まない」は年代が上がると割合も上がっています。



飲酒の状況（性別、年齢別）

	回答者実数	ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど飲まない	もともと飲まない	無回答
男性	1,082人	17.8% (193人)	31.0% (335人)	30.0% (325人)	17.3% (187人)	3.9% (42人)
女性	1,428人	1.7% (24人)	7.8% (112人)	22.1% (316人)	63.6% (908人)	4.8% (68人)
65歳～69歳	806人	14.3% (115人)	24.2% (195人)	26.4% (213人)	32.0% (258人)	3.1% (25人)
70歳～74歳	484人	9.3% (45人)	24.0% (116人)	25.6% (124人)	38.4% (186人)	2.7% (13人)
75歳～79歳	500人	6.4% (32人)	15.6% (78人)	26.6% (133人)	47.0% (235人)	4.4% (22人)
80歳～84歳	427人	3.5% (15人)	7.3% (31人)	23.0% (98人)	60.9% (260人)	5.4% (23人)
85歳以上	293人	3.4% (10人)	9.2% (27人)	24.9% (73人)	53.2% (156人)	9.2% (27人)

(5) 疾病の状況

① 全体的な状況

疾病の状況を見ると、「高血圧」が46.1%を占めており、他の疾病と比べて圧倒的に高くなっています。高血圧以外では、「糖尿病」、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」、「目の病気」が1割台で比較的高いです。

疾病について、一般高齢者と二次予防対象者別に見ると、一般高齢者、二次予防対象者ともに「高血圧」の割合がもっとも高く、一般高齢者の4割あまり、二次予防対象者の5割程度を占めています。また、二次予防対象者では、「目の病気」と「筋骨格の病気」が2割あまりで一般高齢者より高くなっています。

高血圧の予防対策はもとより、転倒予防をはじめとした筋骨格の病気予防、目の病気の予防を元気なうちから行うことが肝要です。

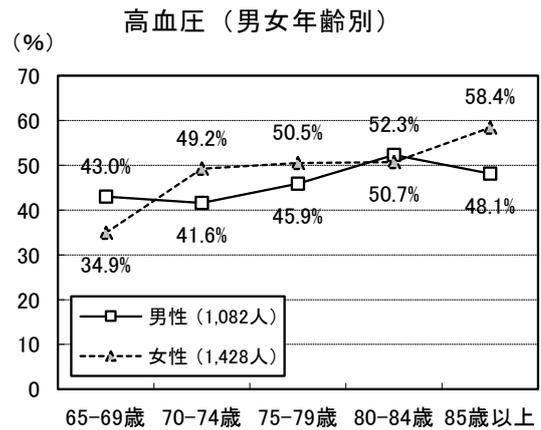
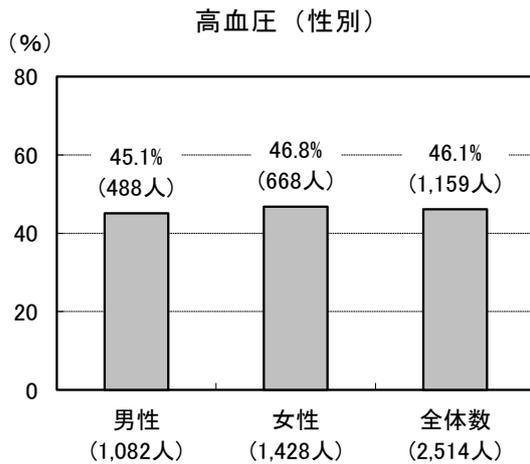
疾病の状況（二次予防対象者一般高齢者別）

	全体 (2,514人)	二次予防対象者 (824人)	一般高齢者 (1,690人)
高血圧	46.1% (1,159人)	51.9% (428人)	43.3% (731人)
脳卒中(脳出血・脳梗塞等)	2.9% (73人)	4.7% (39人)	2.0% (34人)
心臓病	7.5% (189人)	9.8% (81人)	6.4% (108人)
糖尿病	12.3% (308人)	15.4% (127人)	10.7% (181人)
高脂血症(脂質異常)	7.4% (187人)	7.5% (62人)	7.4% (125人)
呼吸器の病気(肺炎や気管支炎等)	4.5% (114人)	7.5% (62人)	3.1% (52人)
胃腸・肝臓・胆のうの病気	4.4% (110人)	6.3% (52人)	3.4% (58人)
腎臓・前立腺の病気	6.4% (162人)	8.5% (70人)	5.4% (92人)
筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)	13.4% (338人)	23.9% (197人)	8.3% (141人)
外傷(転倒・骨折等)	4.0% (100人)	8.7% (72人)	1.7% (28人)
がん(悪性新生物)	2.3% (58人)	3.3% (27人)	1.8% (31人)
血液・免疫の病気	0.8% (19人)	1.0% (8人)	0.7% (11人)
うつ病	1.5% (37人)	2.5% (21人)	0.9% (16人)
認知症(アルツハイマー病等)	1.4% (34人)	2.9% (24人)	0.6% (10人)
パーキンソン病	0.7% (18人)	1.7% (14人)	0.2% (4人)
目の病気	16.4% (413人)	24.4% (201人)	12.5% (212人)
耳の病気	7.1% (178人)	11.0% (91人)	5.1% (87人)
その他	10.1% (253人)	12.0% (99人)	9.1% (154人)
ない	14.6% (368人)	5.7% (47人)	19.0% (321人)
無回答	7.8% (195人)	5.5% (45人)	8.9% (150人)

②高血圧

高血圧の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は45.1%、女性は46.8%であり、男女の差はほとんどありません。

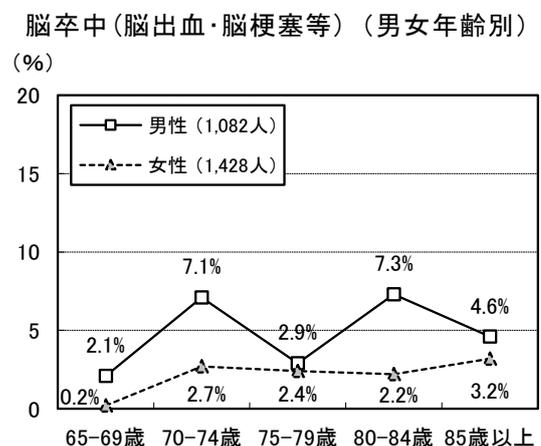
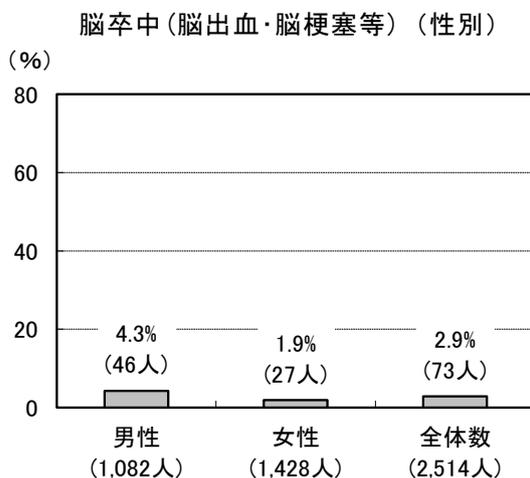
性別年齢別に見ると、男性は70~74歳以降で年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、70~74歳では4割程度ですが、85歳以上では6割近くを占めます。女性では、65~69歳は3割半ばで低くなっていますが、70~74歳以降は5割前後の比率で推移しています。



③脳卒中 (脳出血・脳梗塞等)

脳卒中の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は4.3%、女性は1.9%であり、僅かながら男性の方が高くなっています。

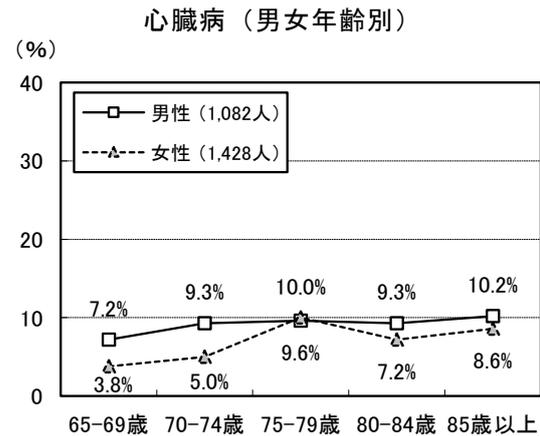
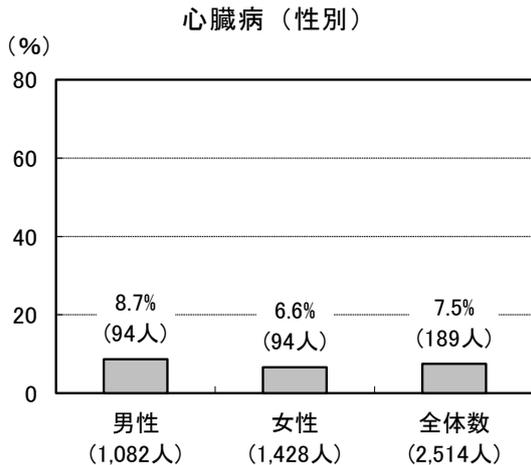
性別年齢別に見ると、男性は年代による増減幅が女性より大きく、70~74歳と80~84歳では7%台で高いものの、65~69歳と75~79歳は2%代、85歳以上は4%台となっています。女性では、65~69歳は0.2%、70~84歳までの各世代が2%台、85歳以上では3%となっています。



④心臓病

心臓病の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は8.7%、女性は6.6%であり、僅かながら男性の方が高くなっています。

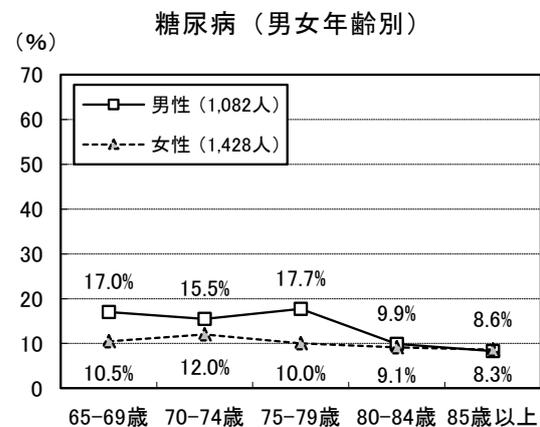
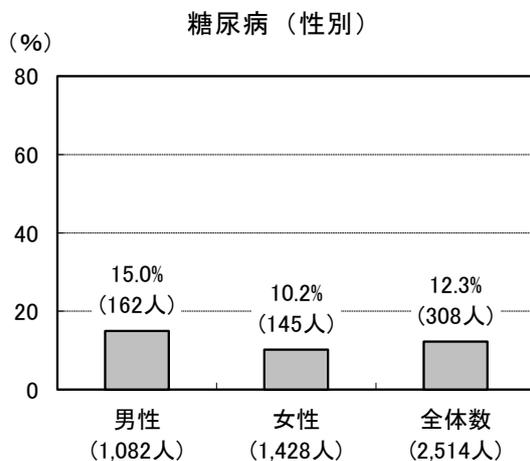
性別年齢別に見ると、男性は65～69歳は7%台でやや低いです、その他の年代は9～10%台であり、年代による増減はあまりありません。女性では、75～79歳の概ね10%を除き、年代が上がるとともに割合がやや高くなる傾向にあります。



⑤糖尿病

糖尿病の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は15.0%、女性は10.2%であり、やや男性の方が高くなっています。

性別年齢別に見ると、男性は75～79歳まで1割半ばで推移していますが、その後は減少しています。女性では、75～79歳まで10%～12%で推移し、その後僅かながら減少しています。

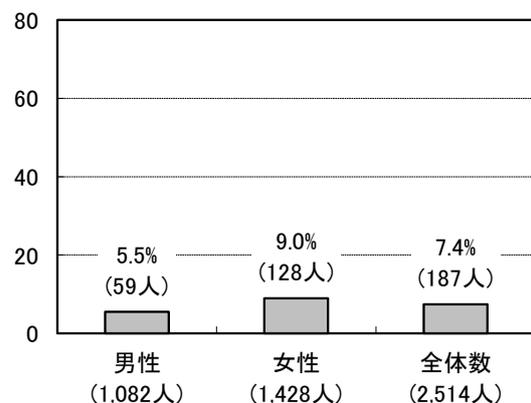


⑥高脂血症（脂質異常）

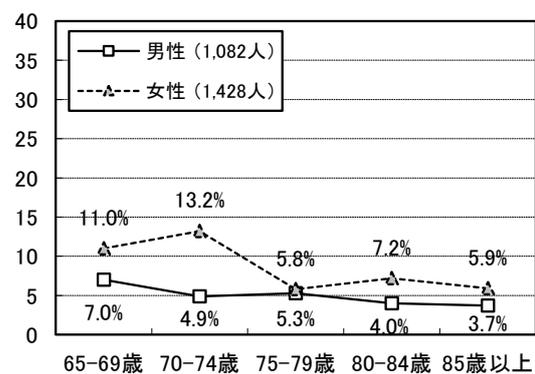
高脂血症の該当者(回答者)を性別に見ると、男性は5.5%、女性は9.0%であり、やや女性の方が高くなっています。

性別年齢別に見ると、各年代とも女性の方で男性を上回っています。また、男女とも年代が上がると割合は概ね減少する傾向にあります。男性は70～74歳まで1割前半ですが、75～79歳以降では5～7%台で推移します。女性では、65～69歳の7%が70～74歳には5%程度に下がり、その後も微減傾向となっています。

(%) 高脂血症(脂質異常)(性別)



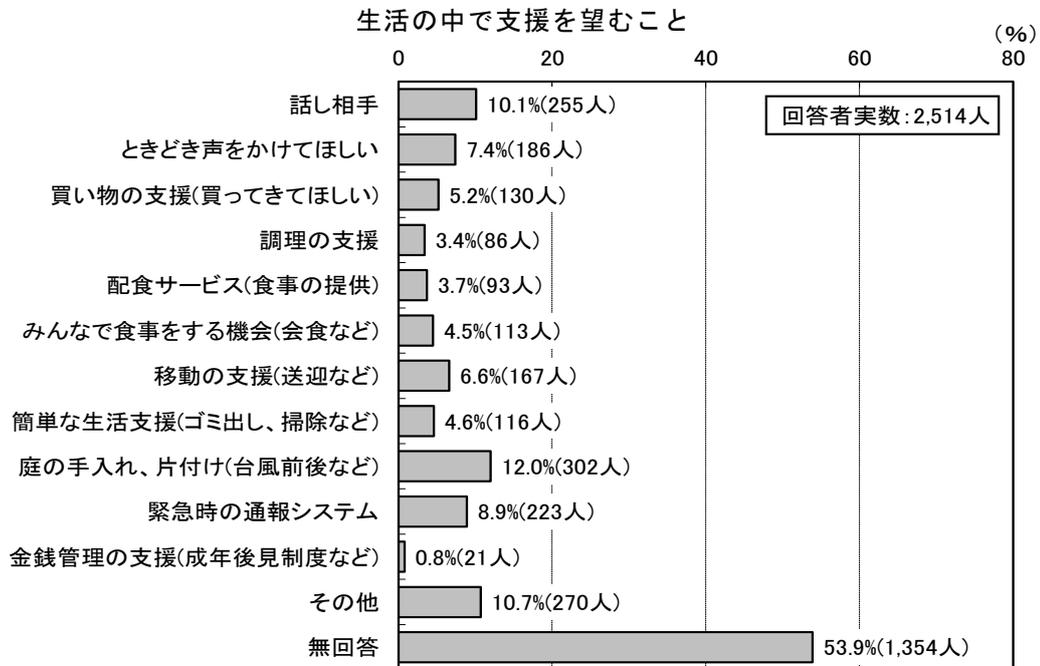
(%) 高脂血症(脂質異常)(男女年齢別)



8. その他

(1) 生活の中で支援を望むこと

生活の中で支援を望むことを尋ねたところ、「庭の手入れ、片付け(台風前後など)」(12.0%)、「話し相手」(10.0%)が比較的高くなっています。



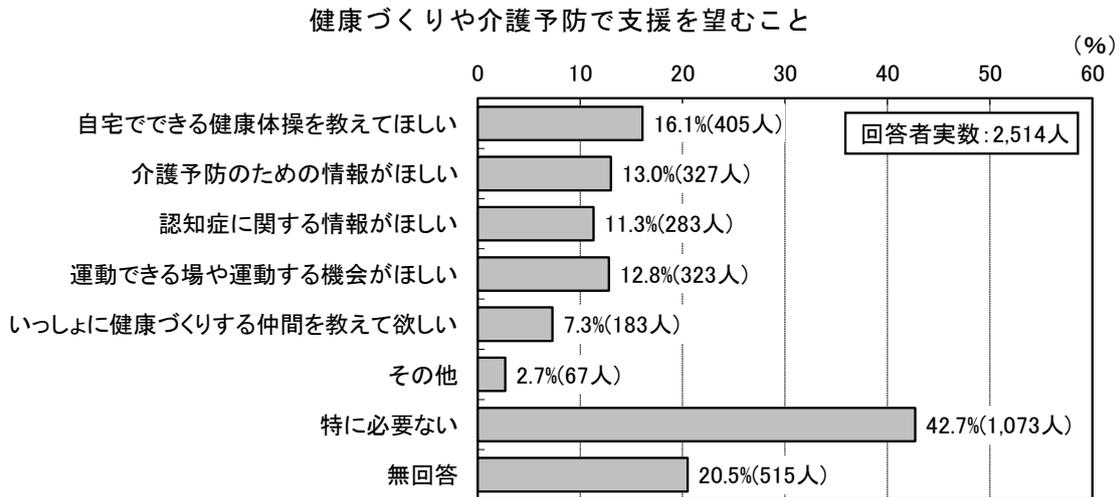
一般高齢者と二次予防対象者を比べると、支援を望む声は全般的に二次予防対象者の方で高くなっています。中でも、「移動の支援(送迎など)」と「話し相手」及び「買い物の支援(買ってきてほしい)」では、二次予防対象者と一般高齢者との差が10ポイント程度あり、他の支援希望との差より大きくなっています。

生活の中で支援を望むこと (二次予防対象者・一般高齢者別)

	回答者実数	話し相手	ときどき声をかけてほしい	買い物の支援(買ってきてほしい)	調理の支援	配食サービス(食事の提供)	みんなで食事をする機会(会食など)	移動の支援(送迎など)
二次予防対象者	824人	16.9% (139人)	12.7% (105人)	11.3% (93人)	7.4% (61人)	6.9% (57人)	6.4% (53人)	14.6% (120人)
一般高齢者	1,690人	6.9% (116人)	4.8% (81人)	2.2% (37人)	1.5% (25人)	2.1% (36人)	3.6% (60人)	2.8% (47人)
「二次予防」と「一般高齢者」の差		10.0	7.9	9.1	5.9	4.8	2.80	11.8
	回答者実数	簡単な生活支援(ゴミ出し、掃除など)	庭の手入れ、片付け(台風前後など)	緊急時の通報システム	金銭管理の支援(成年後見制度など)	その他	無回答	
二次予防対象者	824人	9.2% (76人)	17.1% (141人)	13.0% (107人)	1.6% (13人)	8.0% (66人)	39.7% (327人)	
一般高齢者	1,690人	2.4% (40人)	9.5% (161人)	6.9% (116人)	0.5% (8人)	12.1% (204人)	60.8% (1,027人)	
「二次予防」と「一般高齢者」の差		6.8	7.6	6.1	1.1	-4.1	-21.1	

(2) 健康づくりや介護予防で支援を望むこと

健康づくりや介護予防で支援を望むことを尋ねたところ、「自宅でできる健康体操を教えてほしい」が16.1%で比較的高くなっています。なお、「特に必要ない」という回答が4割あまりを占めています。



一般高齢者と二次予防対象者別に見ると、前項目で二次予防対象者の割合が高く、また「特に必要ない」という回答が二次予防対象者の方で一般高齢者を下回っています。一般高齢者と比べ、二次予防対象者の方が介護予防に関心があると見られます。

支援を望むこととしては、一般高齢者、二次予防対象者ともに高いのは「自宅でできる健康体操を教えてほしい」で、それぞれ1割半ばとなっています。また、二次予防対象者では「介護予防のための情報がほしい」が2割近くを占めもっとも高くなっています。これについては一般高齢者と比べて7.4ポイント高く、項目の中ではもっとも差があります。その他「認知症に関する情報がほしい」も二次予防対象者では1割半ばの割合となっています。

健康づくりや介護予防で支援を望むこと（二次予防対象者・一般高齢者別）

	回答者実数	自宅でできる健康体操を教えてほしい	介護予防のための情報がほしい	認知症に関する情報がほしい	運動できる場や運動する機会がほしい	いっしょに健康づくりする仲間を教えて欲しい	その他	特に必要ない	無回答
二次予防対象者	824人	17.8% (147人)	18.0% (148人)	14.1% (116人)	13.6% (112人)	9.5% (78人)	2.9% (24人)	36.5% (301人)	20.4% (168人)
一般高齢者	1,690人	15.3% (258人)	10.6% (179人)	9.9% (167人)	12.5% (211人)	6.2% (105人)	2.5% (43人)	45.7% (772人)	20.5% (347人)
「二次予防」と「一般高齢者」の差		2.5	7.4	4.2	1.1	3.3	0.4	-9.2	-0.1

9. 地域別リスク者等の状況

(1) 前期高齢者と後期高齢者

前期高齢者と後期高齢者の割合について地区別に比べると、勝連地区、具志川第2地区では前期高齢者が後期高齢者より多く、反対に与那城地区では後期高齢者が多くなっています。

「具志川第一地区」は概ね市全体と同様に、僅かながら前期高齢者が上回っています。また、石川地区では前期高齢者と後期高齢者がほぼ同率となっています。

前期高齢者後期高齢者

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
前期高齢者	51.3% (1,290人)	53.5% (153人)	44.6% (135人)	51.9% (348人)	54.3% (376人)	49.8% (278人)
後期高齢者	48.5% (1,220人)	46.5% (133人)	55.4% (168人)	48.1% (323人)	45.7% (316人)	50.2% (280人)

(2) 二次予防対象者

要介護状態に陥る恐れのある二次予防対象者については、与那城地区が5ポイントほど市全体の割合を上回っているほか、石川地区も0.4ポイントと僅かながら上回っています。後期高齢者の占める割合が前期高齢者より高い地区で、二次予防対象者も多い状況にあります。

二次予防対象者

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
リスクあり	32.8% (824人)	29.4% (84人)	37.3% (113人)	32.0% (215人)	32.8% (227人)	33.2% (185人)

(3) 世帯の状況

世帯の状況を地区別に見ると、「1人暮らし」は石川地区が29.0%でもっとも高く、次いで与那城地区の25.1%となっています。「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」は具志川第2地区の27.5%が他の地区より高いです。また、勝連地区では「その他(三世帯世帯等)」と「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」、具志川第1地区では「その他(三世帯世帯等)」と「1人暮らし」がやや高いです。

世帯構成は、市全体と各地区の大きな差はありませんが、やや地区別の特徴が見られます。

世帯の状況

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
1人暮らし	24.4% (613人)	18.9% (54人)	25.1% (76人)	23.4% (157人)	23.6% (163人)	29.0% (162人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	23.5% (590人)	23.4% (67人)	20.1% (61人)	21.8% (146人)	27.5% (190人)	22.4% (125人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	5.6% (142人)	7.3% (21人)	6.9% (21人)	5.5% (37人)	4.0% (28人)	6.1% (34人)
息子・娘との2世帯	18.5% (465人)	21.3% (61人)	20.5% (62人)	20.1% (135人)	17.6% (122人)	15.2% (85人)
その他(三世帯等)	23.0% (578人)	24.1% (69人)	21.8% (66人)	24.1% (162人)	22.4% (155人)	22.4% (125人)

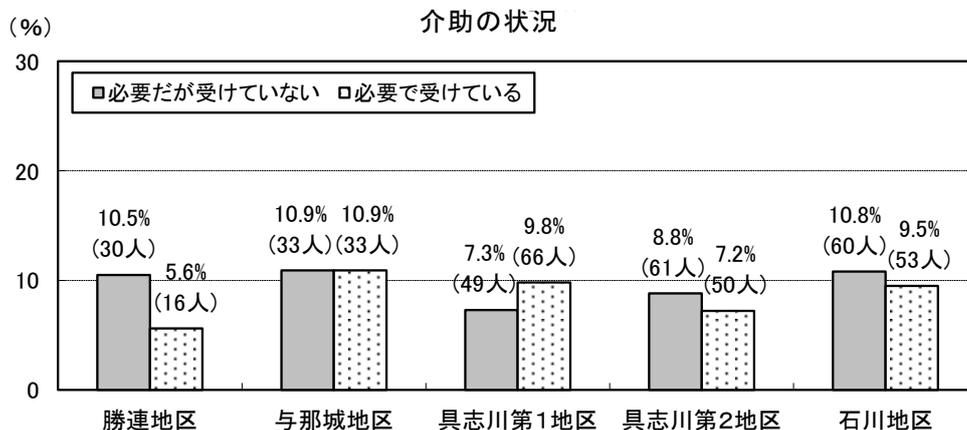
(4) 介助の状況

介助を必要としている人の割合について見ると、「必要で受けている」という回答は与那城地区が10.9%で、他の地区と比べて僅かながら高いです。また具志川第1地区と石川地区も10%近くでやや高いです。

「必要だが受けていない」という回答は、与那城地区、石川地区、勝連地区が10%台でその他の地区より高くなっています。

介助の状況

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
必要で受けている	8.7% (218人)	5.6% (16人)	10.9% (33人)	9.8% (66人)	7.2% (50人)	9.5% (53人)
必要だが受けていない	9.3% (233人)	10.5% (30人)	10.9% (33人)	7.3% (49人)	8.8% (61人)	10.8% (60人)



(5) 介護・介助が必要になった原因疾患

介護や介助が必要になった原因疾患を見ると、市全体では「骨折・転倒」が 22.6%、「その他」が 18.2%、「関節の病気(リウマチ等)」が 16.2%の順で高くなっています。

地区別では、勝連地区、具志川第1地区、具志川第2地区では「骨折・転倒」が最も高く、特に具志川第2地区では 26.1%と他の地区より高くなっています。この原因疾患については、与那城地区と石川地区でも2番めに高く介助・介護が必要となる大きな原因になっていることがわかります。

また、「関節の病気」は与那城地区が第1位であるほか、石川地区を除く3地区で第2位にあがっており、転倒・骨折と合わせて大きな原因となっています。

なお、本調査は要介護認定の要介護1～要介護5の人を除いた高齢者を対象としているため、これらの原因疾患は要支援1または要支援2の人が主たる回答者となります。このため、ここに挙げられている原因疾患は、「要支援になった原因疾患」が多いものと考えられます。

介護・介助が必要になった原因疾患

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
1位	骨折・転倒 22.6%(102人)	骨折・転倒 21.7%(10人)	関節の病気 (リウマチ等) 22.7%(15人)	骨折・転倒 21.7%(25人)	骨折・転倒 26.1%(29人)	その他 24.8%(28人)
2位	その他 18.2%(82人)	関節の病気 (リウマチ等) 15.2%(7人)	骨折・転倒 19.7%(13人)	関節の病気 (リウマチ等) 18.3%(21人) その他 18.3%(21人)	関節の病気 (リウマチ等) 16.2%(18人) その他 16.2%(18人)	骨折・転倒 22.1%(25人)
3位	関節の病気 (リウマチ等) 16.2%(73人)	心臓病 10.9%(5人) 視覚・聴覚障害 10.9%(5人) 高齢による衰弱 10.9%(5人) その他 10.9%(5人)	高齢による衰弱 16.7%(11人)	高齢による衰弱 17.4%(20人)	高齢による衰弱 13.5%(15人)	高齢による衰弱 15.9%(18人)

(6) 就労、外出・移動の状況

仕事をしている高齢者は、市全体では 15%となっています。地区別に見ると、石川地区のみが 17.4%で市の値を上回っていますが、各地区の差はあまり大きくありません。

外出を比較的多くしている人(週 1 回以上の外出者)は、市全体では 89.3%となっています。地区別に見ると、各地区の差はほとんどありませんが、僅かながら石川地区、具志川第 1 地区、具志川第 2 地区が市の値を上回っています。

買い物をしている人の割合は、市全体では 79.7%となっています。地区別に見ると、石川地区と具志川第 2 地区で、市の値よりやや高いです。

なお、勝連地区と与那城地区では、仕事、外出、買い物の 3 項目とも市全体よりやや低くなっています。

移動手段について見ると、市全体では「自動車(自分で運転)」が 50.5%で半数を占め、「徒歩」(32.2%)と「自動車(人に乗せてもらう)」(32.1%)がそれぞれ 3 割あまりとなっています。地区別に見ると、各地区とも「自動車(自分で運転)」がもっとも高く、特に具志川第 2 地区と石川地区では市全体の値を上回っています。また、第 2 位には、勝連地区、与那城地区、具志川第 1 地区では「自動車(人に乗せてもらう)」、具志川第 2 地区と石川地区は「徒歩」となっており、地域差が見られます。特に「人に乗せてもらう」は勝連地区と与那城地区で 4 割を占めており、第 1 位の「自分で運転」との差はあまりありません。

就労、外出・移動の状況

		うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第 1 地区	具志川第 2 地区	石川地区
仕事をしている人		15.0% (377 人)	13.6% (39 人)	14.5% (44 人)	14.3% (96 人)	14.2% (98 人)	17.4% (97 人)
週 1 回以上の外出者		89.3% (2,246 人)	88.8% (254 人)	86.5% (262 人)	89.6% (601 人)	89.7% (621 人)	90.3% (504 人)
買い物 (できるし、している)		79.7% (2,004 人)	76.2% (218 人)	76.9% (233 人)	78.4% (526 人)	81.2% (562 人)	82.8% (462 人)
移動手段	1 位	自動車 (自分で運転) 50.5%(1,269 人)	自動車 (自分で運転) 43.0%(123 人)	自動車 (自分で運転) 42.9%(130 人)	自動車 (自分で運転) 49.0%(329 人)	自動車 (自分で運転) 55.3%(383 人)	自動車 (自分で運転) 53.8%(300 人)
	2 位	徒歩 32.2%(810 人)	自動車(人に 乗せてもらう) 40.2%(115 人)	自動車(人に 乗せてもらう) 40.9%(124 人)	自動車(人に 乗せてもらう) 34.1%(229 人)	徒歩 32.9%(228 人)	徒歩 33.5%(187 人)
	3 位	自動車(人に 乗せてもらう) 32.1%(808 人)	徒歩 29.0%(83 人)	徒歩 33.3%(101 人)	徒歩 31.4%(211 人)	自動車(人に 乗せてもらう) 25.4%(176 人)	自動車(人に 乗せてもらう) 29.4%(164 人)

(7) 地域活動への参加

各種地域活動への参加状況を地区別に見ると、勝連では「ボランティア」を除く全ての項目で市全体の値を下回っており、他地域に比べて活動への参加がやや消極的な傾向がうかがえます。

与那城地区では、「老人クラブ」と「町内会・自治会」への参加割合が2割程度であり、市全体の値より高くなっています。

具志川第1地区では、「趣味関係のグループ」が3割近くを占めもっとも高いほか、「スポーツ関係のグループやクラブ」も2割程度で比較的高いです。個人の趣味等に関連する活動への参加が高い傾向にあります。

具志川第2地区では、「趣味関係のグループ」がもっとも高く、3割近くを占めています。

石川地区では、「趣味関係のグループ」が2割半ばでもっとも高いほか、「町内会・自治会」への参加割合も2割あまりであり、市全体と比べてやや高くなっています。

地域活動への参加

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
ボランティアのグループ	10.9% (273人)	11.5% (33人)	10.2% (31人)	11.2% (75人)	11.3% (78人)	9.9% (55人)
スポーツ関係のグループやクラブ	18.1% (454人)	13.3% (38人)	16.5% (50人)	21.3% (143人)	17.9% (124人)	17.2% (96人)
趣味関係のグループ	25.4% (639人)	14.3% (41人)	19.5% (59人)	28.5% (191人)	28.6% (198人)	26.2% (146人)
学習・教養サークル	6.7% (168人)	3.1% (9人)	6.3% (19人)	8.2% (55人)	7.8% (54人)	5.4% (30人)
老人クラブ	16.1% (405人)	12.9% (37人)	21.1% (64人)	16.5% (111人)	16.2% (112人)	14.5% (81人)
町内会・自治会	19.1% (480人)	10.8% (31人)	21.1% (64人)	18.3% (123人)	19.5% (135人)	22.4% (125人)
収入のある仕事	15.0% (377人)	13.6% (39人)	14.5% (44人)	14.3% (96人)	14.2% (98人)	17.4% (97人)

(8) リスク者割合の比較

リスク者の割合について見ると、市全体では、「知的能動性の低下」がもっとも高く52.6%、ついで「社会的役割の低下」の44.7%となっています。そのほか、「うつ傾向」と「認知機能の低下」がそれぞれ4割弱で比較的高くなっています。

地区別に見ると、与那城地区は、ほとんどの項目で市の値を上回っており、下回っている「低栄養の傾向」、「うつ傾向」、「社会的役割の低下」の3項目も、市全体との差はほとんどありません。特に、「知的能動性の低下」は6割を占めており、市全体の値より10ポイントほど高くなっています。

勝連地区は、「閉じこもり傾向」と「IADLの低下」で市全体の値をやや上回っているほか、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」でも市の値を僅かながら上回っています。

具志川第1地区は、全般的に市全体の値と同率か僅かに低いリスク者割合となっていますが、「運動器の機能低下」と「うつ傾向」及び「低栄養の傾向」では僅かながら市の値を上回っています。

具志川第2地区は、7項目で市全体のリスク者割合を僅かに下回っていますが、「転倒リスク」、「口腔機能低下」、「うつ傾向」、「認知機能低下」では、僅かながら市の値を上回っています。

石川地区も、7項目で市全体のリスク者割合を僅かに下回っていますが、「二次予防対象者」、「転倒リスク」、「口腔機能低下」、「うつ傾向」では、僅かながら市の値を上回っています。

リスク者割合の比較

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
二次予防対象者	32.8% (824人)	29.4% (84人)	37.3% (113人)	32.0% (215人)	32.8% (227人)	33.2% (185人)
運動器の機能低下	20.8% (523人)	19.2% (55人)	27.1% (82人)	21.0% (141人)	18.9% (131人)	20.4% (114人)
転倒リスク	29.3% (737人)	23.8% (68人)	32.3% (98人)	29.1% (195人)	29.9% (207人)	30.3% (169人)
閉じこもり傾向	23.9% (601人)	29.7% (85人)	32.7% (99人)	23.8% (160人)	20.8% (144人)	20.3% (113人)
低栄養の傾向	0.8% (20人)	0.7% (2人)	0.7% (2人)	1.0% (7人)	0.7% (5人)	0.7% (4人)
口腔機能低下	20.0% (504人)	12.9% (37人)	23.8% (72人)	18.9% (127人)	21.1% (146人)	21.9% (122人)
うつ傾向	39.7% (998人)	34.3% (98人)	39.3% (119人)	40.8% (274人)	40.9% (283人)	40.0% (223人)
認知機能低下	38.0% (955人)	37.8% (108人)	42.2% (128人)	36.4% (244人)	38.7% (268人)	36.9% (206人)
IADLの低下	19.1% (479人)	24.1% (69人)	27.7% (84人)	18.2% (122人)	15.0% (104人)	17.9% (100人)
知的能動性の低下	51.6% (1,298人)	53.8% (154人)	61.7% (187人)	51.6% (346人)	48.3% (334人)	49.3% (275人)
知的能動性の低下	44.7% (1,123人)	47.2% (135人)	43.9% (133人)	44.7% (300人)	44.9% (311人)	43.4% (242人)

10. 世帯構成別リスク者等の状況

(1) 全体的な状況

世帯構成別に性別の状況を見ると、「一人暮らし」は女性が約6割を占め男性より高くなっています。また女性は「息子・娘との2世帯」と「その他」（三世代世帯等）においても男性より高いです。男性は、「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」で7割あまりを占め、女性より高くなっています。

前期・後期高齢者を世帯構成別に見ると、前期高齢者は「夫婦2人暮らし」、「その他」（三世代世帯等）で高く、後期高齢者は「1人暮らし」、「息子・娘との2世帯」で高くなっています。

全体的な状況

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他
回答者実数	24.4% (613人)	23.5% (590人)	5.6% (142人)	18.5% (465人)	23.0% (578人)
男性	41.4% (254人)	48.1% (284人)	72.5% (103人)	34.8% (162人)	39.6% (229人)
女性	58.4% (358人)	51.7% (305人)	26.8% (38人)	65.2% (303人)	60.2% (348人)
前期高齢者	46.8% (287人)	54.6% (322人)	81.0% (115人)	38.9% (181人)	58.7% (339人)
後期高齢者	53.0% (325人)	45.3% (267人)	18.3% (26人)	61.1% (284人)	41.2% (238人)

(2) 外出の状況

週1回以上の外出者を世帯構成別に見ると、各世帯構成で大きな差はありませんが、「夫婦2人暮らし」が配偶者65歳以上、以下にかかわらず9割を超えており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

買い物について世帯構成別に見ると、買い物をしているという回答は、「1人暮らし高齢者」が9割近くでもっとも高く、次いで「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」の8割あまりとなっています。その他の世帯構成は7割台であり、特に「息子・娘との2世帯」が7割程度でもっとも低いです。

外出の状況

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他
週1回以上の 外出者	90.5% (555人)	92.9% (548人)	93.0% (132人)	87.3% (406人)	87.7% (507人)
買い物(できる し、している)	87.6% (537人)	82.4% (486人)	73.9% (105人)	71.8% (334人)	77.7% (449人)

(3) 転倒について

「転倒経験あり」という回答を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」で3割半ば、「息子・娘との2世帯」で3割となっており、他の世帯構成よりやや高くなっています。

「転倒の不安あり」という回答を世帯構成別に見ると、「息子・娘との2世帯」は6割近く、「1人世帯」は5割半ばであり、他の世帯構成より比較的高いです。

転倒について

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他
転倒経験(あり)	35.1% (215人)	26.1% (154人)	22.5% (32人)	30.3% (141人)	27.9% (161人)
転倒不安(あり)	54.5% (334人)	44.1% (260人)	33.8% (48人)	58.1% (270人)	50.0% (289人)

(4) 地域活動への参加

地域活動への参加状況を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」では他の世帯構成と比べて各項目とも割合が低く、活動への参加が消極的な傾向となっています。その中で、「趣味関係のグループ」が2割近くあり比較的高いです。

「夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)」では、「趣味関係のグループ」が3割あまりを占めもっとも高いほか、「スポーツ関係のグループやクラブ」や「町内会・自治会」も2割程度で高くなっています。

「夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)」では、「趣味関係のグループ」と「スポーツ関係のグループやクラブ」が2割半ばで高いほか、「町内会・自治会」が2割程度で比較的高くなっています。

「息子・娘との2世帯」では、「趣味関係のグループ」が2割半ばであるほか、「老人クラブ」と「町内会・自治会」も2割程度でやや高くなっています。

「その他」(三世帯世帯等)では、「趣味関係のグループ」がもっとも高くなっています。

地域活動への参加

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他
ボランティアのグループ	8.6% (53人)	14.7% (87人)	14.1% (20人)	10.5% (49人)	9.3% (54人)
スポーツ関係のグループやクラブ	14.2% (87人)	22.4% (132人)	24.6% (35人)	19.4% (90人)	16.8% (97人)
趣味関係のグループ	19.4% (119人)	32.5% (192人)	27.5% (39人)	24.5% (114人)	25.6% (148人)
学習・教養サークル	4.6% (28人)	7.6% (45人)	7.7% (11人)	5.8% (27人)	8.5% (49人)
老人クラブ	13.5% (83人)	16.3% (96人)	9.2% (13人)	21.1% (98人)	15.4% (89人)
町内会・自治会	16.1% (99人)	20.3% (120人)	21.8% (31人)	21.6% (100人)	18.1% (105人)
収入のある仕事	14.0% (86人)	14.7% (87人)	18.3% (26人)	11.8% (55人)	18.3% (106人)

(5) リスク者割合の比較

リスク者割合を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」と「息子・娘との2世帯」では多くの項目でリスク者割合がやや高くなっています。特に、「知的能動性」は約6割を占めています。

また、「1人暮らし」では「うつ傾向」、「息子・娘との2世帯」では「認知機能低下」と「IADLの低下」も高い傾向にあります。

これら2つの世帯構成は後期高齢者の占める割合が高いためリスク者割合も高いと見られますが、介護予防や支援を行う際には、一人暮らし高齢者だけではなく、子どもと2世帯の高齢者にも目を向け、地域把握を行うことも必要です。

リスク者割合の比較（世帯別）

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他
二次予防	36.4% (223人)	28.6% (169人)	18.3% (26人)	37.2% (173人)	33.0% (191人)
運動器の機能低下	22.0% (135人)	16.4% (97人)	8.5% (12人)	27.3% (127人)	20.9% (121人)
転倒リスク	35.1% (215人)	26.1% (154人)	22.5% (32人)	30.3% (141人)	27.9% (161人)
閉じこもり傾向	26.1% (160人)	18.0% (106人)	22.5% (32人)	28.4% (132人)	24.9% (144人)
低栄養の傾向	0.8% (5人)	0.7% (4人)	2.1% (3人)	0.9% (4人)	0.5% (3人)
口腔機能低下	24.5% (150人)	18.1% (107人)	13.4% (19人)	18.3% (85人)	20.4% (118人)
うつ傾向	45.5% (279人)	38.0% (224人)	41.5% (59人)	36.3% (169人)	37.9% (219人)
認知機能低下	37.8% (232人)	34.9% (206人)	35.2% (50人)	45.2% (210人)	36.0% (208人)
IADLの低下	14.5% (89人)	14.4% (85人)	16.9% (24人)	28.8% (134人)	21.1% (122人)
知的能動性の低下	59.4% (364人)	43.7% (258人)	44.4% (63人)	58.9% (274人)	49.5% (286人)
社会能動性の低下	50.1% (307人)	41.4% (244人)	46.5% (66人)	45.6% (212人)	43.4% (251人)

11. 歯の健康状況別リスク者の状況

(1) リスク者割合の比較

歯の健康状況別にリスク者割合を見ると、かみ合わせについては全ての項目で、「かみ合わせが悪い」人の方が「かみ合わせが良い」人よりリスク者割合が高くなっています。

また、入れ歯や歯の本数との関係を見ると、「歯は19本以下」の方が「歯は20本以上」よりリスク者割合が高い項目が多くなっています。

歯のかみ合わせが悪いと様々なリスクを抱える傾向があることや、自分の歯が19本以下でもリスクを抱える割合が比較的高いことが見受けられ、歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえます。

リスク者割合の比較（歯の状況別）

	かみ合わせ		入れ歯の状況			
	良い	悪い	自分の歯は20本以上		自分の歯は19本以下	
			入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	入れ歯を利用	入れ歯の利用なし
二次予防	25.0% (451人)	55.9% (330人)	27.9% (83人)	21.0% (103人)	37.3% (463人)	35.6% (115人)
運動器の機能低下	16.1% (291人)	34.4% (203人)	15.4% (46人)	11.4% (56人)	24.9% (309人)	21.4% (69人)
転倒リスク	25.9% (468人)	39.2% (231人)	32.2% (96人)	24.6% (121人)	30.5% (379人)	28.5% (92人)
閉じこもり傾向	20.3% (366人)	34.7% (205人)	19.5% (58人)	13.6% (67人)	26.3% (326人)	28.8% (93人)
低栄養の傾向	0.6% (11人)	1.5% (9人)	0.7% (2人)	1.0% (5人)	0.7% (9人)	1.2% (4人)
口腔機能低下	13.5% (243人)	40.5% (239人)	18.1% (54人)	12.6% (62人)	22.4% (278人)	25.1% (81人)
うつ傾向	35.6% (642人)	53.6% (316人)	39.9% (119人)	35.2% (173人)	40.9% (508人)	43.3% (140人)
認知機能低下	34.0% (614人)	50.5% (298人)	42.3% (126人)	28.9% (142人)	41.0% (509人)	35.6% (115人)
IADLの低下	15.9% (287人)	28.5% (168人)	13.4% (40人)	10.8% (53人)	22.2% (275人)	22.9% (74人)
知的能動性の低下	47.0% (847人)	67.3% (397人)	41.9% (125人)	36.7% (180人)	56.5% (701人)	64.7% (209人)
社会能動性の低下	40.7% (734人)	59.0% (348人)	38.6% (115人)	38.1% (187人)	46.9% (582人)	54.8% (177人)

第3章 うるま市高齢者の実態把握報告書【概要版】

●高齢者の状況

- ・高齢者人口は増加を続けている。高齢化率 20.2% (H28) 2割に達した。(P1)

表1 人口構成

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	対平成24年比	
うるま市	人数(人)	総人口	120,205	120,860	121,329	121,972	122,381	2,176
		年少人口	21,491	21,373	21,294	21,317	21,270	▲ 221
		生産年齢人口	77,637	77,473	77,289	76,912	76,442	▲ 1,195
		老年人口	21,077	22,014	22,746	23,743	24,669	3,592
	構成比(%)	年少人口	17.9	17.7	17.6	17.5	17.4	▲ 0.5
		生産年齢人口	64.6	64.1	63.7	63.1	62.5	▲ 2.1
		老年人口 (高齢化率)	17.5	18.2	18.7	19.5	20.2	2.7
沖縄県	構成比(%)	年少人口	17.7	17.6	17.5	17.3	—	—
		生産年齢人口	64.6	64.0	63.5	62.9	—	—
		老年人口 (高齢化率)	17.7	18.4	19.0	19.7	—	—
全国 (%)	老年人口 (高齢化率)	24.1	25.1	26.0	26.6	27.3	3.2	

- ・後期高齢者(75歳以上)の方が前期高齢者を上回っている。(P4)

表5 推計高齢者人口(前期・後期別)

		実績値 (再掲)	推計値					
		平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成37年	平成41年
人数(人)	高齢者人口	24,669	25,797	26,750	27,371	28,178	30,985	32,230
	前期高齢者	12,259	12,737	13,366	14,091	14,755	15,391	14,576
	後期高齢者	12,410	13,060	13,384	13,280	13,423	15,594	17,654
構成比(%)	前期高齢者	49.7	49.4	50.0	51.5	52.4	49.7	45.2
	後期高齢者	50.3	50.6	50.0	48.5	47.6	50.3	54.8

- ・しかし、第7期計画期間においては、前期高齢者が増加後期高齢者は概ね横ばいと見込まれる。
- ・その後、平成37年(2025年)には団塊の世代が後期高齢者となり始め、後期高齢者の急増が始まる。

●介護保険_認定者

- ・市の要介護認定者数は 4,939 人。毎年増加しているが、H28 では前年からの伸びが緩やかになった。(P13)

表12 要介護認定者数の推移

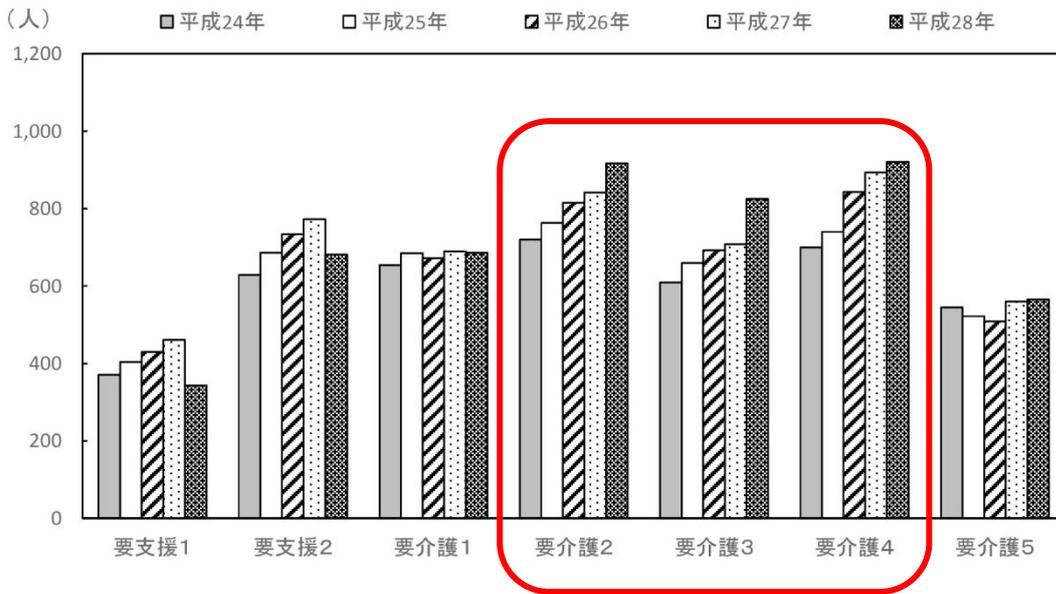
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人数 (人)	認定者数	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939
	第1号被保険者	4,071	4,290	4,531	4,764	4,787
	前期高齢者	526	555	579	613	650
	後期高齢者	3,545	3,735	3,952	4,151	4,137
	第2号被保険者	157	169	164	161	152
構成比 (%)	前期高齢者	12.9	12.9	12.8	12.9	13.6
	後期高齢者	87.1	87.1	87.2	87.1	86.4
	認定率(第1号被保険者)	19.3	19.5	19.9	20.1	19.4
	前期高齢者	5.2	5.3	5.3	5.3	5.3
	後期高齢者	32.1	32.6	33.5	34.3	33.3

- ・要介護度別に認定者を見ると、要介護2～4では毎年増加している。特に要介護2と要介護4が多い。(P15)

表13 要介護度別認定者数

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
人数 (人)	認定者数(再)	4,228	4,459	4,695	4,925	4,939
	要支援1	371	404	430	461	343
	要支援2	629	686	734	772	682
	要支援(小計)	1,000	1,090	1,164	1,233	1,025
	要介護1	654	685	672	689	686
	要介護2	720	763	815	842	917
	要介護3	609	659	692	708	825
	要介護4	700	740	843	893	921
構成比 (%)	要支援1	8.8	9.1	9.2	9.4	6.9
	要支援2	14.9	15.4	15.6	15.7	13.8
	要支援(小計)	23.7	24.4	24.8	25.0	20.8
	要介護1	15.5	15.4	14.3	14.0	13.9
	要介護2	17.0	17.1	17.4	17.1	18.6
	要介護3	14.4	14.8	14.7	14.4	16.7
	要介護4	16.6	16.6	18.0	18.1	18.6
	要介護5	12.9	11.7	10.8	11.4	11.4

図9 要介護度別の認定者数の推移



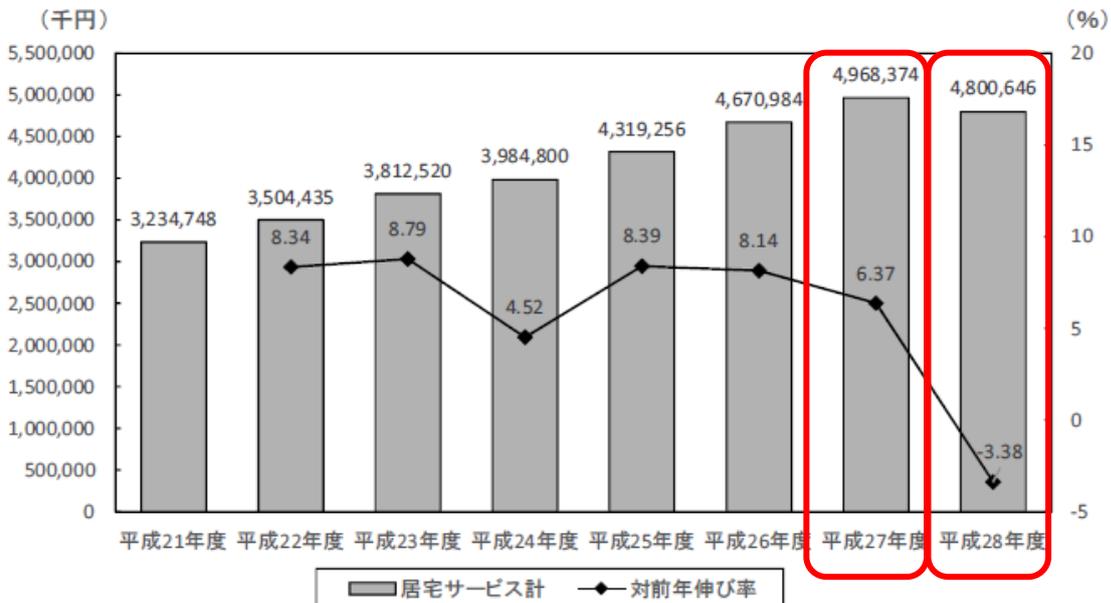
・市では県や全国と比べて、要支援や要介護1の割合が低く、要介護2より重い介護度の割合が高くなっている。(P16)

●介護保険サービス

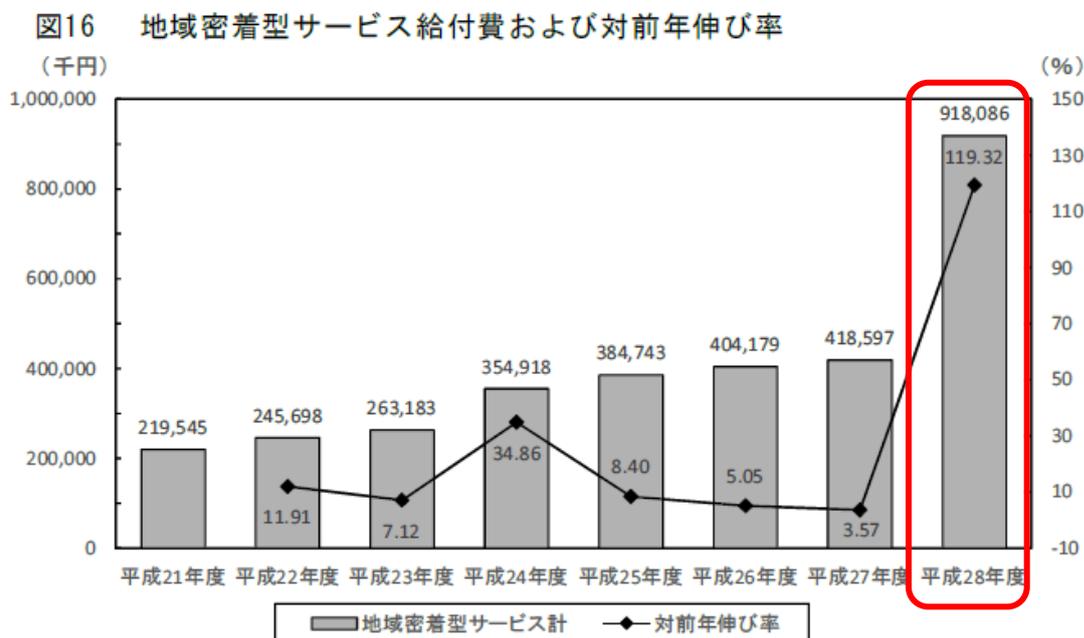
(介護保険_サービス利用者)

・居宅サービスの給付費は平成27年度まで毎年増加。27年度の給付費は約50億円。平成28年度の見込みは前年より減少し48億円。これは通所介護の一部が地域密着型通所介護に移行したことが要因である。(P24) (※居宅サービスとは、主に訪問介護、通所介護のこと)

図15 居宅サービス給付費および対前年伸び率



- ・地域密着型サービスの給付費は平成 27 年度まで緩やかに伸びていたが、平成 28 年度には前年比 119%増の約 9 億円になると見込まれる。前述したとおり、通所介護の一部事業所が地域密着型通所介護に移行したことが要因。



(介護保険_居宅サービスの内訳)

- ・居宅サービスの給付費(約 48 億円)のうち、通所系サービスが 33 億円で 7 割近くを占めている。施設サービスの給付費(23 億円)をも上回っており、通所系サービスが給付の増大につながっている。(P26)

表21 居宅サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
訪問系	464,261	478,360	512,302	536,113	550,291
通所系	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,300,251
短期入所系	134,130	127,323	152,959	155,783	148,336
福祉用具・住宅改修費	172,904	200,297	213,000	230,209	238,531
その他	423,956	464,929	505,372	541,876	563,237
居宅サービス計	3,984,800	4,319,256	4,670,984	4,968,374	4,800,646
伸び率(対前年度)		8.39	8.14	6.37	-3.38

表25 施設サービス給付費

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
介護老人福祉施設	1,320,546	1,338,267	1,354,819	1,360,615	1,357,400
介護老人保健施設	965,556	996,326	998,869	976,134	940,814
介護療養型医療施設	107,830	113,713	120,929	82,551	46,287
施設サービス計	2,393,932	2,448,307	2,474,617	2,419,300	2,344,501
伸び率(対前年度)		2.27	1.07	-2.24	-3.09

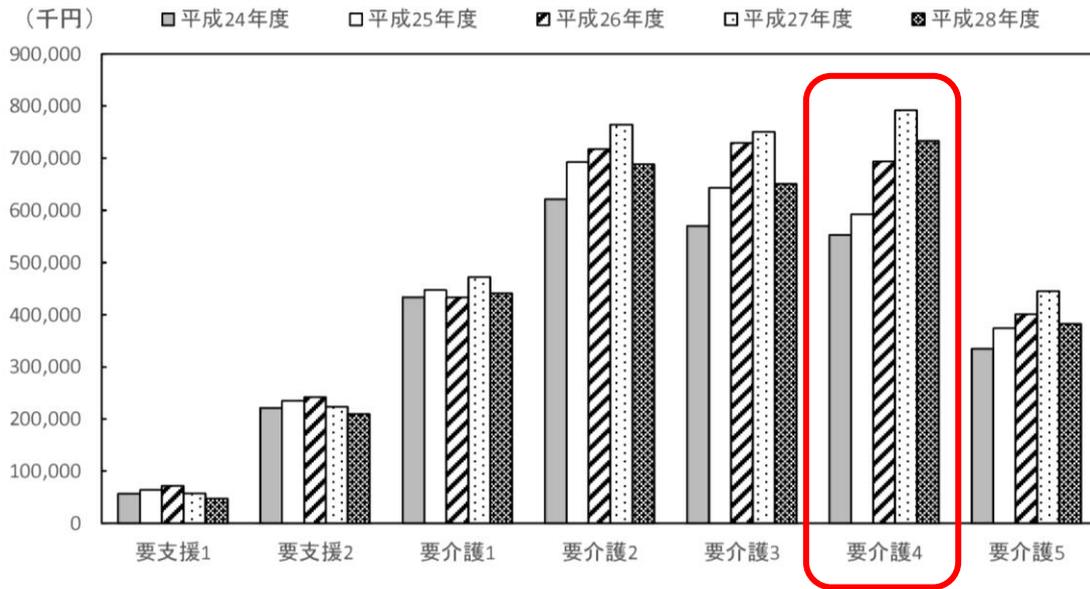
- ・通所系サービスの給付費では、要介護4の伸びが大きい。平成24年度は要介護2が最も高かったが、26年には要介護3が、27年度以降は要介護4の給付費がもっとも高くなっている。要介護5も給付費が伸びており、通所系サービス、特に通所介護で利用者の重度化が進行している。(P28～29)

表23 通所系サービス給付費

単位：千円

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
要支援1	56,314	63,749	71,909	56,977	46,843
要支援2	221,103	234,761	241,741	223,379	209,316
要介護1	433,629	447,230	433,020	472,487	441,140
要介護2	621,364	692,581	717,094	764,289	688,726
要介護3	569,978	643,140	729,456	750,050	650,999
要介護4	552,924	592,344	693,671	792,267	733,324
要介護5	334,238	374,540	400,459	444,943	382,283
計	2,789,549	3,048,346	3,287,350	3,504,393	3,300,251
要介護2の占有率	22.3%	22.7%	21.8%	21.8%	20.9%
要介護3の占有率	20.4%	21.1%	22.2%	21.4%	19.7%
要介護4の占有率	19.8%	19.4%	21.1%	22.6%	22.2%

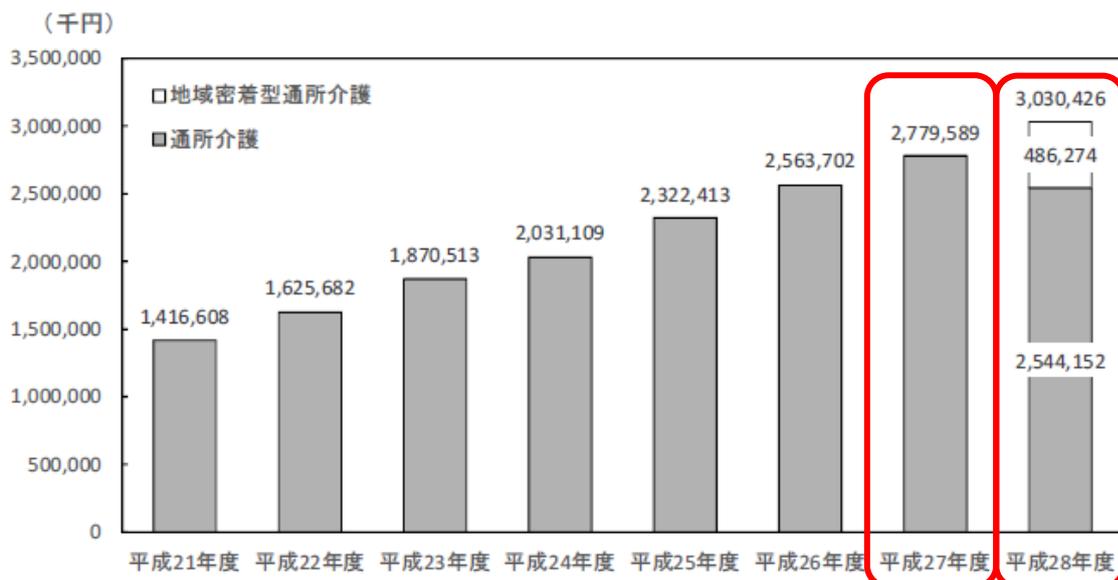
図22 通所系サービス給付費推移（要介護度別）



（介護保険_通所介護と地域密着型介護の合計）

- ・通所介護と地域密着型介護の給付費(H28)を合わせると、約30億円となる。平成27年度までの通所介護の給付額(28億円)を上回っており、第6期においても「通所介護」の給付費が着実に伸びていることが分かる。(P33)
- ・要介護別に給付費の伸びを見ると、要介護1から要介護5まで、平成28年度においても前年度を上回っており、特に要介護4の伸びが大きい。(P33)

図25 通所介護と地域密着型通所介護給付費推移



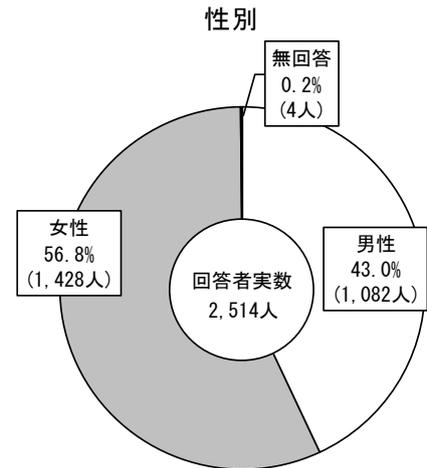
第2章 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果

(高齢者の状況)

- ・高齢者のうち、前期高齢者は 51.4%、後期高齢者は 48.5%で、僅かに前期高齢者の方が多くなっている。(P43)
- ・地区別に見ると、与那城地区のみ、後期高齢者の方が多くなっている。

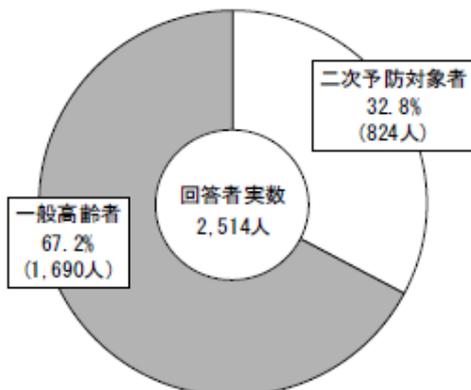
年齢（性別、地区別）

	回答者実数	前期高齢者	後期高齢者
全体	100.0% (2,514人)	51.4% (1,290人)	48.5% (1,220人)
男性	43.0% (1,082人)	56.7% (614人)	43.3% (468人)
女性	56.8% (1,428人)	47.3% (676人)	52.7% (752人)
勝連地区	11.4% (286人)	53.5% (153人)	46.5% (133人)
与那城地区	12.1% (303人)	44.6% (135人)	55.4% (168人)
具志川第1地区	26.7% (671人)	51.9% (348人)	48.1% (323人)
具志川第2地区	27.5% (692人)	54.3% (376人)	45.7% (316人)
石川地区	22.2% (558人)	49.8% (278人)	50.2% (280人)

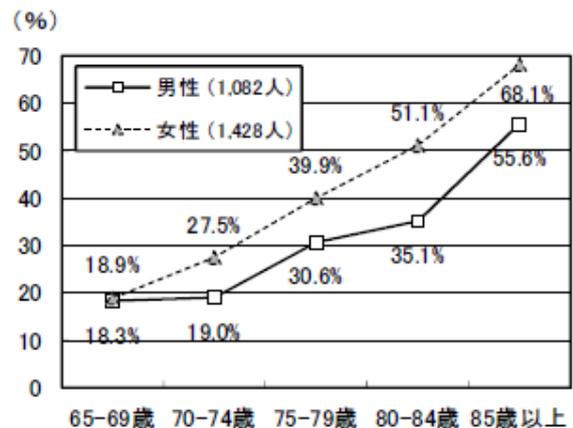


- ・要介護になるおそれのある方(二次予防対象者)は3割あまり。男性に比べて女性の方が高く、年齢が上がると割合も高くなっている。75歳～79歳で4割、80歳で5割、85歳では7割を占める。(P46)

二次予防対象者



二次予防対象者（男女年齢別）



(地域での活動について)

- ・社会参加の状況を見ると、「参加していない」という回答がもっとも高く 4 割程度を占めている。(P62)

社会参加

	週4回以上	週2~3回	週1回	月1~3回	年に数回	参加していない	無回答
ボランティアのグループ	1.0% (26人)	1.9% (47人)	0.9% (23人)	3.1% (78人)	3.9% (99人)	43.3% (1,088人)	45.9% (1,153人)
スポーツ関係のグループやクラブ	2.9% (72人)	4.9% (123人)	3.7% (94人)	3.9% (97人)	2.7% (68人)	39.7% (998人)	42.2% (1,062人)
趣味関係のグループ	2.5% (62人)	5.3% (133人)	6.2% (156人)	8.2% (206人)	3.3% (82人)	35.6% (896人)	38.9% (979人)
学習・教養サークル	0.5% (12人)	1.1% (28人)	1.4% (34人)	1.6% (40人)	2.1% (54人)	43.8% (1,101人)	49.5% (1,245人)
老人クラブ	1.6% (41人)	2.1% (53人)	1.9% (49人)	5.9% (149人)	4.5% (113人)	42.3% (1,064人)	41.6% (1,045人)
町内会・自治会	1.1% (27人)	1.0% (26人)	1.2% (30人)	5.1% (128人)	10.7% (269人)	37.2% (936人)	43.7% (1,098人)
収入のある仕事	8.2% (206人)	3.0% (75人)	1.0% (26人)	1.2% (30人)	1.6% (40人)	39.9% (1,002人)	45.1% (1,135人)

- ・地域づくりへの参加に前向きな声は 5 割半ばであるが、地域づくりへ企画・運営者としての参加意向は 3 割弱にとどまっている。地区別では、具志川第 2 地区と石川地区で、他の地区より参加意向が高い。(P63~64)

地域づくりへ参加者として参加したいか (性別、年齢別、地域別)

	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
男性	1,082人	7.9% (86人)	46.8% (506人)	37.8% (409人)	7.5% (81人)
女性	1,428人	14.7% (210人)	42.5% (607人)	33.0% (471人)	9.8% (140人)
65歳~69歳	806人	12.7% (102人)	50.4% (406人)	32.3% (260人)	4.7% (38人)
70歳~74歳	484人	12.0% (58人)	47.3% (229人)	33.5% (162人)	7.2% (35人)
75歳~79歳	500人	14.6% (73人)	44.4% (222人)	32.8% (164人)	8.2% (41人)
80歳~84歳	427人	9.1% (39人)	39.3% (168人)	36.8% (157人)	14.8% (63人)
85歳以上	293人	8.2% (24人)	30.0% (88人)	46.8% (137人)	15.0% (44人)
勝連地区	286人	11.9% (34人)	43.7% (125人)	35.7% (102人)	8.7% (25人)
与那城地区	303人	11.6% (35人)	40.6% (123人)	38.0% (115人)	9.9% (30人)
具志川第1地区	671人	12.5% (84人)	43.4% (291人)	36.7% (246人)	7.5% (50人)
具志川第2地区	692人	11.7% (81人)	46.1% (319人)	32.8% (227人)	9.4% (65人)
石川地区	558人	11.1% (62人)	45.7% (255人)	34.1% (190人)	9.1% (51人)

地域づくりへ企画・運営として参加したいか (地域別)

	回答者実数	是非参加したい	参加してもよい	参加したくない	無回答
勝連地区	286人	4.2% (12人)	27.6% (79人)	54.9% (157人)	13.3% (38人)
与那城地区	303人	3.0% (9人)	25.4% (77人)	59.1% (179人)	12.5% (38人)
具志川第1地区	671人	4.2% (28人)	28.2% (189人)	56.9% (382人)	10.7% (72人)
具志川第2地区	692人	3.9% (27人)	29.9% (207人)	53.8% (372人)	12.4% (86人)
石川地区	558人	4.8% (27人)	29.4% (164人)	54.3% (303人)	11.5% (64人)

(その他)

- 生活の中で支援してほしいことでは、一般高齢者より二次予防対象者の方で支援を必要としている。中でも「移動の支援」と「話し相手」、「買い物の支援」が一般高齢者よりも10ポイント以上高くなっている。(P78)

生活の中で支援を望むこと（二次予防対象者・一般高齢者別）

	回答者実数	話し相手	ときどき声をかけてほしい	買い物の支援(買ってきてほしい)	調理の支援	配食サービス(食事の提供)	みんなで食事をする機会(会食など)	移動の支援(送迎など)
二次予防対象者	824人	16.9% (139人)	12.7% (105人)	11.3% (93人)	7.4% (61人)	6.9% (57人)	6.4% (53人)	14.6% (120人)
一般高齢者別	1,690人	6.9% (116人)	4.8% (81人)	2.2% (37人)	1.5% (25人)	2.1% (36人)	3.6% (60人)	2.8% (47人)
「二次予防」と「一般高齢者」の差		10.0	7.9	9.1	5.9	4.8	2.8	11.8
	回答者実数	簡単な生活支援(ゴミ出し、掃除など)	庭の手入れ、片付け(台風前後など)	緊急時の通報システム	金銭管理の支援(成年後見制度など)	その他	無回答	
二次予防対象者	824人	9.2% (76人)	17.1% (141人)	13.0% (107人)	1.6% (13人)	8.0% (66人)	39.7% (327人)	
一般高齢者別	1,690人	2.4% (40人)	9.5% (161人)	6.9% (116人)	0.5% (8人)	12.1% (204人)	60.8% (1,027人)	
「二次予防」と「一般高齢者」の差		6.8	7.6	6.1	1.1	-4.1	-21.1	

(地区別の状況)

- 二次予防対象者の割合は、与那城地区が他の地区より高い。
- 地域参加では、具志川第1地区と具志川第2地区、石川地区は「趣味関係のグループ」への参加が比較的高い。与那城地区は「老人クラブ」と「町内会・自治会」への参加が比較的高い。勝連地区は、他の地区と比べて各種活動への参加がやや消極的な傾向となっている。(P84)

地域活動への参加

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
ボランティアのグループ	10.9% (273人)	11.5% (33人)	10.2% (31人)	11.2% (75人)	11.3% (78人)	9.9% (55人)
スポーツ関係のグループやクラブ	18.1% (454人)	13.3% (38人)	16.5% (50人)	21.3% (143人)	17.9% (124人)	17.2% (96人)
趣味関係のグループ	25.4% (639人)	14.3% (41人)	19.5% (59人)	28.5% (191人)	28.6% (198人)	26.2% (146人)
学習・教養サークル	6.7% (168人)	3.1% (9人)	6.3% (19人)	8.2% (55人)	7.8% (54人)	5.4% (30人)
老人クラブ	16.1% (405人)	12.9% (37人)	21.1% (64人)	16.5% (111人)	16.2% (112人)	14.5% (81人)
町内会・自治会	19.1% (480人)	10.8% (31人)	21.1% (64人)	18.3% (123人)	19.5% (135人)	22.4% (125人)
収入のある仕事	15.0% (377人)	13.6% (39人)	14.5% (44人)	14.3% (96人)	14.2% (98人)	17.4% (97人)

- ・地区別にリスク者を比較すると、与那城地区ではほとんどの項目でリスク者割合が市の値を上回っている。勝連地区では「閉じこもり傾向」と「IADL低下」が市全体よりやや高い。具志川第1地区、具志川第2地区、石川地区の3地区は、僅かに高い項目も見受けられるが、概ね市全体と同程度のリスク者割合となっている。(P85)

リスク者割合の比較

	うるま市	勝連地区	与那城地区	具志川第1地区	具志川第2地区	石川地区
二次予防対象者	32.8% (824人)	29.4% (84人)	37.3% (113人)	32.0% (215人)	32.8% (227人)	33.2% (185人)
運動器の機能低下	20.8% (523人)	19.2% (55人)	27.1% (82人)	21.0% (141人)	18.9% (131人)	20.4% (114人)
転倒リスク	29.3% (737人)	23.8% (68人)	32.3% (98人)	29.1% (195人)	29.9% (207人)	30.3% (169人)
閉じこもり傾向	23.9% (601人)	29.7% (85人)	32.7% (99人)	23.8% (160人)	20.8% (144人)	20.3% (113人)
低栄養の傾向	0.8% (20人)	0.7% (2人)	0.7% (2人)	1.0% (7人)	0.7% (5人)	0.7% (4人)
口腔機能低下	20.0% (504人)	12.9% (37人)	23.8% (72人)	18.9% (127人)	21.1% (146人)	21.9% (122人)
うつ傾向	39.7% (998人)	34.3% (98人)	39.3% (119人)	40.8% (274人)	40.9% (283人)	40.0% (223人)
認知機能低下	38.0% (955人)	37.8% (108人)	42.2% (128人)	36.4% (244人)	38.7% (268人)	36.9% (206人)
IADLの低下	19.1% (479人)	24.1% (69人)	27.7% (84人)	18.2% (122人)	15.0% (104人)	17.9% (100人)
知的能動性の低下	51.6% (1,298人)	53.8% (154人)	61.7% (187人)	51.6% (346人)	48.3% (334人)	49.3% (275人)
社会的役割の低下	44.7% (1,123人)	47.2% (135人)	43.9% (133人)	44.7% (300人)	44.9% (311人)	43.4% (242人)

(世帯別の状況)

- ・リスク者の割合を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」と「息子・娘との2世帯」では多くの項目でリスク者割合がやや高くなっている。(P88)

リスク者割合の比較(世帯別)

	1人暮らし	夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	息子・娘との 2世帯	その他
二次予防	36.4% (223人)	28.6% (169人)	18.3% (26人)	37.2% (173人)	33.0% (191人)
運動器の機能低下	22.0% (135人)	16.4% (97人)	8.5% (12人)	27.3% (127人)	20.9% (121人)
転倒リスク	35.1% (215人)	26.1% (154人)	22.5% (32人)	30.3% (141人)	27.9% (161人)
閉じこもり傾向	26.1% (160人)	18.0% (106人)	22.5% (32人)	28.4% (132人)	24.9% (144人)
低栄養の傾向	0.8% (5人)	0.7% (4人)	2.1% (3人)	0.9% (4人)	0.5% (3人)
口腔機能低下	24.5% (150人)	18.1% (107人)	13.4% (19人)	18.3% (85人)	20.4% (118人)
うつ傾向	45.5% (279人)	38.0% (224人)	41.5% (59人)	36.3% (169人)	37.9% (219人)
認知機能低下	37.8% (232人)	34.9% (206人)	35.2% (50人)	45.2% (210人)	36.0% (208人)
IADLの低下	14.5% (89人)	14.4% (85人)	16.9% (24人)	28.8% (134人)	21.1% (122人)
知的能動性の低下	59.4% (364人)	43.7% (258人)	44.4% (63人)	58.9% (274人)	49.5% (286人)
社会能動性の低下	50.1% (307人)	41.4% (244人)	46.5% (66人)	45.6% (212人)	43.4% (251人)

(歯の健康とリスクとの関係)

- ・リスク者割合を噛み合わせの良い・悪いで比べると、すべての項目について、「噛み合わせが悪い」人の方でリスク者割合が高くなっている。また、「歯は19本以下」の方が「歯は20本以上」よりリスク者割合の高い項目が多くなっている。(P89)
- ・歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していると思われる。

リスク者割合の比較（歯の状況別）

	かみ合わせ		入れ歯の状況			
	良い	悪い	自分の歯は20本以上		自分の歯は19本以下	
			入れ歯を利用	入れ歯の利用なし	入れ歯を利用	入れ歯の利用なし
二次予防	25.0% (451人)	55.9% (330人)	27.9% (83人)	21.0% (103人)	37.3% (463人)	35.6% (115人)
運動器の機能低下	16.1% (291人)	34.4% (203人)	15.4% (46人)	11.4% (56人)	24.9% (309人)	21.4% (69人)
転倒リスク	25.9% (468人)	39.2% (231人)	32.2% (96人)	24.6% (121人)	30.5% (379人)	28.5% (92人)
閉じこもり傾向	20.3% (366人)	34.7% (205人)	19.5% (58人)	13.6% (67人)	26.3% (326人)	28.8% (93人)
低栄養の傾向	0.6% (11人)	1.5% (9人)	0.7% (2人)	1.0% (5人)	0.7% (9人)	1.2% (4人)
口腔機能低下	13.5% (243人)	40.5% (239人)	18.1% (54人)	12.6% (62人)	22.4% (278人)	25.1% (81人)
うつ傾向	35.6% (642人)	53.6% (316人)	39.9% (119人)	35.2% (173人)	40.9% (508人)	43.3% (140人)
認知機能低下	34.0% (614人)	50.5% (298人)	42.3% (126人)	28.9% (142人)	41.0% (509人)	35.6% (115人)
IADLの低下	15.9% (287人)	28.5% (168人)	13.4% (40人)	10.8% (53人)	22.2% (275人)	22.9% (74人)
知的能動性の低下	47.0% (847人)	67.3% (397人)	41.9% (125人)	36.7% (180人)	56.5% (701人)	64.7% (209人)
社会能動性の低下	40.7% (734人)	59.0% (348人)	38.6% (115人)	38.1% (187人)	46.9% (582人)	54.8% (177人)

第4章 考察

●高齢者の状況

本市の高齢者数は増加を続けており、今後も増え続けることが予測されますが、後期高齢者は第7期計画期間については、横ばい傾向で推移すると見込まれます。

しかし、全国的に団塊の世代が後期高齢者になる平成37年（2025年）以降は、市でも後期高齢者が急増する推計されています。後期高齢者が増えると介護を必要とする高齢者も増大することが予想されるため、今の段階から介護予防や高齢者の生きがい、地域の見守り活動などの対策等を図り、“元気な高齢者と支え合いの地域”づくりの基礎的体制を構築する必要があります。

なお、高齢者の見守りについては、特に一人暮らし高齢者について、「地域見守り隊」を結成し活動している自治会もあります。また、地域福祉計画策定の際に実施した自治会長や民生委員・児童委員への小アンケート（平成28年12月実施）では、「一人暮らし高齢者が増えてきており、今後は見守り活動が一層必要」という声も多くありました。見守り活動の拡充や未結成地区への結成を促進し、地域の支え合い体制の基礎としていくことも一考です。

●介護保険サービス

本市の認定者数は増加を続けていますが、平成28年には前年までの伸びよりやや緩やかになっています。しかし、介護給付費はこれまでと概ね同様の伸びで増加を続けており、特に通所介護においては、平成28年度から地域密着型通所介護に移行した分を合わせると、前年度より伸びており、その給付費は30億円になると見込まれます。これは施設サービス給付費の23億円をも上回っており、通所介護の増大が大きな課題となっています。

さらに、通所系サービス（特に通所介護）では、要介護2～要介護4で毎年給付費が伸びており、特に要介護4の伸びが大きく、通所介護利用の重度化が見られます。通所介護を重度者が利用する要因としては、利用者本人の「生きがい、楽しみ」のほか、家族介護者の「介護疲れ解消」のための通所利用も考えられます。通所介護が望まれる理由もさらに分析しながら、新しい総合事業等による通所サービス対応や、地域ミニデイサービス、高齢者サロン、あるいは隣近所のお茶飲み会、生きがい活動などによる「生きがい、楽しみ」の機会を身近な地域に増やしていくなど、新たな展開を図る必要があります。

●介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

本調査は、運動器の機能低下や転倒リスク、閉じこもりリスク、認知機能低下リスクなど、身体機能を中心とした各種リスク者の把握及び地域社会への参加意向を把握し、地域診断を目的として実施しました。

各種リスクのリスク者割合は、男性よりも女性の方が多く、また年齢が上がるとともにリスク者割合も高くなる傾向が見られます。地区別に見ると、与那城地区ではほとんどのリスクが

市全体の値を上回っていました。与那城地区は5地区のうちでは唯一、後期高齢者の割合が前期高齢者を上回っています。介護保険の認定率も後期高齢者になると急増することから、後期高齢者の多い地域では各種リスク者も多くなると考えられます。なお、具志川第1地区、具志川第2地区、石川地区は市全体のリスク者割合とあまり変わらず、また勝連地区では閉じこもりリスク者の割合やIADL（買い物や選択、掃除など、手段的日常生活動作）のリスク者割合が高めとなっていました。

各種リスク者の割合を世帯別に見ると、「1人暮らし高齢者」と「息子・娘と2世帯」でリスク者割合の高い項目が多くなっています。1人暮らしは同居者がいないために支えが必要と考えられ、隣近所が気にかけたり、見守り活動の訪問先対象にあげられると思われれます。しかし、息子や娘と二人で暮らしている高齢者についても、リスク者が多いことが本調査でわかりました。地域での見守りや福祉サービス提供等の際には、一人暮らし高齢者だけではなく、息子や娘と二人暮らしの高齢者にも目を向けることが必要と考えます。

また、歯の状態と各種リスク者の割合について見ると、歯のかみ合わせが悪い人は、すべての項目でかみ合わせが良い人よりリスク者割合が高くなっていました。さらに自分の歯が19本以下の人は、20本以上の人よりも多くの項目でリスク者割合が高い傾向が見られました。これらのことから、歯の健康と身体機能等の低下リスクは大きな関係があると考えられ、特に「かみ合わせ」と「自分の歯が20本以上あること」がポイントとなっています。今後の介護予防や健康づくりにおいては、高齢者（または高齢者になる前の段階から）の歯の健康の取り組みも強化することも必要と考えます。

資料編

★高齢者介護予防・日常生活把握調査★

【 調 査 票 】

- 調査票を記入する際は、各項目で該当する数字に○をつけてください。
- 調査票記入後は、同封の返信用封筒に入れて、

1月20日(金)までにポストに投函してください。

記 入 日	平成	年	月	日
調査票を記入されたのはどなたですか。○をつけてください。				
1. あて名のご本人が記入				
2. ご家族が記入				
(あて名のご本人からみた続柄_____)				
3. その他				

※以下はあて名のご本人の情報を記入してください。

年齢・性別	()歳	男	・	女
生年月日	明治・大正・昭和	年	月	日

<お問い合わせ先> うるま市役所 介護長寿課 介護管理係
電話：098-973-3208

個人情報の取り扱いについて

個人情報の保護および活用目的は以下のとおりですので、ご確認ください。

なお、本調査票のご返送をもちまして、下記にご同意いただいたものと見なさせていただきます。

【個人情報の保護および活用目的について】

- この調査は、市内にお住まいの高齢者の状況などを把握し、介護予防の取り組みなどを検討するために行うものです。本調査で得られた情報につきましては、本市の介護保険事業計画策定の目的以外には利用いたしません。また、ご回答いただいた情報については、本市で適切に管理いたします。
- ただし、本調査で得られた情報は、厚生労働省に登録し、全国的な集計・分析に活用することがあります。

問 1 あなたの家族や生活状況について

(1) 家族構成をお教えてください

1. 1人暮らし
2. 夫婦2人暮らし(配偶者が65歳以上)
3. 夫婦2人暮らし(配偶者が64歳以下)
4. 息子・娘との2世帯
5. その他

(2) あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか

1. 介護・介助は必要ない
2. 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
3. 現在、何らかの介護を受けている
(介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む)

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

①介護・介助が必要になった主な原因はなんですか(いくつでも)

1. のうそっちゅう 脳卒中 (のうしゅっけつ・のうこうそく 脳出血・脳梗塞等)
2. 心臓病
3. がん(悪性新生物)
4. 呼吸器の病気 (はいきしゅ 肺気腫・肺炎等)
5. 関節の病気(リウマチ等)
6. にんちしょう 認知症(アルツハイマー病等)
7. パーキンソン病
8. とうによびょう 糖尿病
9. 腎疾患(透析)
10. しかく 視覚・ ちようかくしょうがい 聴覚障害
11. こっせつ 骨折・ てんとう 転倒
12. せきついそんしょう 脊椎損傷
13. 高齢による すいじゃく 衰弱
14. その他 ()
15. 不明

【(2)において「1. 介護・介助は必要ない」以外の方のみ】

②主にどなたの介護・介助を受けていますか(いくつでも)

1. 配偶者(夫・妻)
2. 息子
3. 娘
4. 子の配偶者(嫁、むこ)
5. 孫
6. 兄弟・姉妹
7. 介護サービスのヘルパー
8. その他 ()

(3) 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか

1. 大変苦しい 2. やや苦しい 3. ふつう
4. ややゆとりがある 5. 大変ゆとりがある

(4) お住まいは一戸建て、または集合住宅のどちらですか

1. 持家（一戸建て） 2. 持家（集合住宅）
3. こうえいちんたいじゅうたく 公営賃貸住宅（県営、市営、官舎等） 4. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（一戸建て）
5. みんかんちんたいじゅうたく 民間賃貸住宅（集合住宅、アパート等） 6. 借間
7. その他（社宅など）

問2 からだを動かすことについて

(1) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(2) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(3) 15分位続けて歩いていますか

1. できるし、している 2. できるけどしていない 3. できない

(4) 過去1年間に転んだ経験がありますか

1. 何度もある 2. 1度ある 3. ない

(5) 転倒に対する不安は大きいですか

1. とても不安である 2. やや不安である 3. あまり不安でない 4. 不安でない

(6) 週に1回以上は外出していますか

1. ほとんど外出しない 2. 週1回 3. 週2~4回 4. 週5回以上

(7) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか

1. とても減っている 2. 減っている
3. あまり減っていない 4. 減っていない

(8) 外出を控えていますか

1. はい 2. いいえ

【(8)で「1. はい」(外出を控えている)の方のみ】

①外出を控えている理由は、次のどれですか(いくつでも)

1. 病気 2. 障害(脳卒中^{しょうがい のうそっちゅう}の後遺症^{こういしょう}など)
3. 足腰などの痛み 4. トイレの心配(失禁など)
5. 耳の障害(聞こえの問題など) 6. 目の障害
7. 外での楽しみがない 8. 経済的に出られない
9. 交通手段がない 10. その他()

(3) 今日が何月何日かわからない時がありますか		
1. はい	2. いいえ	
(4) 物をしまった場所がわからなくなることがありますか		
1. はい	2. いいえ	
(5) バスや電車を使って1人で外出していますか(自家用車でも可)		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6-1) 自分で食品・日用品の買物をしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(6-2) 【(6-1)で「2. できるけどしていない」「3. できない」の方のみ】 買い物しない、できない理由はなんですか。(いくつでも)		
1. 近くに店がない	2. 交通手段がない	3. 家族等が買っている
4. 外出したくない	5. 身体的にできない(歩けない、息切れ等)	
6. 経済的理由	7. 自分で買い物している	
8. 宅配を利用している。	9. その他 ()	
(7) 自分で食事の用意をしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(8) 自分で請求書の支払いをしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない
(9) 自分で預貯金の出し入れをしていますか		
1. できるし、している	2. できるけどしていない	3. できない

(10) 年金などの書類（役所や病院などに出す書類）が書けますか	
1. はい	2. いいえ
(11) 新聞を読んでいますか	
1. はい	2. いいえ
(12) 本や雑誌を読んでいますか	
1. はい	2. いいえ
(13) 健康についての記事や番組に関心がありますか	
1. はい	2. いいえ
(14) 友人の家を訪ねていますか	
1. はい	2. いいえ
(15) 家族や友人の相談にのっていますか	
1. はい	2. いいえ
(16) 病人を見舞うことができますか	
1. はい	2. いいえ
(17) 若い人に自分から話しかけることがありますか	
1. はい	2. いいえ

(18) 趣味はありますか

1. 趣味あり \longrightarrow ()

2. 思いつかない

(19) 生きがいはありますか

1. 生きがいあり \longrightarrow ()

2. 思いつかない

問5 地域での活動について

(1) 以下のような会・グループ等にどのくらいの頻度で参加していますか
※① - ⑦それぞれに回答してください

	週4回 以上	週2 ~3回	週1回	月1 ~3回	年に 数回	参加して いない
① ボランティアのグループ	1	2	3	4	5	6
② スポーツ関係のグループ やクラブ	1	2	3	4	5	6
③ 趣味関係のグループ	1	2	3	4	5	6
④ 学習・教養サークル	1	2	3	4	5	6
⑤ 老人クラブ	1	2	3	4	5	6
⑥ 町内会・自治会	1	2	3	4	5	6
⑦ 収入のある仕事	1	2	3	4	5	6

(2) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

(3) 地域住民の有志によって、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか

1. 是非参加したい 2. 参加してもよい 3. 参加したくない

問6

たすけあいについて

あなたとまわりの人の「たすけあい」についておうかがいします

(1) あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(2) 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(3) あなたが病気で数日間寝込んだときに、看病や世話をしてくれる人（いくつでも）

1. 配偶者 2. 同居の子ども 3. 別居の子ども
4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 5. 近隣 6. 友人
7. その他（ ） 8. そのような人はいない

(4) 反対に、看病や世話をしてくれる人 (いくつでも)

- | | | |
|----------------|---------------|-----------|
| 1. 配偶者 | 2. 同居の子ども | 3. 別居の子ども |
| 4. 兄弟姉妹・親戚・親・孫 | 5. 近隣 | 6. 友人 |
| 7. その他 () | 8. そのような人はいない | |

(5) 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください
(いくつでも)

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1. 自治会・町内会・老人クラブ | 2. 社会福祉協議会・民生委員 |
| 3. ケアマネジャー | 4. 医師・歯科医師・看護師 |
| 5. 地域包括支援センター・役所・役場 | 6. その他 |
| 7. そのような人はいない | |

(6) 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 1. 毎日ある | 2. 週に何度かある | 3. 月に何度かある |
| 4. 年に何度かある | 5. ほとんどない | |

(7) この1か月間、何人の友人・知人と会いましたか。
同じ人には何度会っても1人と数えることとします。

- | | | |
|-------------|----------|---------|
| 1. 0人 (いない) | 2. 1~2人 | 3. 3~5人 |
| 4. 6~9人 | 5. 10人以上 | |

(8) よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(いくつでも)

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 1. 近所・同じ地域の人 | 2. 幼なじみ | 3. 学生時代の友人 |
| 4. 仕事での同僚・元同僚 | 5. 趣味や関心が同じ友人 | |
| 6. ボランティア等の活動での友人 | | |
| 7. その他 | 8. いない | |

問7 健康について

(1) 現在のあなたの健康状態はいかがですか

1. とてもよい 2. まあよい 3. あまりよくない 4. よくない

(2) あなたは、現在どの程度幸せですか
(「とても不幸」を0点、「とても幸せ」を10点として、ご記入ください)

とても
不幸

とても
幸せ

0点 1点 2点 3点 4点 5点 6点 7点 8点 9点 10点

(3) この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか

1. はい 2. いいえ

(4) この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか

1. はい 2. いいえ

(5) お酒は飲みますか

1. ほぼ毎日飲む 2. 時々飲む 3. ほとんど飲まない
4. もともと飲まない

(6) タバコは吸っていますか

1. ほぼ毎日吸っている 2. 時々吸っている 3. 吸っていたがやめた
4. もともと吸っていない

(7) 現在治療中、または後遺症のある病気はありますか (いくつでも)

- | | | |
|--|--|--|
| 1. ない | 2. 高血圧 | 3. <small>のうそちゅう</small> 脳卒中 (<small>のうしゅっけつ</small> 脳出血・ <small>のうこうそく</small> 脳梗塞等) |
| 4. 心臓病 | 5. <small>とうによびょう</small> 糖尿病 | 6. <small>こうしけっしょう</small> 高脂血症 (<small>ししつじょう</small> 脂質異常) |
| 7. 呼吸器の病気 (肺炎や気管支炎等) | 8. 胃腸・肝臓・胆のうの病気 | |
| 9. <small>じんぞう</small> 腎臓・ <small>ぜんりつせん</small> 前立腺の病気 | 10. <small>きんこっかく</small> 筋骨格の病気 (<small>こつそ</small> 骨粗しょう症、 <small>しょう</small> 関節症等) | |
| 11. <small>がいしょう</small> 外傷 (<small>てんとう</small> 転倒・ <small>こっせつ</small> 骨折等) | 12. がん (悪性新生物) | 13. 血液・ <small>めんえき</small> 免疫の病気 |
| 14. うつ病 | 15. <small>にんちしょう</small> 認知症 (アルツハイマー病等) | 16. パーキンソン病 |
| 17. 目の病気 | 18. 耳の病気 | 19. その他 () |

問8 その他

(1) 生活の中で支援を望むことはありますか (いくつでも)

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1. 話し相手 | 2. ときどき声をかけてほしい |
| 3. 買い物の支援 (買ってきてほしい) | 4. 調理の支援 |
| 5. 配食サービス (食事の提供) | 6. みんなで食事をする機会 (会食など) |
| 7. 移動の支援 (送迎など) | 8. 簡単な生活支援 (ゴミ出し、掃除など) |
| 9. 庭の手入れ、片付け (台風前後など) | 10. 緊急時の通報システム |
| 11. 金銭管理の支援 (成年後見制度など) | 12. その他 () |

(2) 健康づくりや介護予防のために支援してほしいことはなんですか (いくつでも)

1. 自宅でできる健康体操を教えてください
2. 介護予防のための情報がほしい
3. 認知症に関する情報がほしい
4. 運動できる場や運動する機会がほしい
5. いっしょに健康づくりする仲間を教えてください
6. その他 ()
7. 特に必要ない

あなたが日頃困っていることやご意見、ご要望などがあればご自由にお書きください

■■■以上で調査は終了です。ご協力ありがとうございました■■■

